七　日中通商条約改訂問題

523

昭和3年1月(11)日　在中国芳沢公使より田中外務大臣宛（電報）

差等税率案を基礎とした協定税率交渉申入れを急いだ方が得策である旨意見具申

北京　発
本省　1月11日後着

※通第一号
往電第一九号（六〇一文書）ニ関シ

十一日更ニ「エドワース」ノ堀ニ対スル説明ニ依レハ七種差等税率実施方ノ件ハ近々南北両政府ヨリ各国政府ニ回答ヲ求メ来ルヘク上海会議ハ専ラ国定税率ヲ議スル事トナルヘシトノ事ナリ

就テハ客年往電通第九〇号（編注）右差等税率ヲ基礎トシテ協定税率商議方支那側ニ申込ム件ハ我方ノ懸引トシテモ早目ニ行フ方得策ナルヤニ思考セラルルニ付テハ速ニ御詮議ノ上御回訓ヲ請フ

編注　『日本外交文書』昭和期Ⅰ第一部第一巻六四七文書参照。

524

昭和3年1月(13)日　在中国芳沢公使より田中外務大臣宛（電報）

条約廃棄問題に関する対中国共同提議に米国不参加について

北京　発
本省　1月13日後着

※第三〇号
客年往電第一四〇二号（編注一）ニ関シ

十二日米国公使来訪米国政府ヨリ電訓ニ接セルカ右ニ依レハ米支条約ノ期限到来迄ニハ尚六年ヲ余スカ故ニ米国ハ今日ヨリ其執ルヘキ措置及支那政府ニ申入ルル文書ノ書振等ニ付「コンミット」スル能ハス故ニa案（客年往電第一四〇三号（編注二））ニ関スル限リ米国ハ参加スル能ハス唯b案（客年往電第一四〇四号）ニ付テハ非公式ニ自分ノ「インフルエンス」ヲ用フルコト差支ナシト云フニアリ依テ他ノ諸国カb案ニ付外交部ニ同文通牒ヲ送ルモノトスレハ自分独リハ外交部ニ出頭シテ口頭ヲ以テ意見ヲ述フルコトトシテ可ナリト云フ結果トナルト述ヘタリ尚同公使ハ米国ノ態度カ右ノ通ニテ列国ト完全ナル協調ヲ遂クルコト能ハサルハ遺憾ノ次第ナルカ右ノ如キ米国ノ態度カ列国ノ協調ニ影響ヲ及ホスコトナキヤ否ヤト尋ネタルニ付本使ハ小国ナラハ兎モ角米国ノ如キ大国カ協調ヨリ離脱スルコトハ甚タ望マシカラサル処ナリ列国トシテハ成ルヘク米国ノ協調ニ加フルカ如キ形式ヲ執ルコト得策ナリト認ムルカ故ニ若シb案ニ付貴公使独リ外交部ニ出頭口頭ニテ申入ルルコトトナラハ他ノ諸国モ又貴公使ノ如クロ頭ヲ以テ申入ルルコトトシテハ如何ト思ハルト答ヘタル上尚意見ヲ交換シタル結果米国公使ヨリ首席公使ニ対シテ過日ノ六国公使会議ニ西班牙公使ヲ加ヘ七国公使会議開催方ヲ申入ルルコトトナリタリ

編注一　『日本外交文書』昭和期Ⅰ第一部第一巻六四九文書参照。

二　『日本外交文書』昭和期Ⅰ第一部第一巻六四九文書別電参照。

525

昭和3年1月(16)日　在中国芳沢公使より田中外務大臣宛（電報）

北京政府の通商条約改訂期限三か月延長方申入れについて

北京　発
本省　1月16日後着

※通第二号

十六日外交部沈秘書ヨリ電話ニテ支那政府ニ於テハ日支通商条約改訂期限ヲ従来ノ例ニ従ヒ本月二十日ヨリ更ニ三ケ月間延長シタキ処右ニ対スル日本政府ノ意向ヲ出来得ヘクムハ十八日迄ニ承知致度旨申出アリタリ右期日前反対ノ御訓令ニ接セサル限リ従来通承諾方取計置クヘキニ付右御諒承相成度

526

昭和3年1月17日　田中外務大臣より在中国芳沢公使宛（電報）

税率協定に関する具体案の即時提出は不可能

につき暫く会談見合せ方訓令

本　省　1月17日発

※通第二号（ママ）

貴電通第一号及客年通第九〇号（五二三文書）（編注）ニ関シ

貴見一応尤モナルモ何分往電通第一号ノ通リノ事情ニテ今直ニ具体案ノ提出ハ不可能ナル処幸ヒ支那年関モ間近ノ事ニテモアリ本件ハ今暫ク会談ヲ見合ハサレ度尤モ之カ為特ニ憂慮スヘキ事態ヲ生スル虞アル場合ハ改メテ請訓アリ度シ

編　注　『日本外交文書』昭和期Ⅰ第一部第一巻六四七文書参照。

527　昭和3年1月(19)日　在中国芳沢公使より田中外務大臣宛（電報）

条約廃棄問題に関する外交団会議について

北　京　発

本　省　1月19日後着

※第七四号

十九日外交団会議開催先ツ首席公使ヨリ客年往電第一三一号最初ノ提案ハ余リニ ambitious ナル事ヲ発見シタル故二三同僚トモ協議ノ結果差当リ之カ遂行ヲ差控ヘ更ニ自分ノ手許ニ於テ客年往電第一四〇三号（編注）及往電第一四〇四号a及b案（十八日ノ会議ニ於テ両案中主体カⅠトナリ居ルヲ the government ト変更セリ）ヲ作成シタリトテ各公使ノ意見ヲ求メタルニ西班牙公使ハ南京政府ヨリ昨年十一月二十三日付ヲ以テ従来ノ西支条約ヲ無効トスル旨ノ通告ヲ受ケタルニ付本国政府ニ請訓セシニ同政府ヨリ未タ南京政府ヲ承認セサレハ右ノ如キ通告ヲ認ムル能ハストノ回訓ニ接シタリト披露シタリa及b両案ニ付テハ今既ニ条約ヲ廃棄セラレタルハ白耳義及西班牙ノ両国ニシテ又近ク期限ノ到来スルモノハ丁抹、伊国及葡萄牙ノ三国ナル処伊国ハ兎ニ角トシテ丁抹及葡萄牙両公使ハ種々ノ議論ヲ述ヘ殊ニ丁抹公使ハa案ヲ閲見スルニ支那ニ対シ可ナリ強硬ナル態度ヲ示ス次第ナルカ当事国カ此ノ通告ヲ北京政府ニ送致シ同時ニ他ノ諸国公使ヨリ口頭ヲ以テb案ノ如キ通告ヲ為スハ果シテ効力アリヤ疑ハシク且北京政府ニ通告ヲ為ストスルモ南方政府ハ一向之ヲ認メサルヘキカ故ニ列国ノ執ルヘキ措置ハ南方ニ対シテハ何等ノ効果無カルヘシ従テ自分一己ノ意見トシテハ北方政府カ若シ丁抹トノ条約ヲ廃棄スル措置ニ出ツル場合ニハ丁抹ノ権利ヲ留保シテ成行キニ委ス方然ルヘシト思考ストノ意見ヲ述ヘ更ニ白耳義公使ハa案中段ニハ refusing in the Belgian case ナル文句アルモ之ハ事実ニ合致セスト注意シタル結果之ニ代フルニ showing on unwillingness ヲ挿入スルコトトシ尚b案末段 it therefore endorses ノ次ニ the principle embodied ヲ追加スルコトニ修正シ兎ニ角各公使モ之ヲ折合ヒ夫々本国政府ニ請訓スルコトニ決定セリ

編　注　『日本外交文書』昭和期Ⅰ第一部第一巻六四九文書別電参照。

528　昭和3年1月20日　田中外務大臣より在中国芳沢公使宛（電報）

条約廃棄問題に関する対中国共同提議案の趣旨に異議なき旨について

本　省　1月20日後発

※第二四号

貴電第三〇号（五二四文書）及第六六号ニ関シ

支那側条約廃棄ニ対抗上関係列国協調ノ要アルコト貴見ノ通リニシテ従テ我方ハ本案ニ対シ大体異存ナキモ只（a）案中ニ国際司法裁判所ニ提訴ノコトヲ述ヘアル関係上（b）案ヲ以テ之ヲ支持セハ（「b」案末段ニ endorse the communication 云々トアル為）将来支那側ヨリ提訴アリタル際応訴ヲ拒ムコト困難トナルカ如キ事態ヲ発生スルコトナキヤモ一応懸念セラルル処御承知ノ通リ我国ハ国際司法裁判条約ニ於テ応訴義務ヲ認メ居ラサルノミナラス応訴ト否トハ現実廃棄ヲ受ケタル場合ノ情勢ニ依リ判断スヘキモノナルヲ以テ今日ヨリ我方ノ立場ヲ「コムミツト」スル嫌アルコトハ成ルヘク之ヲ避ケ度キニ付出来得レハ右ノ如キ万一ノ虞ナキ様口上書ヲ残スコトトモナレハ（b）案末段ノ文句ヲ適当ニ改ムルコトト致度シ尤モ今迄ノ行懸上右困難ナラハ（b）案カ口頭申入ニ決定シタルニモ鑑ミ原案通リニテ差支ナシ

尚（a）案ハ米国ノ反対モアリ将来支那ヨリ廃棄ヲ受ケタル国ハ凡テ一律厳重ニ右形式ノ文辞ニ依リ抗議スヘキコトヲ今日ヨリ約束スル趣旨ニハアラサルモノト諒解ス為念

529　昭和3年1月(21)日　在中国芳沢公使より田中外務大臣宛（電報）

互恵税率協定の提議は機を逸すべきでない旨の意見具申

北京　発
本省　1月21日後着

第九一号*
貴電通第二号(五二六文書)末段ニ関シ
支那側ヲシテ条約ヲ列国並ニ廃棄ノ措置ニ出テサラシムル為ニハ幾分商議ヲ継続シ支那側ヲシテ内外ニ向ツテ何事カ進行シツツアル様体面ヲ繕ハシムル必要アル次第ナルカ我方カ大体論及質疑批評ノ方法ヲ以テ商議ヲ進ムルコトトスルモ支那側ハ具体的要求ヲ突付ケテ我ノ承認ヲ求メ来リ之カ応酬ハ甚タ困難ナルモノアリ今回商議期間ノ延長後ハ我ニ於テ何等カノ術策ヲ施ササル限リ四月迄之ヲ引張ルコトハ至難ト認メラル現ニ昨今支那側ハ新聞紙上ニ日本側ハ条約商議ニ於テ徒ニ遷延策ヲ施シツツアル旨宣伝シ居ル有様ニテ若シ斯ノ如ニシテ商議全ク停頓ニ陥リタル後ニ於テ互恵税率協定ノ申込ヲ為ストキハ支那側ヲシテ我真意ニ疑惑ヲ挟マシメ其結果面白カラサルニ付若シ本件申込ヲ為ストセハ今日ヲ逸スヘカラサル儀ト思考ス而シテ四月二十日更ニ三ケ月ノ延長ヲ見ルニ於テハ七月ニ入ラハ、伊国、丁抹等ノ条約廃棄問題ニ対スル列国ノ共同対抗計画モ何等カノ形ニ於テ具体化シ居ルヘク従テ我立場ハ相当ニ強メラルヘキ順序トナル御再考ハ困難ナル事情有之儀ト想像スルモ貴電ニ所謂憂慮スヘキ事態ハ已ニ発生シ居ル状態ナルコトヲ貴聞ニ達シ置キタシ

530　昭和3年4月(22)日　在中国芳沢公使より田中外務大臣宛（電報）

北京政府の通商条約改訂期限再延長方申入れについて

北京　発
本省　4月22日後着

通第八号*
往電通第二号(五二五文書)ニ関シ
二十一日陳外交部秘書ヨリ電話ニテ日支通商条約改訂期限ヲ更ニ三箇月間延長シタキ処国務会議ニ付議スル為公文ニテ申入ルル迄ニハ手続上多少ノ時日ヲ必要トスヘキニ付不取敢我方ノ意向承知シ度キ旨申出アリタルニ付テハ公文接到ノ際ハ従来通リ承諾方取計置ク可キニ付御含ヲ請フ

531　昭和3年6月(21)日　在中国芳沢公使より田中外務大臣宛（電報）

国民政府との通商条約改訂交渉にあたり根本的方針を樹立すべき旨意見具申

北京　発
本省　6月21日後着

通第一〇号*
通商条約改訂ニ関シテハ本年三月十三日以後時局ノ影響ヲ受ケテ小委員会ノ開催ヲ見ス銭泰及唐在章等ハ本件ニ関シ南京ノ指令ヲ待チツツアル旨館員ニ語ル処アリタル処最近国民政府ハ愈其ノ年来ノ宿望タル不平等条約ノ改訂ヲ試ミントノ意向アルハ在南京領事発閣下宛電報第二三六号南京政府ノ対外宣言ニ依ルモ明白ナル処ニシテ同政府トシテハ既ニ北京政府カ商議ヲ開始セル日仏其ノ他諸国トノ改約交渉ヲ継続シ且ツ近ク満期トナルヘキ伊国及「デンマーク」トノ間ニ商議ヲ開始スル外更ニ在南京領事発閣下宛電報第二三八号王正廷談話ノ如ク条約ノ満期ニ達セルモノニ対シ英米等ノ主要国カ如何ナル態度ヲ採ルヘキヤハ注意ノ必要アルカ客年米国国務卿ハ支那国民ノ全部ヲ代表スル政府ノ出現ヲ待チテ条約ノ提議ニ応スヘシトノ声明ヲナシタルコトアルカ故ニ南京政府ハ北方ニ勢力ヲ及ホシタル機会ニ於テ右声明ヲ利用シテ必スヤ米国ニ提議スルナルヘク唯今日国民政府ノ勢力ハ北方ニ侵張(伸カ)シタルモ未タ支那国民ノ全部ヲ代表スル政府ト看做シ能ハサルカ故ニ米国政府トシテモ右国務卿ノ声明ニ拘束セラレテ直ニ支那側ノ提議ニ応スヘキ立場ニアラサルモ在米代理大使発閣下宛電報第二二一号ニ依レハ米国政府トシテモ早晩問題トナルコトヲ予想シテ準備ヲ為ス意向アルモノノ如ク人気取ノ米国ノコトトテ案外簡単ニ米支間ノ改約商議ヲ開始スルニ至ルヤモ計リ難ク米国若シ改約ニ応スル時ハ英国トシテモ一昨年末ノ対支政策宣言ノ手前米国ノ態度ニ追随シ来ルヘキハ疑ヲ容レス玆ニ於テ考慮スヘキハ我方ノ条約方針ナルカ御承知ノ如ク日支間ノ協議ハ昨今殆ト停頓ニ近キ状態ニアルハ一ハ支那側ノ要求不当ニ過大ナルニ起因スルハ勿論ナルモ同時ニ日本

側カ其ノ対策ヲ示サス単ニ先方ノ提案ヲ批評スルニ止マル
ノ消極的方針ニ出ツルコトモ亦看過スルヲ得ス然ルニ今ヤ
日本ノ商議相手方カ因循姑息ヲコトトセル北京政府ヨリ不
平等条約撤廃ヲ標榜スル南方政府ニ移ラムトシ而モ若シ前
述ノ如ク列国相列ヒテ商議ニ入ラムトスル情勢トナルトキ
ハ従来ノ如キ消極的態度ハ到底之ヲ維持シ得サルヘキハ云
フ迄モナク従テ我方トシテハ積極的ニ支那側ヲ指導シ得ル
様相当ナル対策ヲ決定スルト同時ニ適当ノ機会ニ於テ必要
ナル場合ニハ英、米等トモ意見ヲ交換シテ是等諸国ノ方針
カ極端ニ日本ノ方針ニ背馳セサル様然ルヘク談合シ置ク必
要アルヘシ尚我方ニ於テ差当リ直面スヘキ問題ハ七月二十
日以後ノ効力延長問題ナルカ従来本使ト北京政府トノ交渉
ノ要領ハ御承知ノ如ク適宜漢口、広東及南京ニ通知シ国民
政府モ亦之ヲ黙認シ居ル状態ニテ殊ニ客年八月本使南京ヲ
訪問シ蔣介石、王寵惠等ト会談ノ際交渉ノ進行状態ヲ話シ
尚将来モ交渉ノ内容御知ラセスヘシト告ケタルニ先方モ満
足ヲ表シ居タル次第アルカ故ニ南京政府ニ対シ北京政府ト
ノ間ニ行ヘル交渉ヲ認メシムル事（実際ハ纏マリタルモノ
殆ト無キモ）困難ナラサルヘク就テハ我方トシテハ差当リ
七月二十日期限満了ニ際シ従来北京政府ニ対スルト同様三
ケ月ノ期限延長ヲ認メシメ其ノ間ニ於テ徐ニ対策ヲ講スル
事然ルヘキヤニ認メラル
右ノ如キ次第ナルニ付テハ従来部分的ノ問題ニ関シ政府ニ
於テ対策ノ御決定ヲ求メタル事アルモ今ヤ支那政情激変シ
改メテ根本的方針樹立ヲ考慮スヘキ時機到来セルモノト認
ムルヲ以テ茲ニ政府ノ切実ナル御詮議ヲ請フ次第ナリ

532　昭和3年6月(25)日　在中国芳沢公使より田中外務大臣宛（電報）

通商条約の無条件改訂には応じられない旨孔祥熙国民政府工商部長へ通告について

北京　発
本省　6月25日後着

第*九四一号

二十三日南京政府工商部長孔祥熙挨拶ノ為本使ヲ来訪会談
中本使ハ日支通商条約改訂問題ニ言及シ日本トシテハ改訂
交渉ノ継続ヲ希望シ自分ヨリ日本政府ニ対シテモ右ノ趣旨
ヲ以テ稟請シ置キタルカ唯日本トシテハ無条件ノ改訂ニ応

スル事態ハス是非共条件付トシ特ニ互恵税率協定ノ締結ヲ
必要トスル次第ナリ右南京政府当局ニ於テモ充分承知セラ
レ度旨述ヘ置キタリ右本使カ斯ノ如キ所言ヲ為シタルハ何
レ南京政府ト条約改訂問題起ルカ其ノ際先方ハ必スヤ無条
件改訂ヲ提義シ我方ハ条件付ニ非サレハ改訂ニ応シ難キ事
情アルカ故ニ其ノ場合ニ先方ニ意外ノ提案ヲ為スヨリモ此
ノ機会ニ於テ予メ我方ノ立場ヲ明白ニシ置ク方得策ナルヘ
シト思考シタルニ依ル
尚其際孔ハ自分ハ二十四日北京ヨリ山西ニ赴ク筈ナルカ蔣
介石ハ来週末徐州ヨリ隴海、京漢鉄道ニ依リテ来京スヘク
途中新郷ニ立寄リ馮玉祥ニ面会スル予定ニテ或ハ馮玉祥モ
同伴スル事トナルヤモ計ラレスト語レリ

533　昭和3年7月(8)日　在南京岡本領事より田中外務大臣宛（電報）

国民政府の不平等条約廃棄新条約締結宣言

南京　発
本省　7月8日後着

第二八〇号（至急）

往電第二七七号（六〇五文書）ニ関シ
宣言全文左ノ通
国民政府ハ現代ノ状勢ニ適合シ国際友誼及幸福ヲ増進スル
為一切不平等条約ノ廃棄及双方平等ニシテ相互ニ主権ヲ尊
重スル新条約ノ修締ヲ既ニ久シク当面？（ママ）ノ急ト看做セリ此
ノ種意思ハ屢宣言シ置キタル処ナルカ統一ノ完成セル今日
国民政府ハ上述意思貫徹ヲ期シ在支外国居留民ノ生命財産
ハ法ニ依リ保護ヲ継続スルト共ニ一切ノ不平等条約ニ対シ
テハ特ニ下記ノ宣言ヲ為ス
(一)中華民国ト各国間ノ条約ニシテ既ニ満期トナレルモノハ
当然廃棄シ別ニ新条約ヲ締結ス
(二)其ノ未タ満期ニ達セサルモノハ国民政府ハ正当ノ手続ヲ
以テ之ヲ解除シ修締ヲ為スヘシ
(三)其ノ旧条約既ニ満期トナリ新条約未タ締結セサルモノハ
国民政府ヨリ別ニ適当ナル臨時弁法ヲ定立シ一切ヲ弁理
スヘシ特ニ茲ニ宣言ス
公使ニ転電セリ

534　昭和3年7月8日　在南京岡本領事より田中外務大臣宛（電報）

国民政府の新条約締結までの臨時弁法

南　京　7月8日前発
本　省　7月8日後着

第二八一号
往電第二八〇号（五三三文書）ニ関シ
臨時弁法左ノ如シ
第一条　本弁法各条ニ謂フ所ノ外国及外国人トハ専ラ旧条約既ニ廃止セラレ新条約ノ成立セラレサル各外国及其ノ所属人民ヲ指ス
第二条　駐支外国外交官及領事官ニ対シテハ国際公法上付与スヘキ待遇ヲ与フヘシ
第三条　在支外国人ノ身体及財産ハ中国法律院（ママ）ノ保護ヲ受クヘシ
第四条　在支外国人ハ中国ノ支配及中国法院ノ管轄ヲ受クヘシ
第五条　外国ヨリ或ハ外国ジョウ（人民カ）インカ中国ニ輸入シ及中国ヨリ外国ニ輸出スル貨物ノ納付スヘキ関税ハ国定税率実行前ニ於テハ現行章程ニ依リ弁理ス
第六条　凡ソ支那人ノ納ムヘキ税捐ハ在支外国人ハ一律ニ章程ニ依リ納付スヘシ
第七条　凡ソ上記各条ニ規定セラレサル事項ハ国際公法及中国ノ法律ニ依リ之ヲ処理ス

535　昭和3年7月(10)日　在中国芳沢公使より田中外務大臣宛（電報）

国民政府の条約廃棄通告の前に我が方より交渉継続の提議をすることが得策である旨意見具申

北　京　発
本　省　7月10日前着

第※一〇一七号
往電第一〇一六号国民政府ノ宣言ハ各方面ノ注意ヲ喚起シタリト見ヘ九日二、三外国通信員本使ヲ来訪シ伊支、丁支各条約廃棄セラレタル趣ノ処日支条約ハ如何ト尋ネタルニ付未タ国民政府ヨリ何等ノ通告ニ接（脱文カ）スル場合ニハ通告ノ内容ヲ研究シタル上政府トモ協議ノ上適当ノ回答ヲ為スヘク

今ヨリ明白ナル答弁ヲ為シ得サル旨ヲ答ヘ置キタルカ日支条約ハ本月二十日ヲ以テ延長期間満了ノ筈ナル処南京政府カ果シテ北京政府ノ延長期間ヲ認ムルヤ否ヤ不明ナルモ仮ニ之ヲ認メタル上従来ノ北京政府ノ遣口同様更ニ三ケ月ノ延長方ヲ提議シ来リ続イテ改正ノ商議ニ入ルモノトセハ何等問題無キモ七月二十日ニ至ラハ或ハ之カ廃棄ヲ声明シ来ルヤモ計リ難ク其ノ場合帝国政府ノ採リ得ヘキ方策ヲ考フルニ

第一、理論上ノ見地ヨリ南京政府ノ廃棄措置ヲ認メス断乎トシテ之ニ反対スルカ

第二、条約改正ニ付テハ従来日本ハ支那ニ対シ好意的措置ニ出テ来レル経緯ニ顧ミ理論ハ暫ク措キ廃棄ニハ同意シ得サルモ改正ノ商議ヲ為スコトトシ従来ノ北京政府トノ商議ヲ継続スルナリ又ハ新ニ南京政府ト商議ヲ開始スルコトトスルカ又ハ

第三、廃棄ノ通告ヲ認メ国民政府ノ提議ニ従ヒ新ニ条約改正委員ヲ任命シテ新条約締結ノ措置ニ出ツルカ

以上三者ノ孰レカノ手段ニ出ツルヲ要スル次第ナル処本使ノ卑見ヲ以テセハ南京政府ハ日支条約ハ南京発閣下宛電報第二八〇（五三三文書）号南京政府宣言(一)ニ属スルモノトシ既ニ当然満期トナレリトテ廃棄シ来ルヘキ可能性鮮カラサル処一方従来ノ北京政府トノ交渉ニ付テハ随時我方ヨリ南京側ニ内報シ置キタル経緯ニ鑑ミ南京政府ニ於テ強ヒテ条約改正ノ交渉ニ応セサル論拠ニ乏シキヤニ思考セラルルモ何分同政府昨今ノ鼻息ハ頗ル荒キモノアルニ付果シテ第二ノ手段ヲ承認スルヤ極メテ疑ハシキモノアリ其ノ場合ハ即チ第一又ハ第三ノ手段ニ出ツルヨリ致方無キ次第ナルカ第三ノ手段ヲ採用スルハ全然我方ノ南京政府ニ対スル降服ヲ意味シ従テ仮令特ニ委員ヲ任命シテ新条約締結ノ商議ニ取掛ル場合ニ於テモ関税問題、治外法権問題、其ノ他ノ重要問題ニ関シ我方ノ足許ヲ見タル南京政府カ到底我方ノ意見ヲ容ルヘシトモ思ハレス従テ無条約時代ハ無期限ニ継続スト認メラレ之カ為ニ各所ニ好マシカラサル事件頻発スヘク国交上誠ニ憂フヘキ事態ヲ出現スヘシト信ス又第一ノ手段ニ出ツルニ於テハ勿論右以上日支間ニ困難ナル局面ヲ招来スルニ相違無シ右様ノ理由ヲ以テ本使ノ意見ヲ率直ニ申上クレハ要スルニ第二ノ手段ヲ以テ南京政府ヲシテ改正商議ノ継続ヲ認メシムル事ニ極力努力スヘク又右努力ニ拘ラス南京政府

ニ於テ之ニ同意セサル場合ニ於テモ世界ノ公論ハ我方ニ同情スルニ相違無ク旁兎ニ角第二ノ方法ニ依リ甚タ不満足ノ事態乍ラ暫ク之レヲ継続シ其ノ間ニ南京政府ヲ或ハ瞞シ或ハ嚇シテ以テ我方ノ関スル限リ少クモ現行条約ノ生命ヲ断タシメサル事態ヲ継続スル事ニ最善ノ努力ヲ為ス事最モ得策ナリト思考セラル就テハ最早僅ニ十日間ヲ余スニ過キサル羽目ナルカ故ニ至急右御考量ノ上幸ニ御同意ノ上ハ南京政府ノ声明シ来ラサルニ先立チ（南京政府カ一旦声明シタル以上ハ同政府モ面目上直ニ方針変更ノ困難ヲ見ルヘキニ付其ノ以前ニ先ツ我方ヨリ仕向クル方得策ナリト考フ）我方ヨリ右第二ノ手段ニ対シ先方ニ於テ同意スル様然ルヘク申入レ此ノ際至急右ノ見地ニ基ク交渉ニ着手スル事肝要ト存ス御詮議ノ上何分ノ儀御回訓相成度シ

536　昭和3年7月11日　田中外務大臣より在南京岡本領事宛（電報）

我が方は条約改正につき十分な誠意と用意を有する旨国民政府へ伝達方訓令

本　省　7月11日発

第※四八号

貴電第二七七号（六〇五文書）及在支公使来電第一〇一（五三五文書）七号ニ関シ

国民政府ハ不平等条約ニシテ満期ニ至レルモノハ即時廃棄ヲ為サムトスルモノナルカ如ク現ニ仏支条約取消ノ意向ヲ有シ且伊丁両国モ亦条約廃棄ノ通牒ヲ受取リタル由ナルカ日支条約ニ付テハ御承知ノ如ク支那側ハ去ル大正十五年十月二十日付公文ヲ以テ改訂ヲ提議シ商議期間六ケ月内ニ条約成立セサル時ハ其当然有シ得ヘキ権利ヲ留保スル旨ヲ声明セルカ我方トシテハ同年十一月十日付公文ヲ以テ右提議ニ応スルト共ニ右支那側権利留保ニ対シテハ条約第二十六条ノ規定ニ依リ何等之ヲ容認スルモノニ非サル旨留保ヲ為シ爾来非公式商議ヲ行ヒ昨年四月以来該期間ヲ三ケ月毎ニ延長シ以テ今日ニ至リシ次第ニテ右期間ハ来ル二十日満了ノ筈ナル処（我方ニ於テハ日支条約ハ前記六ケ月ノ期間終了ニ依リ更ニ引続キ十ケ年間有効ノモノト了解ス）本件ニ対シ国民政府カ果シテ如何ナル態度ニ出ツヘキヤ予測シ難キモ苟モ我方従来ノ誠意及従来ノ非公式交渉ノ経過ヲモ無視シ日支条約廃棄ノ暴挙ニ出ツルカ如キハ我方トシテ断シテ容認スル能ハサル所ナルモ正当ノ方法ニ依ル改訂商議ニ

対シテハ誠意ヲ以テ之ニ当ル意向ナルニ付テハ貴官ハ右御含ノ上此際貴官限リノ思付トシテ国民政府ニ対シ帝国政府カ条約改正ニ付十分ナル誠意ト用意トヲ有スルコトヲ説明セラレ本件改訂商議ニ関シ公正且穏健ナル措置ニ出ツルノ得策ナルコトニ付篤ト先方ノ注意ヲ喚起セラルルト共ニ本件宣告ト日支条約トノ関係、商議期間延長等ニ対スル今後ノ措置並前記宣言ノ(二)ニ所謂条約解除ノ方法等ニ関スル先方ノ意向御確メノ上結果至急回電アリ度シ

537　昭和3年7月(13)日　在南京岡本領事より田中外務大臣宛（電報）

日中通商条約改訂交渉の期限延長はせず新条約締結までは臨時弁法を施行する旨の国民政府側の意向について

南　京　発

本　省　7月13日後着

第※二九三号

曩ニ国民政府ニ於テ条約改正ニ関スル宣言ヲ発表シタル翌日他用ヲ以テ周龍光往訪ノ際周ヨリ南京ニ於テ初メテノ事ニモアリ王外交部長ニモ面会シテハトノ申出アリタルヲ以テ王正延ト会見シタルカ其ノ際王ハ日支通商条約ニ関シ「北方政府ニ於テ条約改正ノ商議中ナリシハ自分モ承知シ居ル処ニシテ北方政府カ三個月間旧条約ノ存続ヲ延期シタルニ対シ之ヲ承認スヘキヤ否ヤニ関シテハ差当リ触レサル積ナルモ本月二十日後ニ於テ重ネテ三個月延期スルカ如キハ断シテ国民政府ノ為ササル処ナリ」ト言明シ新条約締結ニ至ル間ハ発表シタルカ如キ臨時弁法ヲ設ケ貴国民ニ対シ何等ノ不安不利ヲ与ヘサル方針ナリト付言セリ

本官ハ右ニ対シ簡単ニ旧条約カ単ニ締約国ノ一方ノミノ通告ニ依リ廃棄サルヘキモノト思料セスト申述ヘタルノミニテ深入スルコトヲ避ケ転シテ塩務ノ問題ニ談及シタル処王ハ右ニ付テハ宋財政部長ヨリ近ク満足ナル回答ヲ発スル筈ナリト云ヒ芝罘其ノ他ニ於ケル外人塩務官吏ニ関シテハ彼等ハ貴国政府ノ雇傭セルモノニシテ之カ処分如何ハ中国内部ノ事ニ属スト云ヒ外国ノ干渉ヲ受ケスト云フカ如キ意味ヲ申述ヘタリ

昨十一日夜周龍光来訪ノ際本件条約改正ニ関シ周ハ「本件ニ関スル通告ハ本月二十日或ハ其ノ翌日ニ於テ発スル筈ナ

リ日清条約第二十六条ヲ以テ税率或ハ条文ノミノ改訂ヲ意味ストノ主張ハ牽強付会ノ解釈ナリ」ト述ヘタルニ付本官ハ「同様ノ条文日支条約中ニモ有之処之カ解釈ハ当然文字通ノ解釈ナラサルヘキノミナラス締約国間ニ於テ期限満了セルヲ以テ直ニ無条約ニ陥ルカ如キハ国交ノ断絶シタル場合ヲ除キ有リ得ヘカラサル事ニシテ即チ期限満了セハ之ヲ延長スルカ或ハ新条約締結ヲ商議スヘク新条約締結以前ハ旧条約其ノ儘存続スヘシト解釈スルハ常識上ヨリ言フモ当然ナリ特ニ日支間ノ如キ複雑セル国際関係ハ臨時弁法ノ如キ単純ナルモノヲ以テ処理サルヘキニ非ス」トテ例ヘハ治外法権撤廃サレタリトモ国民政府ハ果シテ完全ニ其ノ責務ヲ果シ得ト信スルヤト反問セシ処周ハ「貴官ノ御意見ハ至極尤ニシテ例ヘハ両三日前司法部ニ対シ治外法権撤廃サレタル場合ノ準備アリヤ否ヤヲ問合セ甚タ不満足ナル回答ヲ得タル様ノ次第ニシテ内心甚タ不安ニ堪ヘサルモ国民政府トシテハ其ノ伝統的政策ヨリ言フモ不平等条約ノ撤廃ハ主張セサルヲ得サルノ状態ニアリ斯ノ如キ宣言ヲ発シタル次第ナルカ実際ニ於テハ所謂随時弁法ヲ拡大シ不都合無キ様措置スル筈ニシテ例ヘハ税率ノ如キ従来ノ通ト為シ又外国人ニ関スル訴訟事件等ノ惹起サレタル場合実際何等カ特別ノ弁法ヲ設クルカ如シト述ヘタルニ付本官ハ日支間ノ如キ特ニ複雑セル関係ニ於テ斯ノ如キハ到底言フヘクシテ行ヒ得サル所ナリ依テ此レハ全然私見乍ラ旧条約ノ廃止乃至無効ヲ宣言スル事無ク旧条約ノ有効無効ニ付テハ何等触レスシテ従来北方トノ間ニ為サレツツアリシ商議ヲ続行スルカ如キ体裁ト為スヲ可ナリトセスヤト述ヘタル処王部長昨夕上海ニ赴キ明日頃帰寧ノ筈ナルヲ以テ篤ト相談スヘシト述ヘ置タリ不取敢

538　昭和3年7月(14)日　在上海矢田総領事より田中外務大臣宛（電報）

不平等条約廃棄宣言の真意および日本と条約改訂交渉を開始する準備がある旨の王外交部長言明について

上海　発
本省　7月14日前着

第四七二号*

閣下発在南京（領事）宛電報第四八号（五三六文書）ニ関シ

在滬中ノ王正廷ニ面会ヲ求メタルニ本日夜行ニテ南京ヘ帰ルニ付出立前私宅ニテ会ヒ度トノ返事ナリシニ付往訪シタルカ王トノ会見ノ模様左ノ通

本官ハ先ツ「別ニ本省ヨリ訓令ヲ受ケテ貴下ニ質問ニ来レル次第ニ非サルモ周司長カ岡本領事ニ語レル談話ノ要領本日接到一読シタルカ尚疑問ノ点モアリ貴下カ当地ニ在ルヲ幸自分ノ心得迄ニ伺度点アリテ来訪セル次第ナリ」ト前提シ一体南京政府ハ不平等条約廃棄ニ関スル宣言並ニ弁法七個条ヲ発表シタルカ右ハ真面目ニ実行セントスル次第ナルヤ又多少宣伝ヲ含ムモノナリヤ甚タ失礼ナル質問ナレトモ貴下トノ長年ノ友誼ニ顧ミ腹蔵ナキ意見ヲ伺度他所行ノ挨拶ヲ聞キニ来リタルニ非スト述ヘタル処

王ハ機嫌良ク自分モ外ナラヌ貴下ノ事ナレハ遠慮無ク申スヘシト答ヘタルニ付本官ハ前記声明ハ景気良キモノナルカ斯ノ如キ手前勝手ノ矯激ナル方針ノ下ニ列国ト接衝シテ円満ナル収穫ヲ収メ国民政府ノ基礎ヲ樹立シ得ヘシトハ貴下自身モ衷心ヨリ確信シ居ル次第ニハアラサルヘシ他国ハイサ知ラス日本トシテハ唯々トシテ南京政府ノ指図ノ下ニ引摺ラレ行クカ如キ事ハ断シテ無之ト信スト述ヘタル処王ハ自分ノ日本ト深キ関係アルハ貴下ノ承知セラルル通ナリ且日支ノ結合ヲ達成スル事カ自分ノ宿志ナル事モ御承知ナルヘシ又貴総領事カ過去数年ニ亘リ上海ニ於テ此ノ「コース」ノ為ニ努力セラレタル功績ハ良ク承知セリ従テ吾々ハ此ノ意味ニ於テ同志ナリ自分ハ貴下ニ明言スヘシ南京政府ハ日支条約ノ改定ニ関シテハ公正ト穏健ナル方針態度ヲ以テ臨ムヘシト云ヘルニ付然ラハ南京政府ハ北京政府ト芳沢公使トノ間ニ行ハレ来レル交渉ヲ無視スル事無キヤト突込ミタルニ王ハ之ハ個人トシテ申上クル次第ナリト念ヲ押シタル上決シテ無視スルカ如キ事無シ自分ハ右交渉ヲ取リ上クル考ナリ尤モ交渉ニ関スル書類未着ニテ（唐悦良ヨリ近日人ヲ派シテ持来ラシムル筈）右書類ヲ一読セサル内ハ其ノ内容ニ関シテ何等批評意見等ヲ述ヘ難シ貴総領事ハ右交渉ノ内容ヲ知レリヤト尋ネタルニ付

書類ハ北京ヨリ送達ヲ受ケ居ルモ実ハ未タ充分研究シ居ラスト答ヘタルニ付夫レナラハ吾々両人トモ条約改訂ニ関シテハ学生ナレハ共ニ研究ヲ為シ非公式交渉ヲ開始スルモ亦妙ナラスヤ芳沢公使ハ差当リ来寧セラルル事無カルヘシ日本政府カ貴下ニ訓令ヲ下セハ直ニ内交渉ヲ始メテモ宜敷キ

筈ナリ自分ハ正式ニ外交部長トシテ南京政府ハ日本政府ト条約改定ノ交渉ヲ開始スル準備アリト声明スヘシ右ハ東京ヘ伝達サレ差支無シト云ヘルニ付

本官ハ期限ハ来週金曜日ニ迫リ居レルカ南京政府ハ条約廃棄ノ通告ヲ日本ヘモ発送スル積ナリヤト質問シタルニ通告ハ貴下ニ対シ芳沢公使ヘ伝達方申送ル筈ナルカ決シテ廃棄ノ通告ニ非スト答ヘタリ

539　昭和3年7月(14)日　在南京岡本領事より田中外務大臣宛（電報）

条約廃棄実施回避方国民政府側へ警告について

南京　発
本省　7月14日後着

第二九四号※

貴電御訓令ノ趣旨ニ基キ本官私見トシテ「現行条約廃棄宣言ノ如キ暴挙ヲ避ケサルヘカラサルコト王部長カ日支両国関係ノ実情ヲ解セスシテ急激ナル人気取政策ヲ取ルカ如キコトアラハ帝国政府ハ遂ニ貴国ニ対スル好意ヲ捨テサルヘカラサルニ至ルヘキコト」等ヲ詳述シタルニ対シ「貴見ハ能ク諒解セリ只既ニ丁、伊両国ニハ通告済ノコトニモアリ日本ノミ特別ノ扱ト為スハ困難ナルヘキモ特別関係ニアル日支間ノコトナレハ能ク譚主席トモ相談ノ上何分ノ御挨拶致スヘシ」ト答ヘタルニ付此ノ際日支両国ノ為特ニ貴下ノ尽力ヲ煩ハシ度ト述ヘ置ケリ

昨十二日重ネテ他用ヲ以テ周龍光ト会見セルニ付更ニ御訓示ノ趣旨ニ基キ往電第二九三号(五三七文書)本官所説ヲ敷衍説明セル処周ハ「自分モ貴官ト別袖後種々考慮シタルカ貴見ハ至極尤モト思料スルニ付王部長帰寧次第篤ト説明スル積リナリ就テハ仮ニ曩ニ談合セルカ如ク此ノ際日支間現行条約廃棄等ヲ声明セス単ニ「現行条約ハ満期トナレルニ付速ニ平等ノ見地ニ基キ条約改正ノ商議ヲ開始シ度シ」ト日本政府ニ申入ルルトシ日本政府ハ右ニ対シ直ニ「諒承セリ貴方提議ニ応シ商議ヲ開始ス」ト回答スヘキヤ」ト反問セルニ付本官ハ「既ニ日本政府ハ一昨年貴国北方政府ノ提議ニ基キ非公式乍ラ商議ヲ開始セル次第モアリ勿論貴説ノ如キ処置ニ出ツヘシト思料ス」ト答ヘ置ケリ

尚周ハ往電第二九三号報告ノ通日支条約ニ就テハ宣言(一)ニ基キ直ニ廃棄ヲ声明スルカ如キコトナク期限タル本月二十日或ハ其ノ翌日通告ヲ発スル予定ニシテ北方政府ノ執リタルカ如キ期間延期ノ措置ニハ出テサルヘシト言ヒ又宣言(二)ノ条約解除方法トシテハ英、米等ニ対シ此ノ際好意ヲ以テ条約改訂ノ商議ニ応セラレ度シト申入ルル以外他ニ方法ナク関係国ニ於テ之ニ応セサル場合繰返シ其ノ考慮ヲ求ムル外ナク固ヨリ一方的ニ廃棄ヲ声明スルカ如キ暴挙ニ出テスト信ス乍併米国ノ如キハ我方ノ提議ニ応スヘシト述ヘタリ不取敢

540　昭和3年7月18日　田中外務大臣より在南京岡本領事宛（電報）

条約改訂期間満了後も現条約が有効であるとの前提でなければ国民政府との改訂商議に応じられない旨の意向について

本省　7月18日発

第四九号※

貴電第二九四号(五三九文書)及第二九六号ニ関シ

現行条約ノ効力及改訂問題ニ関スル我方ノ意向ハ既ニ往電第四八号(五三六文書)ニテ大体御承知ノ通ニシテ国民政府ニ於テ二十日以後改訂期間ノ満了ヲ理由トシ一方的ニ現条約ノ廃棄又ハ満期失効ヲ通告シ来ルトモ我方トシテハ承認ノ限ニアラス従テ右通告ニ依ル改訂商議ニモ其儘ニハ応諾シ難キ次第ナルニ付結局国民政府ヨリ現行条約カ有効ニ存続スルコトヲ確認スルカ又ハ現行条約ノ有効ナルハ当然ノ義トシテ之ニ言及セスシテ改訂商議ニ付我方ノ同意ヲ求ムルニアラサル限リ我方トシテハ考慮ノ余地ナキ義ト御承知アリ度右往電第四八号敷衍旁々申進ス

541　昭和3年7月20日　田中外務大臣より在米国沢田臨時代理大使宛（電報）

条約廃棄問題への各国協調について米国政府の意向確認方訓令

本省　7月20日発

第一五九号

日支通商条約改訂非公式商議ノ第五回延長期間ハ七月二十日満了ノ処最近国民政府ハ其ノ北伐完成ト共ニ六月十六日対外宣言ニ於テ不平等条約ノ改訂ヲ高調シ次テ七月七日不

平等条約改訂宣言及臨時弁法七条（往電第一四九号参照）ヲ発表シ十四日之ヲ関係諸国ニ通告シ既ニ丁、伊、仏三国ニ対シテハ現行条約ノ廃棄ヲ通告スルト共ニ新条約締結ノ申入ヲ了セリ

我方ハ夙ニ今日ノ如キ事態ニ直面スヘキヲ予想シ前記非公式商議ノ模様ハ随時芳沢公使ヨリ之ヲ南方側ニモ内報シ置キタルノミナラス其ノ北伐完成直後同公使ヨリハ特ニ右商議続行ニ関シ先方ノ注意ヲ喚起スル所アリシカ国民政府其ノ後ノ態度ニ顧ミ更ニ関係領事ヲシテ非公式ニ我方カ条約改訂ニ付充分ナル誠意ト用意トヲ有スル事ヲ説明シテ公正穏健ノ措置ニ出ツヘキ様慫慂セシメ置ケリ

然ルニ南方政府トシテハ対内関係ニ重キヲ置クノ事情モアリ旁々我国ニ対シテモ亦近ク右三国ニ対スルト同様ノ申入ヲ為シ来ル事明白トナレルカ我方トシテハ条約ノ廃棄又ハ満期失効ヲ云為スル支那側ノ一方的措置ハ断シテ之ヲ容認スル能ハサルハ勿論従テ如此通告ニ依ル改訂商議ニモ其ノ儘ニハ応諾シ難キ事往電第二七〇号ニテ御承知ノ通ナリ抑々支那側今次ノ措置ハ条約ノ明文ハ勿論国際信義ヲ全然無視スルモノニシテ如斯暴挙ニ対シテハ独リ我国ノミナラス関係諸国ニ於テモ等シク之ヲ容認セサル所ニシテ前記支那側申入ニ対シ既ニ丁、伊両国ハ条約廃棄ヲ支持スヘキ何等ノ根拠無キ為之ヲ承認スル能ハサル事並ニ条約改訂ニ付テハ十分ナル誠意ヲ有スル旨ノ回答ヲ与ヘ殊ニ伊太利国ノ如キハ新ニ締結セラルヘキ条約ノ効力発生期ハ支那カ華府条約調印各国ト締結スヘキ新条約ノ実施期ト同一時期タルヘキ事及支那トノ国交関係ノ常態ニ復シタル後タルヘキ事等ノ条件ヲ付シ居リ仏国モ亦厳重抗議ヲ提出セル趣ナリ而シテ是等諸国ハ右回答発送ニ関シ我芳沢公使トモ十分ナル協調ヲ保チ居ル趣ニテ少クトモ条約廃棄ノ暴挙ニ対シテハ関係諸国共ニ歩調ヲ一ニシツツアルモノト見ルヘク未タ条約満期ニ至ラサル英米諸国ト雖支那側カ所謂条約解除ノ措置ニ出ツルニ於テハ或ハ我国ト同一ノ事態ニ逢著スル虞ナシトセス旁々今後本件廃棄対策並ニ臨時弁法ノ適用阻止ニ対シテハ関係国一致協調シテ支那側ヲ反省セシムル事緊要事ト思考セラルルニ付テハ貴官ハ貴任国政府ト接触ノ場合ニ於テハ右ノ含ヲ以テ協調ニ関スル先方ノ意向ヲ確ムル等機宜ノ措置ニ出テラルル様致シタシ

本電本大臣訓令トシテ英ニ転電シ英ヲシテ仏、伊、白各大使及西、蘭、瑞典各公使（以上本大臣訓令トシテ且西、蘭、瑞典各公使ニハ往電第一四九号及合第二七〇号ト共ニ）並ニ土、独、露各大使ニ転電セシメラレタシ

542　昭和3年7月(20)日　在南京岡本領事より田中外務大臣宛（電報）

国民政府の日中通商条約改正に関する通告文手交について

別　電　七月二十日着在南京岡本領事より田中外務大臣宛第三〇一号

国民政府の日中通商条約改正に関する通告文

南　京　発

本　省　7月20日前着

第三〇〇号※

本官発北京宛電報

第二二七号

本十九日午後外交部周司長ヨリ電話ヲ以テ「条約改正ニ関スル通告文ハ丁抹、仏国等ニハ在上海各総領事ニ転達方ヲ申送リタル処日本ハ当地貴官在任ノコト故貴官ヲ通シ在支芳沢公使ニ転達方願度同通告文ニハ日支現行条約ヲ廃止ストハ記載セサリシモ曩ニ公表セシ国民政府ノ宣言ニ基キ記載セリ」ト申越シ次テ第二司幇江華本ヲシテ別電第二二八号ノ如キ通告文ヲ齎シメタリ

右ニ対シ本官ハ昨十八日来寧ノ矢田総領事トノ談合ニ基キ外務大臣訓令ノ趣旨ヲ体シ現行条約ヲ廃棄スルカ如キ公文ハ取次クコトヲ得スト拒絶シタル処周ヨリ伊国、丁抹、仏国等ノ総領事ハ既ニ是ヲ受理シ其ノ駐支公使ヘ転達シタルコト故是非取次カレ度シト申出タリ

依テ本官ハ然ラハ一応駐支公使ニ対シ単ニ転達ノ為受ケトルヤ否ヤヲ問合スヘシト告ケ一応預リ置ケリ就テハ何分ノ儀御回示ヲ請フ

（別　電）

南　京　発

本　省　7月20日前着

第三〇一号※

本官発北京宛電報

第二二八号

国民政府ハ現代ノ情勢ニ適合シ国際友誼及幸福ヲ増進スル為一切不平等条約ノ修締ニ対シ努メテ其ノ貫徹ヲ求ムル旨ハ既ニ本年七月七日鄭重ニ宣言シ並ニ七月十二日付ヲ以テ貴公使ニ対シ貴国政府ニ転達方照会致置ケリ査スルニ光緒二十二年日支両国間締結ノ通商航海条約並ニ付属文書同年九月十三日締結ノ前条約付属議定書及光緒二十九年締立ノ追加通商航海条約ハ既ニ民国十五年十月第三次満期トナリ当時貴国政府ニ対シ根本的改訂ヲ提議シ上述ノ条約及其ノ一切ノ付属文書章程ハ施行以来久シキニ亘リ日支両国現在ノ政治、通商関係ニ不適当ノモノ多シ六個月ノ条約修正期間内ニ於テ新条約完成スル能ハサル場合ハ旧条約ノ無効ヲ宣示スヘキ旨照会セル処日支ノ国交関係ハ密接ナルヲ以テ国交ヲ強固親密ニスル為屢々期限ヲ延ハシテ商議スルモ今日迄其ノ緒ニ着カス本月二十日重ネテ満期ニ達ス

国民政府ハ七月七日宣言ノ主張ニ基キ平等相互ノ原則ヲ根拠トシテ新条約ノ締結ヲ商定スヘシ新条約ノ未タ締結セラレサル以前ハ本国民政府ノ宣布セル「中華民国ト各外国トノ旧条約既ニ廃棄セラレ新条約未成立前ニ於ケル臨時弁法」ニ照シ実行ヲ宣布シ以テ日支両国ノ政治、商務関係ヲ維持スヘシ依テ茲ニ臨時弁法七箇条ヲ抄録シ貴公使ニ照会ス

上述本国政府ノ意見ヲ貴国政府ニ転達ノ上即時全権代表ヲ派シ最短期間内ニ於テ平等及相互主権尊重ノ精神ヲ以テ新条約ヲ締結シ以テ現状ニ適合シ両国ノ睦誼ヲシテ益々強固ナラシメ両国ノ共同福利亦益々増進ヲ加フルニ至ラシムル様致シ度ク尚何分ノ儀御回示相成度此段照会ス

中華民国十七年七月十九日

国民政府外交部長　王正廷

大日本国特命駐華全権公使

芳沢謙吉閣下

543

昭和3年7月(20)日　在中国芳沢公使より田中外務大臣宛（電報）

日中通商条約改正に関する国民政府通告文の受領方在南京岡本領事へ伝達について

北京　発

本省　7月20日後着

第一〇六七号*

本使発南京宛電報[1]

第一五号

貴電第二二七号（五四二文書）及第二二八号（五四二文書別電）ニ関シ

一、貴官ニ於テ通告文ヲ一応預リ置カレタルハ差当リノ措置トシテ適当ナルモ若シ南京政府ニシテ之ヲ本使ヘ郵送シ来ル場合ニハ本使トシテハ通告文ノ内容ヲ「アクセプト」スル能ハサルハ勿論ナルモ通告文其ノモノハ「レシーブ」セサルヲ得サルヘク又既ニ貴官ニ交付セラレタル通告文ヲ貴官ヨリ外交部ニ返戻セラルル場合先方カ再ヒ之ヲ貴官ニ送致スル事トナラハ通告文ハ宙ニ迷フ事トナルヘク要スルニ文書其ノモノノ受領ハ問題ニ非ス其ノ眼目トスル処ハ内容ニ在ル次第ニテ殊ニ本件ニ関スル国民政府ノ主張及之ニ対スル帝国政府ノ主張ハ適当ナル時期ニ於テ之ヲ発表シ正邪曲直ヲ広ク世界ニ示ス必要アルヘキ処若シ通告文ヲ受領セサル場合ニハ我方ニ於テモ回答ヲ為スノ必要無キニ至リ其ノ結果我方ノ正論ヲ天下ニ公表スルコト能ハサルヘキカ故ニ旁貴官ニ於テ之ヲ受領セラレ国民政府ニ対シ本使ニ伝達方取計フヘキ旨ヲ通告セラレ差支無シ

二、[2]本使ニ於テハ右通告文ヲ受領スヘキモ其ノ内容ニ対シテハ同意スル限ニ非サルコト勿論ナリ殊ニ貴官ニ於テ御承知ノ通本使ハ日本ト国民政府トノ将来ノ関係ニ付深甚ナル考量ヲ払ヒ居ル次第ニテ此ノ見地ニ基キ先方ニ於テ通告文ヲ発送スルニ先立チ廃棄ノ如キ暴挙ニ出テサル様警告方外務大臣ニ禀議シ其ノ結果大臣ヨリ貴官ニ訓令アリ右警告ヲ与ヘラレタルニ拘ハラス先方ニ於テハ単ニ廃棄ナル文字ヲ使用セサリシ迄ニテ実際ニ於テハ廃棄ノ通告ヲ為シ来レル次第ナリ事茲ニ至リテハ国民政府モ到底済度シ難キモノナルニ付篤ト政府トモ協議ノ上威厳アル拒絶ノ回答ヲ発送スルコトトスヘキニ付右御含置アリタシ

尚十九日夜宴席ニテ王交通部長ニ面会シタル節南京政府ニシテ万一条約ヲ廃棄スルノ措置ニ出ツルコトアラハ我方ニ於テモ容赦シ難キ旨ヲ詳細説示シタル処同部長ハ各国ニ対スル条約廃棄声明ノ討議ニハ自分モ列席シタルカ改正ノ点ニ重キヲ置キ廃棄ト云フカ如キ極端ナル措置ニハ重キヲ置カサリシモノト記憶スト述ヘ居リタリ

三、南京政府カ過日仏、伊、丁三国ニ対シ廃棄ヲ通告シタ

ル為果然各国側ノ興味ヲ喚起シタルカ各国人側ニ於テ就中多大興味ヲ以テ待チ受ケ居タルハ我方ニ対スル廃棄通告ナルカ故ニ一両日来各方面ヨリ南京政府通告ノ来否ニ付質問ニ接シ居タル次第ニモアリ旁々今朝内外新聞記者ニ対シテ内容ニハ触レサルモ通告文ノ貴官ニ交付セラレタル事実ヲ須磨書記官ヨリ告ケシメ置キタリ尚今朝「倫敦タイムス」「フレザー」本使ヲ来訪中偶々貴電ニ接シタルニ付通告文交付ノ次第ヲ語リタル処「フ」ハ種々ノ事例ヲ挙ケテ今後困難ナル事件カ随所ニ発生スヘキ惧アル旨ヲ述ヘタルニ付本使ハ国民政府側ニテハ我方ノ態度ニ顧ミ或ハ成ル可ク事件ノ惹起セサル様手配スルヤ計リ難キモ既ニ臨時弁法ノ実施ヲ宣布セル以上ハ遺憾乍ラ右ノ如キ事件ノ発生ヲ見ル事アルヘク其ノ節ハ我方ニ於テモ其ノ事態ニ適当セル対抗手段ヲ取ルヨリ致方無カル可シト説明シ置キタリ

尚又此ノ際国民政府側ト公式宴会ノ交換ハ面白カラサルニ付明二十一日蔣介石ハ当地外交部ニ於テ外交団其他ヲ「レセプション」ニ招キ居リ他ノ同僚同様及館員モ之ニ出席ノ予定ナリシモ本件通告文ニ顧ミ出席セサル事トス可ク且数日内ニ目下当地滞在中ノ国民政府大官及武将連多数ヲ宴会ニ招待センカ為メ計画ヲ進メ居リタルモ之亦取止ムルコトトセリ右御含ミ迄

544　昭和3年7月21日　田中外務大臣より在中国芳沢公使宛（電報）

国民政府の日中通商条約改正通告文に対する回答方針につき訓令

本省　7月21日発

第*三五九号

南京領事発貴官宛電報第二二七号（五四二文書）及第二二八号（五四二文書別電）ニ関シ

国民政府ノ条約廃棄及新条約締結問題ニ対スル我方ノ意向ハ南京領事宛往電第四八号（五三六文書）及第四九号（五四〇文書）及在米代理大使宛往電第一五九号（五四一文書）ニ依リ大体御諒承ノ儀ト被存所前記南京領事電報第二二八号通告文ニ対シテハ貴官ハ大要左記趣旨ニ依リ帝国政府ノ訓令ニ基ク旨ヲ付記シ至急適当ノ経路ニ依リ回答セラレ度シ

一、明治二十九年締結ノ日支通商航海条約及付属文書並明治三十六年締結ノ追加通商航海条約及付属文書ハ明治二

十九年締結ノ同条約第二十六条ノ規定ヲ以テ十年毎ニ改訂商議ヲ認ムルモ一定期間内ニ改訂商議成ラサル場合ハ更ニ十年ノ存続ヲ明示シアル外何等廃棄又ハ失効ニ関スル規定ナク従テ日支両国間ニ特別ノ合意又ハ協定ナキ限リ之カ廃棄又ハ失効ヲ見ル能ハストハ帝国政府ノ予テ抱懐スル見解ニシテ曩ニ民国十五年十月二十日顧外交総長ノ照会ニ対スル回答ニ於テ先ツ之ヲ指摘シ更ニ其ノ後数回ノ商議期間延長ニ当リテモ常ニ此ノ点ニ関シ特ニ支那側ノ注意ヲ喚起シ置キタル次第ナリ故ニ七月二十日商議期間ノ満了後ト雖前記諸条約及文書カ依然トシテ其ノ効力ヲ存続スヘキモノナルコト何等疑問ノ余地ナク商議期間ノ満了ヲ以テ条約ノ満期ナリトスル支那側ノ見解ニハ同意ノ限リニアラス

二、然ルニ支那側今次ノ通告ハ一方ニ新条約ノ締結ヲ提議スルモ新条約ノ成立ニ至ル迄ノ期間ヲ一方的ノ臨時弁法ヲ以テ律セムトスルニアリテ前記条約ノ失効ヲ強ヒントスルハ厳存セル条約ノ明文ニ違反スルノミナラス国際信義ヲ無視スルノ暴挙ニシテ帝国政府ノ到底容認シ難キ所ナリ

三、若シ夫レ条約ノ改訂ニ就テハ帝国政府ハ既ニ屢々声明セシ如ク支那国民ノ要望ニ鑑ミ之カ商議ニ応スルノ誠意ト用意トヲ有ス曩ニ北京ノ非公式商議ニ於テ六ヶ月ノ改訂期間満了後モ屢々商議期間ヲ延長シテ改訂ノ達成ヲ図ラムトシタルハ之カ証左ニシテ支那側ノ夙ニ認識スル所ナルヘク此ノ間不幸ニシテ条約ノ改訂ヲ見ルニ至ラサリシハ主トシテ支那国内政情ノ不安定ニ基クモノナルコトヲ特ニ指摘セサルヲ得ス

四、之ヲ要スルニ条約改訂ニ関スル前記帝国政府ノ態度ハ今日ニ於テモ何等渝ル所ナク従テ支那側ニシテ此ノ際篤ト国際ノ大義ト日支両国ノ友好善隣ノ関係ニ鑑ミ現行条約ノ有効ナルコトヲ確認スルニ於テハ帝国政府ハ欣然改訂ノ商議ニ応シ適当ト認ムル改訂ヲ行フニ吝ナルモノニアラス若シ然ラスシテ支那側カ依然現行条約ノ失効ヲ主張スルノ態度ヲ固持スルニ於テハ帝国政府ハ条約改訂ノ商議ニ応スルコト能ハサルノミナラス更ニ支那側ニ於テ其所謂臨時弁法ヲ一方的ニ強行スルカ如キコトアラハ帝国政府ハ条約上ノ権益擁護ノ為メ適当ト認ムル措置ニ出ツルノ已ナキニ至ルコトヲ宣明ス

本電在欧米各大使及和蘭「スエーデン」西班牙各公使ニ転電セリ

545　昭和3年7月(22)日　在上海矢田総領事より田中外務大臣宛（電報）

国民政府の通商条約廃棄通告の意図等につき意見具申

上海　発
本省　7月22日前着

第四八六号*

日支条約廃棄通告ニ関シ本官心付ノ点御参考迄ニ申上ク

本官ノ観察スル処ニ依レハ今次ノ通告ハ王正廷ノ人気取リ政策乃至国民政府ノ国内政策ニ基クコト勿論ナルヘキモ其ノ底意ハ先ツ劈頭第一ニ出来ル丈高飛車ニ吹掛ケ置キ暫ク相手国ノ出様ヲ注視シ然ル後徐々ニ最初ノ呼値ヲ下ケ行カムトスル縁日商人的政策ヲ採ラムトスルニハアラサルカ此ノ見地ヨリスレハ出来ル丈高値トシテ吹掛ケ置クコト将来ノ交渉上支那側ニ有利ニシテ此ノ結果世界ノ同情、信頼ヲ失フトモ元々捨鉢ノ連中ナレハ顧慮スル処ニ非サルヘク只之為列国ノ態度ヲ硬化セシメ其ノ結合ヲ鞏固ニスルカ如キ結果ヲ惹起セムカ之レ国民政府ノ最モ望マサル処ナルヘシ従テ形勢支那側ニ不利ニ発展スル状況トモナラハ先ツ第一ノ妥協方法トシテ臨時弁法ノ修正若ハ個々ノ場合ニ別ニ臨時的弁法ノ協定ヲ提議スルカ如キ措置ニ出ツルニ非サルカ然レトモ王ハ御承知ノ通リ国民党員ニ非サルノミナラス党内幹部ニ信用厚キ次第ニモ非サレハ其ノ勢微弱ニシテ意見方針モ何時ニテモ中央党部ノ決裁ニ依リテ覆ヘサルル惧アリ我方トシテハ此ノ際党内急進分子ノ存在ヲ意識シ最悪ノ場合ヲ予想シテ予メ之ニ備フル処ナカルヘカラスト存ス国民政府カ我方圧迫ノ手段トシテ先ツ差当リ採ルヘキハ

一、臨時法院ニ於ケル会審官ノ出廷拒絶並同法院ニ於テ日本人ヲ被告トスル民刑事事件ヲ受理スルコト

二、租界外居住者ニ対スル納税強徴並逮捕処罰

三、内河航行権ノ廃棄

ノ如キナルヘシ

而シテ一ニ付テハ別電第四八七号ノ通リ処理スル所存ナルカ其ノ他ノ場合ニハ我方ハ日支条約ノ効力存続ヲ主張シ強硬抗議スルコト勿論ナルモ自衛手段ヲ採ル場合ニ付テハ諸般ノ問題ヲ包含シ各般ノ利益関係其ノ影響等ヲ慎重考慮スル要アルニ付追テ卑見申上ク

546　昭和3年7月(22)日　在米国沢田臨時代理大使より田中外務大臣宛（電報）

米国はこれまでの経緯より近く中国と条約改正交渉を開始する旨の米国国務長官等の談話について

ワシントン　発
本省　7月22日後着

第二五七号

(1)貴電第一五九号(五四一文書)ニ関シ

(一)往電第二四三号以後大統領ニ於テモ支那ノ形勢カ漸次国民政府承認ヲ促進セシムル傾向ニアリトノ意見ナル旨ノ新聞報道アリ又二十日下院外交委員長「ポーター」ハ客年対支改約開始ニ関スル両院決議ニ言及シ最近支那政情ノ進展ニ鑑ミ米国政府トシテハ此ノ際列国ニ率先シテ米支間条約ノ全般的改訂ヲ行ヒ以テ支那側ノ好感ヲ博スヘシトノ趣旨ノ声明ヲ発シタル一方国務長官ニ於テモ張学良ト国民政府トノ妥協並日本ノ済南事件解決交渉申出ニ関スル報道等ニ徴シ支那ノ事態ヲ益々好望トシ居ル旨二十日華盛頓発「エー・ピー」ニ依リ報セラレ且同長官ハ近々対支政策ニ関スル新声明ヲ発スル積リナル旨十九日新聞記者会見ノ際内話セル旨聞込モアリ旁御来示ノ次第ハ速ニ国務長官ヘ申入レ置クコト然ルヘシト認メ二十一日午前同長官ヲ往訪シタルカ会談要領左ノ通

(二)先ツ本官ヨリ本日ノ来訪カ本国政府ノ訓令ニ基ク旨ヲ前置シタル上支那時局カ漸次好望ニ進ミツツアリトノ長官ノ所見ニハ自分モ同感ナル処支那側トシテハ其ノ国民的要望達成ノ為ニハ国内ノ整頓ヲ計ル一方常ニ合理的態度ト双方合意ノ方針トヲ以テ其ノ対外関係ヲ律スルコト必要ナルヘシ然ルニ最近支那公使ハ我外務省ニ対シ日支通商条約ヲ廃棄シ別ニ新ニ条約ヲ締結セントスルニ等シキ通告ヲ為シタル趣ナルカ抑日支両国間目下ノ条約関係ニ於テハ同第二十六条ニ徴シ現在ノ条約カ一九二六年以降十ケ年間有効ナルコト一点ノ疑ナキニモ拘ラス我方ニ於テハ支那国民ノ要望ニ顧ミ適当ナル改訂ヲ加フルニ吝ナラス誠心誠意支那側ト商議シ来リ居ル次第ナルカ支那カ

今回右様ノ通告ヲ為シ来レルハ条約ノ神聖ヲ害シ国際信義ヲ破ルモノニシテ日本トシテハ断シテ之ヲ容認スル能ハサル所同シク最近条約廃棄ノ通告ヲ受ケタル丁抹、伊、仏三国モ我国ト同様ノ態度ヲ持シ居ル由ナリ条約ノ神聖維持カ米国ノ伝統的方針ナリトハ自分等ノ予テ承知シ居ル所ナルカ一方的通告ニ依リ条約廃棄ヲ履行セントスル支那ニ対シテハ関係国一致シテ之カ反省ヲ促スコト緊要ナルヘシ就テハ今後米国カ支那ニ対シ何等措置ヲ執ラルルカ如キ場合ニハ右ノ方針ヲ高調シ支那ヲシテ常ニ合理的態度ニ出テシムル様仕向ケラレンコトヲ懇望スト述ヘタル処

(2)長官ハ果シテ条約ヲ廃棄セリヤト反問セルカ列席ノ「ジョンソン」ヨリ日支条約ハ一九二六年ヲ以テ満期トナリ其ノ後数ケ月間宛延長シ来リ最後ノ延長期限カ昨今終了ノ筈ナリトノ事故支那側ハ此ノ機ニ斯ル申出ヲ為シタルモノナルヘシト述ヘタルニ付本官ハ右ハ交渉期間ノ問題ニテ条約ノ廃棄トハ全然別問題ナリ日本トシテハ曾テ同条約ノ失効ヲ容認シタルコトナク該条約ハ右延長期間終了後ト雖依然トシテ存続スルモノナリト説明ヲ加ヘタルニ長官ハ是等細目ハ自分ノ承知セサル処ナルモ主義ノ問題トシテ条約ノ神聖ヲ維持スヘキコトニハ同感ナリ但シ米国トシテハ支那トノ条約満期モ尚数年先ノ事ニモアリ又未タ是カ解除ノ通告ヲ受ケタル次第ニモ非ス且客年一月ノ声明並南京事件解決条項中言及ノ趣旨ニ依リ支那側ニテ適当ナル交渉ノ任ニ当ルモノヲ任命スルニ於テハ是ト商議スルニ吝ナラサルヘキノミナラス最近支那側ヨリ改約希望ノ申入モアリ旁其ノ時期ハ明言シ得サルモ其ノ中右交渉ニ至ルナラント考ヘ居ル次第ニテ是ハ自分ノ申上クヘキ限リニハ非サルモ日本側ニ於テモ同様交渉ニ入ラレテハ如何ト述ヘタルヲ以テ本官ハ日本ニ交渉ノ誠意アル事ハ前述ノ通ナルモ支那側ヨリノ廃棄通知ヲ容認シテ新条約締結ノ交渉ニ入ルコトハ到底不可能ナリ長官モ条約ノ神聖維持ニ同意セラルル以上将来米国ノ対支措置ニ於テハ常ニ此ノ主義ヲ固守セラレンコトヲ希望スト繰返シタルニ長官ハ其ノ適用如何ハ個々ノ場合ニ依リ異ナルヘキヲ以テ確言シ難キモ条約ノ神聖維持ニ就テハ自分トシテモ異存ナシト答ヘタリ

(3)(ママ)(脱?)長官ニ対スルト同様ノ趣旨ヲ申述ヘタルニ「ジョ」ハ条約問題ニ関スル丁、伊等ノ態度ニ就テハ駐支公使ヨリ略々同様ノ電報アリタル処米国トシテモ先刻長官所言ノ通条約ノ神聖維持ヲ主張シ新条約ノ締結ヲ見ルコトアリトスルモ夫レ迄ハ現行条約ヲ維持シ置ク外ナシト考ヘ居レリト述ヘ次テ本官ヨリ米国政府ニ於テハ近々対支政策ニ関シ新声明ヲ発セラルル趣ノ処事実ナリヤト尋ネタルニ「ジョ」ハ右ハ事実ニテ来週終頃発表ノ積リナルモ其ノ内容、文句等ハ目下長官ノ手許ニテ考慮中ナルヲ以テ未タ御知ラセ出来サルモ其ノ後支那ノ形勢進展ニ鑑ミ客年一月ノ声明ヨリモ進ミタルモノトナルヘシト語リタルニ付此ノ種声明等ノ場合ハ特ニ自分本日ノ申入ヲ考慮ニ入レラレンコト並右声明書ハ差支ナキ限リ成ルヘク早目ニ当方ニ送付アリ度キ旨依頼シ置キタリ

尚為念貴電合第二六八号英文要訳ヲ「ジョ」ニ手交シタル処同氏ハ日本カ山東方面ヨリ減兵セラルルハ結構ナリト言ヒタルヲ以テ米国ニテモ駐支海兵ノ引揚ヲ考慮シ居ルコトナキヤト尋ネタルニ全部ノ撤退ハ此ノ際実行シ難キモ漸次減兵ノ方針ニテ目下駐支公使及在支陸海軍司令官トノ間ニ折角打合セ中ニテ成ルヘク速ニ実現シ度ト考ヘ居レリト答ヘタリ

英ニ転電シ英ヲシテ仏、伊、白、土、独、露各大使及西、蘭、瑞典各公使ニ転電セシム

547　昭和3年7月(24)日　在中国芳沢公使より田中外務大臣宛（電報）

関税問題を先ず解決し治外法権問題は後廻しにすることが得策なる旨の英国公使の談話について

北京　発
本省　7月24日後着

第一〇八三号※

英国公使ハ二十三日来訪ノ際条約問題ニ関シ路透東京来電及本使ノ会見談等一読シタルカ固ヨリ自分ニハ直接関係ナキモ最近自分カ南方要人連例ヘハ李済深、宋子文等ニ会見ノ節日本トノ関係ハ南京政府ニ於テモ特ニ注意ヲ要スル次第ナル旨ヲ説キ聞カセタル上尚関税事項ニ付テハ英国ノ如キハ既ニ相当「コンミット」セル次第ニモアリ又米国モ好意ヲ有スルモノナルカ此ノ比較的交渉ノ容易ナル関税問題

ヲ先ツ以テ解決シタル後裁判制度、監獄制度、法典等ノ改正ヲ遂行シタル後ニ始メテ解決シ得ヘキ治外法権問題ノ如キ困難ナル案件ハ之ヲ後廻トスル方得策ナリト説キ聞カセタル次第ナルカ

今回南京政府カ是等ヲ一括シテ条約廃棄ノ暴挙ニ出テタルハ誠ニ愚策ナリト思考スル次第ナルカ日本ハ強硬ナル態度ヲ把持スルモノト想像セラルル処回答文ハ既ニ発送セラレタリヤト尋ネタルニ付本使ハ英米側ニ於テハ関税問題ト治外法権問題トノ間ニ差別ヲ置カルルモ日本側ニ於テハ治外法権撤廃問題モ素ヨリ重要ニ相違ナキモ関税問題モ亦頗ル重要ニシテ両者ノ間其ノ重要性ニ於テ懸隔アル次第ニアラス尤モ互恵条約ノ締結其ノ他ノ条件ヲ充タス上ハ関税ニ関スル支那側主張ニ異存アル次第ニアラス条約問題ニ就テハ昨二十二日日本政府ヨリ訓電ノ次第アリ目下回答起草中ニ付茲数日内ニハ発送ノ運ニ至ルヘク其ノ内容ハ勿論相当強硬ナリト答ヘ置キタリ

548　昭和3年7月(24)日　在中国芳沢公使より田中外務大臣宛（電報）

記者会見にて国民政府の日中通商条約改正通告文に対する我が方見解表明について

北京　発
本省　7月24日後着

第*一〇八九号
貴電第三五九号（五四四文書）ニ関シ

国民政府カ他国ハ兎ニ角日本ニ対シテモ条約廃棄ノ措置ニ出テタルコトハ頗ル世間ノ耳目ヲ衝動シタル次第ニモアリ是ニ対スル我方ノ態度ハ時ヲ移サス天下ニ明示スルノ得策ナルハ申ス迄モ無之従テ貴電第三五九号ノ通リ遽ニ二十一日付ヲ以テ貴地ニ於テ本使ニ対スル電訓大要御発表相成リタルコトカト思考セラルル処当地ニ於テモ本使ハ二十一日新聞記者トノ定例会見ニ於テ大体貴電御来示ノ要旨ト一致スル我方見解ヲ詳細説明シ置キタル次第ニテ右ハ貴方御発表ノ分ト同時ニ内外各地新聞ニ掲載セラレタルカ故ニ我方ノ態度ヲ闡明スヘキ「プロパガンダ」ハ一応是ニテ事済トナリタル次第ナリ

次ハ国民政府ノ通告文ニ対スル我方回答ナルカ右通告文ハ今日ノ処電報ニ依リ内容ヲ承知シタル迄ニテ実物ハ目下郵送ノ途ニアルカ故ニ数日後ニ落掌スルコトト存セラルル処実物ヲ受領セスシテ何月何日付通告文ヲ受領セル旨回答ノ冒頭ニ記載シ難ク且ツ既ニ一応我方態度ヲ闡明シタル以上実物ヲ受領シタル後回答ヲ郵送スルモ差支ナク仏、伊、瑞三国モ其ノ通リ取計タル次第ニ付旁々御異存ナクハ右様取計フヘシ尚回答ハ予テ準備致シ置キタルモ貴電御来示ノ次第モアリ不肖推敲ヲ重ネ既ニ殆ト出来上リタルニ付間モナク電報スヘシ

549　昭和3年7月(25)日　在中国芳沢公使より田中外務大臣宛（電報）

関税事項の改正交渉に応じる旨の国民政府外交部長宛米国国務長官の公文米国公使より通知について

別電　七月二十五日着在中国芳沢公使より田中外務大臣宛第一〇九四号
関税事項の改正交渉に応じる旨の国民政府外交部長宛米国国務長官公文

北京　発
本省　7月25日後着

第一〇九三号（至急）
国務長官ノ命ニ依リ七月二十四日国民政府外交部長宛別電第一〇九四号ノ通ノ同官ノ公文ヲ発送シタル旨並右公文ハ二十六日正午発表スヘキ旨二十五日米国公使ヨリ通知シ来レリ
別電ト共ニ在支各総領事及南京ヘ転電セリ

（別電）

Peking,
Rec'd., July 25th. p.m., 1928.

Gaimudaijin, Tokio.
No. 1094　Urgent

Events in China have moved with great rapidity during the past few months. The American Government and people have continued to observe them with deep and sympathetic interest. Early in the year, the American Minister to China made a trip through the Yangtze

Valley region and while in Shanghai exchanged on March 30, 1928, with the Minister for Foreign Affairs of the Nationalist Government, notes in settlement of the unfortunate Nanking incident of March 24, 1927.

In pursuance of the terms therein agreed upon, a Sino-American Joint Commission has been entrusted with the appraisal of damages suffered by the American nationals during that occurrence. On January 27, 1927, I made a statement of the position of the United States toward China. To it I have often subsequently had occasion to refer in reaffirmation of the position of this Government.

I stated therein that the United States was then, and from the moment of the negotiation of the Washington Treaty had been prepared to enter into negotiations with any Government of China or delegates who could represent or speak for China, not only for putting into force the surtaxes of the Washington Treaty but for restoring to China complete tariff autonomy.

Ever since, the American Government has watched with increasing interest the developments pointing toward co-ordination of the different factions in China and the establishment of a government with which the United States could enter into negotiations. Informed through press despatches and through official reports which have from time to time been released to the Press, the American people also have observed with eager interest these developments.

In a note addressed by the American Minister to China to the Minister for Foreign Affairs of the Nationalist Government at Nanking on March 30th of the present year, in reply to a suggestion of the latter concerning revision of existing treaties, reference was made to the sympathy felt by the Government and people of the United States with the desire of the Chinese people to develop a sound national life of their own and to realise their aspirations for a sovereignty so far as possible unrestricted by obligations of an exceptional character and it was stated that the American Government looked forward to the hope that there might be developped an administration so far representative of the Chinese people as to be capable of assuring the actual fulfillment of any obligations which China would of necessity have for its part to assume incidentally to readjustment of treaty relations.

In a communication addressed to me under date July 11, 1928, Mr. Chao-Chu Wu informs me that the Nationalist Government has decided to appoint plenipotentiary delegates for the purpose of treaty negotiations, and that he is instructed to request that the Government of the United States likewise appoint delegates for that purpose.

The goodwill of the United States toward China is proverbial, and the American Government and people welcome every advance made by the Chinese in the direction of unity, peace, and progress. We do not believe in interference in their internal affairs. We ask of them only that which we look for from every nation with which we maintain friendly intercourse, specifically, proper and adequate protection of American citizens, their property, and their lawful rights, and, in general, treatment in no way discriminatory as compared with the treatment accorded to the interests or nationals of any other country.

With a deep realization of the nature of the tremendous difficulties confronting the Chinese nation, I am impelled to affirm my belief that a new and unified China is in process of emerging from the chaos of civil war and turmoil which has distressed that country for many years. Certainly this is the hope of the people of the United States.

As an earnest of the belief and the conviction that the welfare of all the peoples concerned will be promoted by the creation in China of a responsible authority which will undertake to speak to and for the nation, I am happy now to state that the American Government is

ready to begin at once, through the American Minister to China, negotiations with properly accredited representatives whom the Nationalist Government may appoint, in reference to the tariff provisions of the Treaties between the United States and China, with a view to concluding a new Treaty in which it may be expected that full expression will be given reciprocally to the principle of national tariff autonomy and to the principle that the commerce of each of the Contracting Parties shall enjoy in the ports and territories of the other treatment in no way discriminatory as compared with the treatment accorded to the commerce of any other country.

Yoshizawa.

550 昭和3年7月(25)日 在中国芳沢公使より田中外務大臣宛（電報）

国民政府への米国国務長官の通告および米中新条約交渉経緯に関する米国公使の談話について

北京 発
本省 7月25日後着

*第一〇九九号（至急極秘）

(1)往電第一〇九三号（五四九文書）ニ関シ

米国公使ノ書面ニ接スルヤ一面直ニ閣下ニ電報スルト同時ニ他面同公使ヲ訪問シテ一、国務長官ノ通告伝達ノ方法如何二、同通告末段ニハ直ニ交渉ヲ開始スルノ用意アル旨ヲ記載シアル次第ナルカ直ニトハ何時ノ事ナリヤ三、同通告ハ関税事項ノ改正ノミニ言及シ居ル処其ノ他ノ事項ニ付テハ如何並ニ四、国民政府承認問題トノ関係如何等ニ付同公使ニ質問ヲ重ネタル結果同公使ハ右ニ対シ

一、昨二十四日南京政府外交部長ニ宛テ電報ニテ転達シタリトテ右電報ヲ示シタルニ付一覧シタル処右ハ完全ナル公文ニテ先ツ I have the honour ヨリ始マリ国務長官ヨリ左ノ通ノ通告ヲ閣下ニ伝達スルノ訓令ヲ受ケタル次第ヲ述ヘタル上往電第一〇九四号（五四九文書別電）国務長官ノ通告全文ヲ Quotation 付ニテ挿入シ終リニ此ノ機会ニ於テ閣下ニ向ツテ敬意ヲ表ス云々トアリタリ

二、次ニ交渉ヲ直ニ開始スルノ意味ニ付テ同公使ノ説明セル処ニ依レハ今春同公使カ上海滞在中南京政府外交部長ニ対シテ

(2)関税事項ニ付一面南京政府ト交渉ヲ為シ他面北京政府トモ同様ノ交渉ヲ開キ双方ノ交渉ニシテ纏マリタル場合ニハ可成一個ノ条約トナシ南北両政府外交部長及同公使ニ於テ署名スルコトトシ若シ右方法カ困難ナリトセハ南北別ニ米国トノ間ニ条約ヲ締結スルコトトスルモ差支ナキ旨ヲ述ヘ北京ニ帰任後北京政府外交総長ニモ同様ノ事ヲ述ヘタル次第ナルカ当時南北両政府トモ何等之ヲ考慮スルコトナカリシカ先日王正廷ノ代表者郭秉文ノ来訪シタル際支那モ大体統一セラレタルニ顧ミ関税事項ニ関シ交渉ヲ開始スルモ差支ナキ旨自分ヨリ郭ニ語リタル結果郭ヨリ南京ニ電報シタル処南京ヨリハ何等ノ返電スラナカリシ次第ナルカ今回本問題ハ意外ニ急速ニ進捗シ目下宋子文ト交渉中ニシテ最初宋ニ対シ自分ハ郭ニ述ヘタルト同様ノコトヲ語リタル処宋ハ何トカ之ヲ纏メ得ヘシト答ヘタルカ

三、(3)南京政府ト打合セノ結果爾来自分トノ間ニ交渉ヲ進メ目下有望ニ進行シツツアリ此ノ交渉ニシテ纏マル上ハ通商条約中輸入税戻シ税噸税等ノ関税事項ノミノ範囲ニ於テ通商条約ヲ一部的ニ改訂セントスルモノニシテ（従テ治外法権撤廃其他ノ問題ニハ一切及ハス）出来上ルヘキ条約ノ内容ハ輸出入税戻税噸税等ノ関税事項ニ関スル通商条約ノ規定ハ一九二九年一月一日限リ其ノ効力ヲ失ヒ支那ハ完全ニ関税自主権ヲ恢復スヘク米国国民及米国貨物ハ他国国民及他国貨物ヨリ不利益ナル待遇ヲ受ケサルモノトスト言フノ趣旨トナルヘシ

宋ノ言ニテハ自分ト宋トノ間ニ調印ヲ了セハ南京政府ニテハ grand council ニ於テハ之ヲ批准スル筈ナリトノ事ナルカ米国側ニ於テハ上院ハ来ル十二月ニ至ラサレハ開会セス又開会シタル暁ニ於テモ果シテ一月一日以前ニ批准手続ヲ完了シ得ルモノトハ断言シ難ク其ノ場合批准手続ハ一月一日ヨリ後ルル事トナルヘキ懸念アリ右様ノ場合ニ於テハ前例モアル事ナルカ故ニ

(4)行政府タル国務省ニ於テ支那政府カ米国民ニ国定税率ヲ賦課スルニ対シ抗議セサル事トスルヲ得ヘシト述ヘタリ依テ本使ハ同公使ニ対シ若シ南京政府カ米国以外ノ他ノ各国トノ間ニ関税協定改正ノ商議纏マラサル場合ニハ実際上米国

モ亦新条約ノ成立ニ拘ラス来年一月一日ヨリ国定税率ニ服従スル事無カルヘシト述ヘタル処其ノ通ナリト答ヘタリ

四、本使ハ又米国公使ハ国民政府ニ対シ仮令特ニ承認ノ措置ヲ取ラサルニセヨ条約ヲ締結シ批准交換迄進ムモノトセハ実際上承認ヲ与フルト同様ナリト述ヘタル処同公使ハ其ノ通ニテ先ツ「デ・ジュア」ノ承認ハ兎ニ角トシテ「デ・ファクト」ノ承認ヲ与フルト同様ナルヘシト答ヘタリ

米国公使トノ会談ノ要領ハ大体右ノ通ナルカ一般ニ承認セラレタルハ其ノ外交部長ニ与ヘタルト全然同一ナル形式ノ公文ヲ電報シ而モ国務長官ノ為ニ（on behalf of）之ヲ電報ニテ伝達シタル事其レ自身既ニ大体ニ於テ承認ヲ与ヘタルト同様ト存ス米国公使ハ当分右本使トノ会談ハ極秘ニセラレタシト述ヘ居タリ

在支各総領事、南京ヘ転電セリ

551　昭和3年7月(26)日　在中国芳沢公使より田中外務大臣宛（電報）

米中関税条約調印の既成事実を考慮に入れ、我が方今後の対処にあたるべき旨について

付　記　米中関税条約訳文

北京　発
本省　7月26日後着

第一一〇八号
往電[1]第一〇九九号（五五〇文書）ニ関シ

七月二十六日朝米国公使来訪昨二十五日午後宋子文自分ヲ来訪商議ノ結果条約案文ヲ確定シ直ニ宋ト自分トノ間ニ調印ヲ了セリ右条約写ハ本二十六日正午迄ニ本使ニ送リ届クヘク尚明二十七日正午之ヲ発表スル旨語リタルニ付宋子文トノ最初ノ会見ハ何日ナリシヤト尋ネタル処本月二十日ニシテ実ハ昨年十月自分カ華府滞在中案文ヲ起草シ爾来法律家ノ手ニ依リ字句ノ修正ヲ見タルカ兎ニ角案文トシテハ既ニ出来上リ居タルモノナルカ故ニ二十日以来宋トノ交渉ハ多少字句ノ修正ヲ見タルモ一瀉千里ニ進捗シタル次第ナリト語リタルニ付本使ハ関税事項ニ関スル最恵国条款ヲ支那側ヲシテ容易ニ承諾セシメタルハ米国側ノ成功ナリト述ヘタル処右ハ相手カ宋子文ノ如キ「ビジネスライク」ノ人物ナリシカ為成功シタルモノト思ハルト述ヘタル上本条約締結ノ為日本側ノ条約問題ニ影響スル虞ナキカト尋ネタルニ

付本使ハ米国カ其ノ好ム処ノ方針ニ依リ如何ナル条約ヲ締結スルモ米国ノ自由ナルハ勿論ナルモ我方ニ取リテハ影響スル処少カラス国民政府側ニ於テハ必ス米支条約締結ヲ利用スヘシト答ヘ置キタリ

惟[2]フニ米国側今回ノ遣口ハ全然米国式ニシテ祕密ニ且疾風迅雷的ニ進捗スルト同時ニ他人ノ迷惑ヲ毫モ顧ミサルモノト云フヘク国民政府ニ取リテハ予期セサル大ナル福音ヲ得タルモノナルカ既ニ完全ナル条約ノ形式ニ於テ調印セラレタルカ故南京政府トシテハ独リ通商条約ノ一部的改正ニ成功シタルニ止マラス事実上ノ承認ナル政治的昇格ヲ得タル次第ニシテ国民政府ノ得意思フヘキモノアルモ既成事実ナル以上致方ナク我方トシテモ此ノ既成事実ヲ考量ニ入ルル必要アリ本使ニ於テモ昨日来条約問題ニ付多少考慮ノ次第アルモ追テ卑見申上クルコトト致スヘシ

尚米国公使ノ談ニ依レハ米国政府ヨリ全権委任状ヲ電報シ来リ国民政府ヨリハ唐悦良ニ全権委任状ヲ電報シ唐ヨリ之ヲ書面ニ認メ同公使ニ送致シ二十四日宋ト同公使トノ間ニ相互ニ之ヲ提示シタリトノコトナリ右不取敢

条約文ハ別電第一一〇九号ノ通

別電ト共ニ在支各総領事（間島、成都ヲ除ク）及南京ヘ転電セリ

（付　記）

亜米利加合衆国支那共和国間ノ税率関係ヲ規律スル条約

亜米利加合衆国及支那共和国ハ共ニ両国間ニ現存スル親善関係ヲ維持セントスル切実ナル希望ニ促カサレ且両国間ノ通商関係ヲ拡張シ鞏固ナラシメンコトヲ欲シ、右目的ヲ促進スヘキ条約ノ締結ヲ商議スル為左ノ如ク各其ノ全権委員ヲ任命セリ

亜米利加合衆国大統領

支那国駐劄亜米利加合衆国特命全権公使
「ジー・ヴィー・エー・マクマレー」

支那共和国国民政府委員会

支那共和国国民政府財政部長　宋子文

右各全権委員ハ会合ノ上互ニ其ノ全権委任状ヲ示シ之カ良好妥当ナルヲ認メタル後両国間ニ左ノ条約ヲ協定セリ

第一条

亜米利加合衆国及支那国間ニ従来締結セラレ且現ニ効力ヲ有スル諸条約中ニ掲ケラレタル一切ノ規定ニシテ支那国ニ於テ商品ノ輸入及輸出ニ賦課スル税、戻税通過税及噸税ノ税率ニ関スルモノヲ廃止シ其ノ実施力ヲ喪失セシメ完全ナル国家ノ関税自主ノ原則ヲ適用スベシ但シ各締約国ハ他ノ締約国ノ領域内ニ於テ前記ノ事項及之ニ関連スル一切ノ事項ニ関シ他ノ如何ナル国ニ付与セラルル待遇ニ比スルモ毫モ差別的トナラサル待遇ヲ享有スルコトヲ条件トス

何レノ締約国ノ国民モ他ノ締約国ノ領域内ニ於テ其ノ輸出入ニ対シ如何ナル名義ヲ以テスルモ該国ノ国民又ハ他ノ孰レカノ国ノ国民ノ納付スル所ト異ナルカ或ハ之ヨリ多額ナル関税、内地課金又ハ税金ヲ徴収セラルルコトナカルベシ

前二項ノ規定ハ千九百二十九年一月一日ヨリ実施セラルベシ但シ次条ニ規定スル批准交換ガ右期間以前ニ行ハレタルトキニ限ル然ラザル場合ニハ本条約ハ批准交換後四ケ月ヲ以テ実施セラルベシ

第二条

本条約ノ英吉利文及支那文ハ慎重ニ比較検討セラレタルモ両文ノ間ニ意義ノ相違アリタル場合ニハ英吉利文ニ表示セラレタル意義ニ拠ル

本条約ハ両締約国ノ憲法ノ規定スル所ニ従ヒ批准セラルヘク批准書ハ成ルベク速ニ「ワシントン」ニ於テ交換セラルベシ

右証拠トシテ下名ハ其ノ権限ニ基キ英吉利語及支那語ニテ作成セラレタル本条約二通ニ署名調印セリ

千九百二十八年七月二十五日即支那共和国十七年七月二十五日北平ニ於テ作成ス

552　昭和3年7月(26)日　在中国芳沢公使より田中外務大臣宛（電報）

関税事項交渉における英国の方針について

北京　発
本省　7月26日後着

第一一一三号
往電(1)第一一〇八号(五五一文書)ニ関シ

二十六日英国公使ヲ訪問シテ英国モ近ク米国ノ例ニ倣フコトナキヤト質問シタル処同公使ハ一笑シタル上条約迄成立シタルコトヲ聞キ実ニ一驚ヲ喫シタリ自分トシテハ唯本国

政府ニ対シ電報シタルノミニテ何等意見ヲ上申セスト答ヘタルニ付本使ハ英国ハ関税事項ニ付テハ既ニ「コンミット」セル次第モアリ米国ノ例ニ倣フヘキ可能性アルニアラスヤト述ヘタルニ同公使ハ其ノ通ナリ乍去自分ノ今日迄受領セル本国政府ノ訓令ニ依レハ自分カ支那側ト関税事項ニ関シ何等協議スルコトアルヘキ場合ノ方針トシテハ

(一)新ニ施行セラルヘキ関税カ全国的（「ナショナル」）ニシテ地方ニ依リテ税額ニ差別ナキコト

(二)他国ト差別的ナラサルコト

(三)税金徴収ノ際ハ誠実（「オネスト」）ナルヘキコト

等ナルカ米国新条約ハ最恵国条款ヲ除キ其ノ他ハ全然無条件ナルカ故ニ右英国政府ノ自分ニ与ヘタル方針モ今後大体必要ナキニ至リタルヤニ見受ケラル

何(2)分米国条約ハ一朝ニシテ出来上リタル為自分モ（二字脱字）何等ノ意見ヲ有セスト述ヘタル上貴公使ノ意見如何ト尋ネタルニ付本使ハ米国条約ハ要スルニ一種ノ予約ニ過キス従テ或一国ト支那トノ間ニ関税事項ノ改正セラレサル限リ今後何年ヲ経ルモ実行ニ至ラサルヘキ次第ナルモ之ヲ政治上ヨリ観レハ国民政府ニ対シ完全ナル承認ヲ与ヘタル訳ニテ差当リ此ノ点ヲ重大ト認ムト述ヘタル処英国公使ハ誠ニ其ノ通ニテ英国学者ノ見解ニテハ条約ヲ締結スル上ハ完全ナル法律上ノ承認ヲ与ヘタルト同様ナリトノコトナリト述ヘタル上尚自分モ米国条約ヲ多少研究シタル後一両日内更ニ本使ヲ来訪シテ意見ヲ交換シタキ旨述ヘタルニ付本使ハ之ヲ承諾シ置ケリ

尚英国公使ハ今回ノ米国ノ遣口ハ全ク米国式ナルカ日本側ノ感想如何ト尋ネタルニ付本使ハ我方ノ通商関係ハ米国ニ比シ頗ル複雑ナルヲ以テ爾ク簡単ニハ処理スル能ハスト答ヘ置ケリ

在支各総領事及南京ヘ転電セリ

553　昭和3年7月27日　田中外務大臣より在中国芳沢公使宛（電報）

日中通商条約改正通告に対する我が方回答案内容および発出時期に異議なき旨について

本省　7月27日発

通※第九号
貴電第一〇八九号(五四八文書)後段並一一〇四号ニ関シ

回答案内容並ニ先方通告文受領後右回答発送方共ニ異議ナシ但シ回答案末項中「前記大正十五年ノ回答」ヨリ「商議ノ基礎トシテ」迄ハ此際特ニ言及ノ要ナカルヘシト認メラルルニ付削除シオカレタシ

554　昭和3年7月(27)日　在中国芳沢公使より田中外務大臣宛（電報）

国民政府の条約廃棄通告への回答形式について

北　京　　発
本　省　7月27日前着

第一一一五号※

往電第一一〇四号ニ関シ

過日来南京政府カ廃棄ノ通告ヲ為シ来リタル国ハ伊、仏、西、葡、白、(丁)及日本ノ七ケ国ニシテ其内白耳義ヲ除ク外他ノ五ケ国ノ南京政府ニ対スル回答写ハ総テ本使ニ於テ受領シタル次第ハ電報並ニ公信ヲ以テ報告ノ通ナルカ各回答カ条約ノ廃棄ヲ拒絶シ改訂ノ商議ニ同意セル趣意ニ於テハ大同小異ナリ又此ノ点ニ於テハ我方ノ分モ同様ナルカ唯形式ニ於テ各国ハ皆純然タル公文ノ形式ヲ用ヒ居レリ就テハ日本独リ覚書ノ形式ト為スコトハ実際上何等利益ナキノミナラス徒ニ南京政府ノ感情ヲ害スルノミナラス之ヲ発表スル場合ニハ日本独リ如何ニモ南京政府ヲ軽視スルカ如キ印象ヲ世間ニ与フルモノト思考セラルルニ付御異存ナクハ公文ノ形式ニ於テ回答スルコトニ致スヘシ

555　昭和3年7月(27)日　在英国佐分利臨時代理大使より田中外務大臣宛（電報）

中国との条約改正問題に関するチェンバレン英外相との会談について

ロンドン　発
本　省　7月27日後着

第一四九号

在米大使宛貴電第一五九号(五四一文書)ニ関シ

七月二十五日外相ニ面会シ右貴電並在米大使宛貴電合第二七七号ノ趣旨ニ依リ我政府ノ態度ヲ説明シタル処「チェンバレン」氏ハ前日胡漢民及孫科来訪ノ際支那ノ対外関係ヲ相互平等ノ基礎ニ置ク希望ヲ縷述セルニ付先ツ不平等条約

ハ元来支那カ外国人ヲ自国人ト異ナル地位ニ置ク事ヲ目的トシタルモノニシテ外国人ニ恩恵ヲ与フル目的ニ出テタルモノニ非サル事ヲ指摘シタル上英国政府ハ一昨年ノ覚書ニ於テ条約改正ノ交渉ニハ好意ヲ以テ応スルノ用意アル事ヲ明カニシ居リ之カ実現ニ付テハ寧ロ支那側ノ努力ニ俟ツヘキモノ多シト思考シ居ル次第ナリ而シテ右改訂ノ遂行ニ付テハ外国トノ交渉ニ依ルヘキモノニシテ支那ノ一方的行為ニ依ル事ヲ得サル旨ヲ篤ト説示シ置ケリ尚其ノ節支那カ外国トノ間ニ諸問題ヲ解決セムトセハ第一ニ南京事件ノ如キ直ニ之カ解決ヲ図ルヘキモノニシテ英国ハ米国ト同様ノ条件ニテ本問題ヲ解決スルニ異議無キニ拘ラス支那カ同一ノ条件ヲ以テ或友邦トハ協定ヲ為シ得ルモ他ノ友邦トハ之ヲ為シ得ストスルカ如キハ了解ニ苦シム処ナル旨ヲ付言シ置キタリト言ヘリ依テ本官ハ更ニ言ヲ継キ南京政府ハ丁、伊、仏ノ諸国ニ対シテモ我方ニ対スルト同趣旨ノ申出ヲ為シ三(国)ヨリ既ニ夫レ夫レ支那ノ主張ヲ容認シ得サル事ヲ回答シ居ル次第ナルカ帝国政府ハ本件条約廃棄対策並ニ臨時弁法適用阻止ニ付テハ諸外国ニ於テ一致ノ態度ヲトリ互ニ協調スルノ緊要ナル事ヲ痛感シ居ル次第ナリト述ヘタルニ外相ハ前述ノ如ク支那ハ外国トノ交渉ニ依リテノミ条約問題ヲ解決シ得ヘキ事ヲ機会ニ応シ明カニ居ル次第ニシテ北京ニ於テハ関係国代表者ハ互ニ密接ノ連絡ヲ保チ居ルニ付同地ニ於テモ事情ニ応シ適宜審議スル処アルヘシト思考スト言ヘリ

更ニ本官ハ条約問題ニ付英国政府カ帝国政府ト同様ノ見解ヲ以テ支那側ニ対応シ居ラルルコトヲ報告シ置クヘシト挨拶シタル後日支現行条約失効セリトノ支那側ノ主張ハ之ヲ承認スル事ヲ得ス又臨時弁法ハ関税及法権ニ関スル重大問題ニシテ之カ一方的強行ハ到底帝国政府ノ黙過シ得サル所ナル旨ヲ付言シタルニ外相ハ人ハ一般ニ権力ヲ得ルニ従ヒ其ノ態度ヲ緩和スルモノナレハ南京政府カ強硬ナル手段ニ出ツルカ如キ事無キヲ期待スト言ヒ次ニ外相一己ノ考ヘトシテハ関税問題ハ其ノ解決比較的容易ナルヘク勿論諸外国ノ利害関係ハ必スシモ一致シ得スト雖モ一国カ支那ヨリ得ル利益ハ自然他国モ之ニ均霑スルモノナレハ各国カ夫々支那トノ間ニ適当ノ協定ヲ為シ得レハ事足ル次第ナルカ法権問題ニ至リテハ支那国法制及司法制度ノ確立ニ俟タサルヘカラサルカ故ニ其ノ解決容易ナラス故ニ両問題ノ内先ニ解

決セラルルモノハ関税問題ナルヘシト言ヘリ
米、仏、伊、白、蘭、西、瑞典ヘ転電シ独、露、土ニ暗送セリ

556　昭和3年7月㉘日　在中国芳沢公使より田中外務大臣宛（電報）

米中関税条約締結に対し好意的態度を示すことが得策なる旨意見具申

北京　発
本省　7月28日前着

第一一二〇号（極秘）

済南事件、張学良ニ対スル警告事件続イテ条約廃棄問題等引続キ惹起シ日支間ノ関係ニ多大ノ暗翳ヲ投シツツアル際米国カ実質上ニ於テ左程ノ価値モ無キ条約ヲ締結シテ支那側ノ人気ヲ煽動シタル為左無キタニ日本ニ対シテ悪感ヲ有スル支那側ノ我方ニ対スル悪声ニ油ヲ注キタル感アリ風説ニ依レハ今回ノ条約締結ハ「マクマレイ」自身ハ左程熱心ナラサリシノミナラス国務省ニ於テモ長官ハ左程乗気ナラサリシモ極東課員カ新聞記者等ト共謀シテ長官ヲ動カシタルヤノ趣ナルカ右ハ果シテ真実ナリヤ勿論判明セサルモ或ハ多少ノ真相ヲ伝フルモノナルヤモ計リ難ク殊ニ往電第一一一三号ニテ御承知ノ如ク米国公使ハ本国政府ノ急進政策ニ不本意乍ラモ兎角引摺ラレ行ク風アル次第ニ付米国カ新聞記者又ハ宣教師ノ宣伝ニ依リ国策ヲ定ムル場合モ有之旁々右風説ハ強チ無根ナリトハ言ヒ難シ而シテ右条約締結ノ結果米国人ノ内日本ノ措置ニ感服セサル分子及ヒ支那新聞記者、学生、英米帰リノ留学生等カ狂喜シテ之ヲ歓迎シツツアル状況ニテ恐ラクハ締結者タル宋子文自ラ自己ノ地位ノ鞏固ヲ加ヘタルヲ喜フノミナラス南京政府モ単ニ関税事項ニ関スル一片ノ予約ニ過キサル本条約ノ締結ヲ以テ非常ナル大成功ナルカ如ク満足セルモノト推察セラルル次第ナルカ之ト反比例ニ当国ニ於ケル日本ノ立場ハ前記ノ如ク左ナキタニ困難ナル際本件ニ依リテ更ニ一段ノ困難ヲ加ヘタルモノナル処此ノ際日本トシテハ徒ニ不満ノ色ヲ表スカ如キ事ハ思慮ノ浅キ事ヲ示ス迄ニテ何等ノ利益ナク米支間ノ条約成立ヲ礼讃シテ支那ニ対シ好意ヲ有スル事ヲ吹聴スルコト得策ナリ幸ニ若シ支那側ニシテ少シク自省シテ我方ノ思慮アル態度ニ共鳴シ双方ノ努力ニ依リ国交ヲ常軌ニ復セシムルコトヲ得ハ素ヨリ好都合ナルモ若シ南京政府及国民ニシテ無思慮ニモ非常識ヲ暴露シ徒ニ米国ヲ過賞シテ我方ニ対シ次第ニ無礼ナル態度ヲ採リ来ルカ如キ場合ニハ之コソ我方ニトリ不利益ニ非ス即チ其ノ場合ニハ我方ニトリ相当ノ口実モ出来ル訳ナルカ故其ノ時ニ至リ腰ヲ据ヘテ断然タル措置ニ出ツルコト然ルヘク即チ孰レノ場合ニ対シテモ此ノ際ハ隠忍シテ寧ロ従来以上好意的態度ヲ示スコト得策ナリト認メラルルニ付本使モ其ノ含ヲ以テ内外ニ宣伝、応酬シ居レル次第ナリ右御参考迄

在支各総領事、南京ヘ転電セリ

557　昭和3年7月㉘日　在南京岡本領事より田中外務大臣宛（電報）

臨時弁法を弾力的に運用し現状を大きく変えるつもりはない旨の国民政府側の通告について

南京　発
本省　7月28日前着

第三一八号※

条約問題ニ関シ遅蒔乍ラ事情御参考迄電報ス

国民政府中央党部等各方面ニ接シ得タル情報ニ依レハ過般突如トシテ条約ニ関スル対外宣言ヲ発表シタルハ外交界ノ一人者ヲ以テ任シ御承知ノ如キ性格ヲ有スル王正廷カ其ノ就任以来各方面特ニ党部方面ノ不評判ヲ恢復スル意味ヲモ含メ二、三外国トノ条約期限満了ヲ好機ニ人気取リ的ノ提案ヲナシタル処穏健主義ヲ持スル幹部ハ其ノ余リニ急激ナル措置ヲ危ミタルモ提案ノ趣旨カ本来国民党ノ伝統的主張ニモアリ且ツ王正廷ヨリ新条約締結迄ハ臨時弁法ヲ適当ニ運用シテ実際上ハ旧条約存続ト大差無キ取扱ヲナスヘク各国亦強テ反対セサルヘシトノ説明ニ信頼シ二、三修正ノ上決議シテ直ニ宣言ヲ公布シ引続キ伊国、丁抹、仏国等ニ対シ条約廃棄ノ通告ヲ発シタルモノニシテ宣言公布後日本ノ強硬ナル反対態度ヲ知リタルモ既ニ遅ク王正廷排斥派ハ今更乍ラ王ノ処置宜シカラサリシヲ非難シタリト云フ

去ル二十四日本官ヲ来訪セル于右任モ本官ノ日本ハ条約廃棄ノ如キ国際信義ヲ無視シタル暴挙ヲ非ナリトナスモノニシテ臨時弁法ノ効力如何ヲ云々為スモノニ非ス国民政府ニ

於テ誠意タニ示サルルニ於テハ欣ムテ条約改訂ノ商議ニ応スルノ意思ナリトノ説明ニ対シ日本ニ対スル通告ヲ他国ト異ナラシムルノ不可能ナリシ事等ヲ説明シテ「我等ニ同情シ条約改訂ニ応セラレタク臨時弁法ハ如何様ニモ伸縮シ決シテ貴国及貴国居留民ニ対シ不便ヲ与フルノ意思毫モ無シ」ト繰返シ聊カ当惑スルカ如キ態度ヲ示シ

譚延闓、李烈鈞亦本官ニ対シ事態ノ悪化ハ憂フヘキモ問題ノ性質上此ノ際進ムテ妥協案ヲ提出スルノ勇気無ク外交部ヨリ何等カ妥協的提案ヲ為シ来ラサル限リ差当リ施スヘキ策無シ乍併決シテ直ニ従来ト異ナル待遇ヲ貴国国民ニ与ヘムトスルニ非スト繰返セリ又周龍光モ王部長ノ内意ヲ受ケタルモノノ如ク本官ヲ来訪日本国民ヲ直ニ臨時弁法所定ノ通リ取扱ハムトスルモノニ非スト述ヘ「臨時弁法第四条ニ期限ヲ付セサリシハ此ノ趣旨ニ外ナラス各地方官憲ニ対シテモ同弁法運用ヲ命令セス種々ノ事件ニ関シ訓令ヲ仰キ来レル地方官ニ対シテモ一律回答ヲ差控ヘ居ル様ノ次第ニシテ実際上ニ於テハ旧来ト何等変ル事無キ措置ニ出ツル次第ナリ」ト述ヘタリ

叙上ノ如キ宣言公布ハ甚タ突差ノ間ニ行ハレタルモ若シ予メ之ヲ探知シ適当ノ手段ヲ講シナハ本件衝突ヲ未然ニ防止シ得タルナルヘク本官ノ深ク遺憾トスル所ニシテ支那側ニ於テモ王正廷ノ軽率ヲ非難スル者多ク最近特ニ政府及党部ニ於テ王攻撃ノ声高シトハ李烈鈞ノ本官ニ語レル処ニシテ王ハ或ハ其ノ辞職ヲ余儀無クセラルルニ非サル無キヤヲ思ハシムルモノアリタリ然ルニ突如示サレタル米国政府ノ宣言ハ一面王正廷ノ地位ヲ鞏固ニシ他面益々日支間各種問題ノ解決ヲ困難ナラシメタルモノト信ス

558　昭和3年7月(29)日　在中国芳沢公使より田中外務大臣宛（電報）

日中通商条約改正の交渉方針に関し日本政府の意向確認について

北京　発
本省　7月29日前着

第*一一二七号

条約問題ニ付テハ日支通商条約ノ善後策及米支条約成立ノ影響等ニ関シ目下折角御考究中ノコトト拝察致ス処窃ニ惟フニ日支通商条約ノ方ハ此ノ儘放任スルニ於テハ支那側ト

ノ間ニ妥協ノ成立スル気遣ナク即チ一方ハ該条約ヲ以テ既ニ効力ヲ失ヒタルモノト看做シ一方ハ尚効力ヲ有スト主張スルカ故ニ生ト死トノ間ニ妥協ノ成立スル筈ナク殊ニ我方ニ於テモ自説ヲ固持スルト同様南京政府モ目下ノ鼻息ニテハ到底其ノ主張ヲ枉ケサルヘク従テ若シ帝国政府ニ於テ南京政府ニ対シ飽迄鬼面ヲ被リテ之ト接触スルコトヲ避ケラルル御方針ナルニ於テハ格別若シ然ラサル場合ニ於テハ何等カノ工夫ヲ運ラサルルコト必要ナリト思ハルル処本使ノ考ニ依レハ日支双方共其ノ自説ヲ暫ク寝カシ置キタル儘トシテ兎ニ角商議ヲ開始スルコトトセハ双方ノ面目モ保持セラレ且ツ双方ノ目的ヲ達スルコトヲ得ヘク差当リ右以外良案ナキヤニ認メラル将又米支条約ニ付テハ卑見ヲ以テセハ条約締結ノ結果米国ノ関スル限リニ於テハ関税条約ヲ大部分修正シタルコトニナリ事実ニ於テ米国ハ関税条約ヨリ脱退シタルト同一ノ結果ヲ生スルモノト思考ス米国カ其ノ主宰国トナリテ締結シタル関税条約ヲ遺棄シテ顧ミサルノ態度ハ誠ニ以テ無責任ノ至リト言フヘク由来米国カ今年締結シタル条約ヲ明年ニ於テ破棄スルカ如キハ従来屢々其ノ例アリ現ニ石井「ランシング」協定、高平「ルート」協約等比々皆然リト申スヘク従テ我方ニ於テモ例ヘハ九国条約、四国条約ノ如キハ将来我方ニ取リテ不利益ナル点生スルニ至ラハ其ノ主張ヲ明カニシテ右規定ノ行ハレ難キ理由ヲ宣明シタル上之ニ拘束セラレサルコトトスルモ一策ト存ス尤モ此ノ場合関税条約ト米支条約トノ関係ニ付米国政府ニ対シ厳重ノ解釈振ヲ質セラルルコト将来ノ為必要カト存ス尚仄ニ聞ク処ニ依レハ南京政府ニ於テハ国定税率施行前暫行税率ヲ実施スルノ議アルヤノ趣ナリ

右ハ例ノ七箇条ノ臨時弁法施行ノ筆法ニ顧ミ有リ得ヘキ計画ナルヤニ認メラルル処我方トシテ之カ対応策ヲ考究シ置ク必要アリ何レニセヨ暫行税率ト言ヒ国定税率ノ施行ト言ヒ従来ノ我方方針ニ依レハ互恵税率ノ協定釐金ノ撤廃債務整理其ノ他支那トノ間ニ談ヲ取纏ムヘキ必要アル事項少カラサル次第ナルカ帝国政府ニ於テハ今尚関税条約以来ノ御方針ニ依ラムトセラルル御意向ナリヤ成ルヘク速ニ本使ノ心得御垂示ヲ請フ

559　昭和3年7月(30)日　在上海矢田総領事より田中外務大臣宛（電報）

米中関税条約締結の影響および対中国政策の再検討につき意見具申

上海　発
本省　7月30日後着

第五一五号*

米国ノ南京政府宛公文ノ発表ニ引続キ米支関税条約調印ノ報道ハ当地内外人ニ衝動ヲ与ヘ在留外国人ハ宗教関係者、新聞記者等直接実業ニ関係ナキ人々ヲ除キテハ何レモ自己ノ利害ヨリ対支政治意見ハ保守的ナルヲ以テ米国ノ突飛ナル迎合政策ニ対シ非難シツツアルモ一般支那民衆ハ実質ノ如何ヲ深ク討究スル処ナク米国ノ逸早ク支那ノ統一ヲ承認シ関税自主権ヲ容認シタルヲ感謝シ居レリ而シテ右感謝ノ情ハ一転シテ我国ニ対スル憎悪怨恨トナリテ発露スヘキハ見易キ道理ニシテ国民党中ノ急進派ハ此ノ機会ヲ捕ヘテ益々民衆ヲ煽動スヘク日貨排斥団体モ最近張学良ニ対スル勧告問題ヲ利用シテ勢力ヲ盛リ返シタルカ更ニ此ノ際倍旧ノ勢ヲ得ヘク其ノ運動モ累次ノ往電ヲ以テ報告シタル通リ漸次組織的全国的トナリ且ツ根強キ根底ヲ植付ケントシツツアリ今後排日機運ノ進展楽観ヲ許ササルモノアリト存セラル既ニ二十九日ノ民国日報ニモ「日本孤立ニ陥ル」トノ標題ヲ掲ケ米支条約ノ調印ニ依リテ窮境ニ陥レル在支日本公使ハ局面打開ノ為メ対支政策変更ヲ大臣ニ稟請セリトノ北京電報ヲ掲ケ居ルニ鑑ミルモ彼等ノ意向ヲ察知スルヲ得ヘシ

茲ニ過去一年余ノ日支外交ノ沿革ヲ顧ミルニ漢口事件ト云ヒ南京事件ト云ヒ近クハ済南事件ノ如キ不時突発セル日支間ノ問題ハ一トシテ解決サレタルモノナク日ヲ経ルニ従ヒ懸案益々多クシテ両国民ノ感情ハ何等緩和ノ捌口ヲ見出シ得スシテ愈梗塞シ此ノ儘推移スル時ハ更ニ大ナル正面衝突ニ向テ歩ヲ進ムルモノニ外ナラスト観察セラル翻テ是等諸案件ヲ点検スレハ実際解決シ得サリシ責任ハ支那側ノ無責任不誠意ニアルハ勿論ナルモ我方ニ於テモ多少其ノ責ヲ分ツヘキ点ナキニアラサルカ換言スレハ或ハ形式ニ拘泥シ或ハ局地邦人ノ感情若ハ特別利害論ニ左右サレ若ハ体面ヲ偏重シテ実行困難ノ条件ヲ固執シタル為其ノ機会ヲ失シタル嫌ナキニアラサルカ申ス迄モナク人心ノ変転推移ハ刻々休止スル所ナク済南事件ノ如キ二ケ月以前ニ於テハ日支ノ重大問題トシテ世界ノ注意ヲ集中シツツアリタルモ時ヲ経ル

ニ従ヒ問題ノ中心ハ京津地方ニ移リ更ニ満州ニ及ヒ今日ニ於テハ山東省在留本邦人ヲ除キテハ済南事件ヲ以テ日支間ノ最大事件ト見ルモノナカルヘク謂ハ済南事件ハ日支外交ノ本流ヲ離レ一支流ト化シタル感ナキニアラス之ヲ以テ見ルモ懸案解決ニハ自ラ最好ノ機会アリ一度此ノ機会ヲ逸センカ如何ナル緊急事件モ他ノ諸懸案ト共ニ一束ニ取扱ハレ解決ハ日ヲ経ルニ従ヒ益々困難ヲ加ヘ行クモノナルコトヲ痛感セラル本官ハ此ノ点ヲ憂慮シ事件突発直後電第三二一号ヲ以テ当時山東官民ノ感情ヲ固執スレハ甚タ申上悪キ意見ナリシモ一、二ケ月ノ時日ノ経過カ如何ナル局面ノ推移ヲ齎ラスカカ余リ明白ニ見透サレタルヲ以テ差出カマシキ卑見電報シタル次第ナリ

又南京事件ノ如キ停頓ノ事情ハ我方ニ於テ改約ニ関スル支那側ノ希望ヲ拒絶シタルニ存スル処当時卑見ヲ以テ右希望条項ヲ拒否スルモ南京政府ノ改約運動ヲ何等阻止スル所以ニ非サルノミナラス仮令承諾スルモ必スシモ我方ヲ拘束スル次第ニ非サルヲ以テ寧ロ他国ニ率先シテ解決スルノ有利ナルヘキ所ヲ稟請セル次第ナリシカ今日ノ結果ハ益々本官ノ所信ヲ確カニスルモノアリト存セラル要スルニ此ノ時局ニ直面シテ帝国政府トシテハ米国ノ迎合政策ニ狼狽シテ急遽模倣ノ措置ヲ採ルカ如キハ断シテ好マシカラサル処ナルモ所有懸案ヲ未解決ニ放任シテ両国民ノ感情緩和ノ下剤ヲ投スルコトヲ忘ルル時ハ不祥事件益々起リ結局一大衝突ハ避クヘカラサル情勢ニ導カルルニ至ルヘク

此ノ衝突ヲ惹起スルコトモ或ハ日支間ノ感情改善上必要ナリトノ議論アリ得ヘキモ我国ノ対支政策ノ基調ハ国防問題ヲ措キテハ経済的発展以外ニハ何物モナカルヘク右一大衝突ノ結果果シテ支那民衆ノ対日態度一変シ在留邦人ハ到ル所生命財産ニ関スル危険ナク其ノ業務繁栄スト云フカ如キ境地ヲ現出シ得ヘキカ仮ニ我軍南京占領センカ彼等ハ武漢ニ逃レテ排日ヲ煽動シ武漢ヲ突ケハ更ニ奥地ニ引揚ケテ依然トシテ囂々ノ声ヲ絶タサルヘク而モ在支日本商人ハ我軍隊ノ目前ニ駐屯スル地点ニ於テ其ノ生命財産ノ安全ヲ享有スルモ経済関係ハ爾ク単純ナラス通商貿易枯渇スレハ生計ノ途ヲ失ヒ結局現地ヲ引上クルノ余儀ナキ破目ニ立至ル即チ現下ノ支那ニ於テ武力ハ生命財産ノ保護ヲ為スモ生計ヲ援助スルモノニアラサルハ済南ノ現状ニ就キ見ルモ明瞭ナリトス

而モ右ハ日支ノ関係ノミノ観察ナルカ支那ニ於ケル日本ノ経済的萎縮ハ夫レ丈ケ英、米、独等ノ発展ナレハ結局大規模ノ軍事行動ノ結果我武威ヲ発揚シ得ヘキモ是ヲ経済上ヨリ見レハ巨額ノ国幣ヲ費シ多大ノ犠牲ヲ払ヒ日支貿易ヲ萎縮セシメ衰退シツツアル英国貿易ヲ復活セシメ独逸ノ大発展ヲ援助シタルニ過キサルカ如キ結果ヲ惹起スルコトナキヤ此ノ点ニ慎重考慮ヲ払フノ要アルヘク本官ノ見ル所ヲ以テスレハ驕慢度シ難キ感アル南京政府ト雖モ必スシモ妥協ノ途ナキニ非ス国民党ノ外交方針モ一見相手ニシ難キ感アルモ彼等ノ云フ処必スシモ彼等ノ行ハントスル処ニ非ス而モ我方ニテ相手ニセストモ列国ハ此ノ驕児ヲアヤシ賺シツツ着々其ノ地歩ヲ築キ行クヘク何レニセヨ彼等ノ存在ヲ無視シテハ対支政策ヲ実行シ得サルニ付此ノ際帝国政府ニ於テ英断ヲ以テ逐次懸案ヲ解決セラレ条約問題ニ付テモ我方ノ出様一ツニテ自ラ交渉ノ余地アルヘキニ付前記一大危機ノ伏在ヲ予想セラレ局面展開ノ方針ニ出テラレンコト希望ニ堪ヘス

560 昭和3年7月(31)日 在南京岡本領事より田中外務大臣宛（電報）

条約廃棄問題の解決案につき日本政府の意向請訓

南京 発
本省 7月31日前着

第*三二七号

条約問題ニ関スル彼我ノ主張ヲ此ノ儘固執スルニ於テハ是カ解決策ナキヤニ思料セラルル処政府部内穏健派ニ於テハ往電第三一八号（五五七文書）ヲ以テ申進メタル通リ本件ニ関スル両国ノ衝突ヲ遺憾ト為シ居レルヲ以テ本官ハ彼等ニ対シ一面日本ハ主義上並実際上ヨリ旧条約廃棄ノ如キハ如何ナル犠牲ヲ払フモ承認シ難シトノ強硬ナル態度ヲ持スル旨ヲ申聞クルト共ニ孫文ノ意志カ現行条約ヲ一方的ニ廃棄スルカ如キ暴挙ヲ求ムルニ非スシテ平等条約ノ締結ニアリ現状ヲ継続スルニ於テハ支那ハ単ニ条約改訂ノ目的ヲ達シ得サルノミナラス延イテ両国国交上由々敷結果ヲ招来スルニ至ルヘシトテ支那側ノ態度変更ヲ慫慂シ尚適当ノ向ヨリ王正廷ヲモ説得セシメ置キタル処去ル二十八日周龍光ト会見ノ際周ヨリ

本問題ニ関シ何等妥協ノ余地ナキヤト申出タリ

曩ニ電報セシ通リ重ネテ臨時弁法ヲ直ニ邦人ニ適用スルノ意思ナク従テ本件ハ主義上ノ問題ニシテ実質ニ於テハ日本側ニ於テ何等不便不利ヲ感セラルル処ナク一方支那側ニ於テハ既ニ宣言ヲ発シタル手前失脚ヲ覚悟セサル限リ条約廃棄乃至無効宣言ヲ取消ス能ハサル事情ヲ諒察セラレ日本側ニ於テ特ニ主義上ノ論議ヲ抛棄セラルルノ雅量ヲ示サレタシト述ヘタルニ付本官ハ恐ラク帝国政府ハ応セサルヘシト答ヘ次テ二十九日夜周龍光本官ヲ来訪日支両(脱)(ママ)ハ其ノ儘トナシ支那側ニ於テ臨時弁法ヲ差当リ施行セサル旨ヲ明カニ致スヘク即チ新条約締結ニ至ル迄旧来ノ儘ト為スヘキニ付主義上ノ論争ヲ暫ク措キ速ニ条約改訂ノ商議開始ニ応セラレ度シトノ申出アリタルヲ以テ本官ハ篤ト熟考スヘク尚為念王部長ノ意向ヲモ確メ置カレタシト答ヘ置キタルカ本三十日重ネテ同司長ト会見司長ヨリ「王部長トモ談話シタルカ同部長モ日本政府ニ於テ妥協ニ応セラルルニ於テハ臨時弁法ハ執行セストノ覚書(悟カ)ヲ有ス」ト語リ仮ニ本官ヨリ政府ニ支那側ノ意向ヲ取次クトシテ周ノ申出ニ基キ左ノ如キ具体案成レリ

支那側通告文ニ対スル回答書冒頭ニ「日本政府ハ旧条約廃棄乃至失効ノ如キハ承認セサル旨」ヲ然ルヘク明記シ次テ「乍併今ヤ国民政府全国統一ノ業ヲ完了セントスルニ際シ同政府ニ於テ日支両国ノ特殊親密ナル関係ニ顧ミ誠意ヲ有スルニ於テハ日本政府ハ国民政府ニ対スル従来ノ友好的精神ニ基キ主義上ノ論争ハ暫ク之ヲ措キ条約改訂ノ提議ニ応スルノ意思ヲ以テ全権代表ヲ任命致スヘシ」トノ意味ヲ述ヘテ支那側ニ於テ臨時弁法ヲ施行セサルノ誠意ヲ求メ右ニ対シ外交部ヨリ「貴翰了承御来示ニ基キ商議ヲ開始致シタキニ付至急全権御任命相成度尚臨時弁法ハ日支両国複雑ナル関係ニ顧ミ更ニ訓令スル迄地方官ヲシテ執行セシメサルコトトセリ」トノ旨ヲ答復スルト共ニ国民政府ヨリ地方官ニ対シ其ノ旨訓令ス

而シテ帝国政府ハ直ニ全権ヲ任命サルルコト（以上）

右ニ対シ本官ハ「王部長ニ於テ貴説ノ如キ誠意ヲ有セラルルニ於テハ一応内密ニ政府ニ転達スヘキ旨」答ヘ置キ素ヨリ何等「コムミツト」セシ次第ニアラサルモ本案ハ或ハ紛糾セル本件打開ノ一案ナルヘシト思料セラルルニ付公使ヨリノ回答文モ本三十日北京ヨリ発送セラレタル趣ニモ有之

篤ト御考慮ノ上何分ノ儀至急御回示相成度

561　昭和3年8月(1)日　在米国沢田臨時代理大使より田中外務大臣宛（電報）

関税事項以外の改約を行うつもりはない旨のジョンソン米国国務次官補の談話について

ワシントン　発
本　省　8月1日後着

第二七二号

一、二十四日付米国対支通牒中ニハ「is ready to begin negotiations」云々トアリテ往電第一二五七号（五四六文書）国務長官ノ内話トハ相照応スルモ同通牒発表ト殆ト同時ニ米支新条約ノ調印ヲ見タルコトトハ如何ニモ符合セス不審ニ思ヒ居タル処三十一日ノ新聞ニ在当地支那公使館ノ発表セル該通牒ニ対スル南京政府ノ回答掲載セラレタルカ右回答ニハ国民政府ハ米支交渉ニ依リ迅速解決ヲ要スヘキ一切ノ問題ニ付適当ナル解決ヲ齎ラサンコトヲ希望スル旨並出来得ル限リ短期間内ニ新条約締結ノ目的ヲ以テ早速商議ヲ開始シタク全権トシテ伍朝枢ヲ任命シタル旨記載シアリ（右回答「テキスト」必要アラハ電報スヘシ）前記不審ノ点トモ対照シ或ハ米支間ニ前記新条約以外ニ更ニ他ノ事項ヲ含ム条約商議ノ運ヒニ至ルコトナキヤト思考シ三十一日「ジョンソン」次官補ニ面会シ右不審ヲ質シタルニ同次官補ハ実ハ予テ「マクマレー」ニ対シ現地ノ状勢ニ依リ其ノ裁量ニテ関税問題ニ関スル話合ヲ試ミ差支ナキ旨ノ広汎ナル訓令ヲ与ヘアリタルモ斯ク迄急速ニ条約調印ノ運ヒニ至ルヘシトハ予想セス右調印ハ通牒発表後多少手間取ルコトト考ヘ居リシ次第ニテ自分等モ意外トセシ位ナリト述ヘタルニ付本官ハ前記支那側回答ニ依レハ此ノ際米支間ニ関税以外ノ事項ヲ含ム新条約商議方考ヘ居ル様察セラルル処今回ノ条約以外他ノ事項ニ付テモ改約ノ商議ヲ進ムルカ如キコトナキヤト尋ネタルニ「ジョンソン」ハ此際該条約以外改約ノコトハ前記通告発送ノ当時ハ勿論今日ノ処考ヘ居ラスト答ヘタリ

二、次テ本官ヨリ治外法権問題ニ言及セル処同次官補ハ米国側ニテハ法権委員会勧告中重要事項タル支那ノ法律ヲ在支米国法廷ニテ適用スルコトニ関シテハ米国議会ニテ支那ノ法律ト同様ノ内容ヲ有スル法律ヲ通過スルコトヲ要スル次第ナル処是ハ貴官限リ極祕ノ話ナルカ若シ右様ノ法律案ヲ提出スル時ハ是ヲキツカケニ或ハ議会内ニ治外法権即時撤廃ノ主張ヲナスモノ出ツルヤモ計リ難ク頗ル機微ノ問題ナリト述ヘ尚本官ノ問ニ対シ支那ノ現状ハ未タ治外法権撤廃ノ時期ニ非スト考ヘラルル旨ヲ述ヘタリ

三、尚右談話ノ際「ジョ」ハ其ノ後ノ情報ニ依レハ支那ノ時局ハ引続キ良好ニ赴キ居ル様子ナリ殊ニ自分等ノ懸念シ居リタル馮玉祥ト他ノ將軍連トノ関係モ意外ニ円満ノ模様ニテ米国側今回ノ措置ノ如キモ右同国和平ノ傾向ヲ助長シタキ考ニ基ケルモノナリト述ヘ居リタリ

四、將又米支新条約ト関税会議トノ関係ニ付テハ御考慮ノコトトモ想像セラレ且ツ三十日東京発紐育「タイムス」特電ニ依レハ外務省ニ於テハ米国側今回ノ措置ハ関税会議ノ再開ヲ妨クルモノニ非ストノ意向ナル旨伝ヘラレ居ルモ貴電合第二八六号及第一六八号等ノ次第ニ顧ミ此ノ際同会議ノ事ニ言及スルハ如何カト存シ特ニ是ヲ差控ヘ置キタリ

英ニ転電シ英ヲシテ仏、伊ニ転電セシメ独、露、白ニ暗送セシム

562　昭和3年8月2日　田中外務大臣より在中国芳沢公使宛（電報）

条約問題に関する具体的協調策につき英国側の意向確認方訓令

本　省　8月2日発

通第一九号

往電通第一〇号（五三二文書）ニ関シ

英国外相ハ佐分利ニ対シ北京ニ於テハ関係国代表者互ニ密接ノ連絡ヲ保チ居ルニ付同地ニ於テモ事情ニ応シ適宜条約問題ヲ審議スル所アルヘキ旨言明シ居ル処右ハ従来程度以上ノ連絡ヲ意味スルモノナルヤニモ思考セラルルカ英国側ニ於テハ果シテ今後条約改締ニ関シ我国等ト具体的協調ノ態度ニ出テントスルモノナルヤ我方今後ニ於ケル本件対策上緊要ノ関係ヲ有スル次第ナルニ付貴官ハ右御含ノ上英国公使トモ可然御折衝ノ上右ニ関スル先方ノ意向御探究ノ上結果回電アリ度シ

在英大使ニ転電セリ

563

昭和3年8月(3)日　在南京岡本領事より田中外務大臣宛（電報）

条約改正に関する国民政府外交部米国公使間往復文書について

南京　発
本省　8月3日前着

第三三九号

一、米支条約修正ニ関スル往復文書ハ昨一日外交部ヨリ正式ニ発表セラレタルカ其ノ要旨次ノ通

米国公使ニ対スル七月二十八日付支那側回答文

貴国政府並ニ人民カ親切同情ノ態度ヲ以テ我国近時ノ発展ヲ観察シ貴公使ヲ代表トシテ国民政府代表ト条約修正ノ商議ヲ開始セシメラルルハ国民政府ノ修約政策ニ最初ニ副ハルル次第ニシテ之ニ依リ両国ノ友誼ハ更ニ鞏固トナルヘク以テ世界ノ平和ヲ促進シ得ハ幸ナリ国民政府ハ両国間一切ノ問題ヲ速ニ解決スル為伍朝枢ヲ代表トシテ貴国代表ト会議進行セシムル事ニ決セルヲ以テ速ニ会議ヲ開キ最短期間内ニ於テ修約ヲ了シ外交上一新紀元ヲ開カム事ヲ希望ス云々

国民政府ニ対スル七月三十日付米国側回答

七月二十四日付本国外交総長ノ貴部長ニ対スル照会ハ既ニ伝達致置キタルカ七月二十九日ニ於テ日付ヲ有セサル貴部長ヨリノ回電ニ接セル処右ニ依レハ本公使宛回答訳文直接交付致ス旨ナルカ惟フニ上述ノ回電ヲ発セラルル迄貴部長ハ七月二十五日北京ニ於テ締結セル関税関係整理ノ条約ヲ御承知無カリシモノト存セラルルカ右条約ノ締結ハ本国政府カ七月二十四日ノ提議ヲ最モ迅速且完全ニ履行セルモノナルニ付テハ本国政府カ現在ノ状況ニ応シテ有スル意向ニ関スル誤解ヲ避クル為本使ハ「上述ノ来翰中ニハ将ニ開始セムトスル会議云々」ト言及セラルルカ実際上本国政府ノ真意タル会議ハ既ニ完了セルモノナル旨ヲ明カニス云々

前電ノ通転電セリ

北京ヨリ奉天ヘ上海ヨリ広東ヘ御転電ヲ請フ

564

昭和3年8月7日　在南京岡本領事より田中外務大臣宛（電報）

国民党全体会議終了後臨時弁法実施におよぶ危険性のある国民政府内の情勢報告について

南京　8月7日後発
本省　8月8日前着

第三五四号※

往電第三三八号ヲ以テ報告シ置キタル通リ幹部ノ斡旋ト蔣介石ノ上海出馬トニ依リ広東派ノ出席モ実現サルヘク仮ニ同派出席セストスルモ病中ノ丁惟汾ノ出席ニ依リ定数ヲ得会議ハ曲リナリニモ予定ノ進行ヲ見ルヘク馮玉祥等委員ニアラサルモノノ列席亦議決ニ加ハラサル条件ノ下ニ認容サルルコトトナレリ

同会議ニ於ケル重要問題ハ既報ノ通リ組織ノ改正財政問題裁兵問題等ナル処外交問題亦重大案件トシテ討議サルヘク自然済南事件東三省問題条約問題ニ関連シ我方ニ対スル論難攻撃ヲ見ルヘキハ想像ニ難カラサル処近時彼我両国間ニ於ケル之等諸問題ノ続発ニ依リ当国官民ノ対日感情日ヲ逐フテ悪化シツツアルカ如ク本官ト昵懇ニシテ常ニ往復セル各方面ノ親日支那人モ時勢ハ彼等ニ取リ日ニ非ナリト嘆シツツアリ自然一般親日派モ攻撃ヲ恐レテ沈黙シ日本人ニ対シ敬遠主義ヲ執ルノ已ムナキニ至レルモノノ如シ

斯ノ如キ状態ナルヲ以テ会議ニ於テハ一般空気ハ我方ニ取リ決シテ楽観ヲ許ササルヘク極左派タル広東派ノ出席ハ一層事態ヲ悪化セシムヘシト懸念セラルル処目下幸イ穏健派勝ヲ制シツツ実施ヲ見合セ居ル臨時弁法モ上述一般空気ヲ加フルニ発表サルヘキ我回答文ノ内容ニ鑑ミ或ハ即時実施ヲ叫ハレ穏健派モ大勢ニ順応セサルヘカラサルニ至ルヤモ計リ難ク外交部方面ニ於テモ日本ノ回答文ニシテ他国ト同程度ノモノナラハ至極好都合ナルモ回答文末段ノ字句ハ支那民衆ノ感情ヲ刺戟シ激昂ヲ招クヲ恐ルト語リ居リ二三ノ要路ノ大官モ本官ト会談ノ際全体会議終了ノ後ニ於テ弁法実施ノ訓令発セラルルニ至ルヤモ知レスト述ヘ居レリ若シ前述ノ如ク臨時弁法カ実施サルルニ至ラハ実状ヲ解セス理想ニノミ走ル地方官ト我官民トノ間随所ニ種々ノ問題惹起サルヘク斯ノ如キ場合政府ハ回答文末段ノ御趣旨ニ基キ何等カノ処置ニ出テラルルモノト思料セラルルニ付或ハ杞憂ニ終ルヤモ計リ難キモ万一ノ場合ヲ慮リ一面ノ観測御参考迄申進ス尚当方出動ノ海軍ニ対シテハ客年南京事件ニ鑑ミ今後一触一撃ノ方針ニ出ツヘキ旨訓令セラレアル趣ナル所

重ネテ南京漢口類似ノ事件起リタル場合断乎トシテ我武威ヲ示スハ必要ナリト思料スルモ申迄モナク事態ノ判断ハ最慎重ナルヲ要スヘク由来些々タル事件ヨリ大事ヲ惹起シタル事例ニ乏シカラサルハ御承知ノ通リナリ

565　昭和3年8月(8)日　在南京岡本領事より田中外務大臣宛（電報）

日中通商条約廃棄通告に対する我が方回答王外交部長へ手交について

付記　七月三十一日付

日中通商条約廃棄通告に対する我が方回答文

南京発

本省　8月8日前着

第三六〇号*

本官発北京宛電報

第二七九号

往電第二七四号ニ関シ

本七日午後五時部長官邸ニ於テ覚書ヲ王正廷ニ手交セリ発表ニ関シテハ諸事貴電第二一号御来示ノ通リトシ明八日午後五時発表ノ事ニ確メ置ケリ尚王ハ覚書閲（読）ノ後何レ国民政府ニ於テ協議ノ上重ネテ何分ノ儀回答スヘシト云ヘリ不取敢

（付記）

覚*書

日本帝国公使ハ日支通商航海条約ニ関スル昭和三年七月十九日付国民政府外交部長ノ照会ヲ接受セル処国民政府ハ右照会ニ於テ明治二十九年締結ノ日支通商航海条約及付属文書並前記条約付属議定書及明治三十六年締結ノ追加通商航海条約及付属文書ハ本年七月二十日ヲ以テ満期ニ達セリト為シ新条約ノ締結方ヲ提唱スルト共ニ其ノ締結ニ至ル迄ノ期間ニ在リテハ国民政府ノ宣布セル「中華民国ト各外国トノ旧条約既ニ廃棄セラレ新条約未成立前ニ於ケル臨時弁法」ニ照シ実行ヲ宣布スル旨ヲ通告セリ仍テ日本帝国公使ハ帝国政府ノ訓令ニ基キ左記ノ次第ヲ国民政府ニ回答スルノ光栄ヲ有ス

明治二十九年締結ノ日支通商条約第二十六条ニハ

締盟国ノ一方ハ本条約批准交換ノ日ヨリ十箇年ノ終リニ

於テ税目及本条約ノ通商ニ関スル条款ノ改正ヲ要求スルコトヲ得然レトモ若シ最初十箇年ノ終リヨリ起算シ六箇月以内ニ両締盟国ノ何レヨリモ右要求ヲ為サス改正ヲ行ハサルトキハ本条約並税目ハ前十箇年ノ終ヨリ起算シ更ニ十箇年間其ノ儘効力ヲ有スヘシ而シテ其ノ後各十箇年ノ終ニ於ケルモ亦同様ナルヘシ

ト規定シアリテ何等廃棄又ハ失効ニ関スル規定無ク従テ両国間ニ特別ノ合意又ハ協定無キ限リ是レカ廃棄又ハ失効ヲ見ル能ハサルハ勿論ナルノミナラス現ニ右条文ニハ六箇月以内ニ改正商議ノ完了セサルトキハ条約並税目ハ更ニ十箇年間効力ヲ有スヘキ旨明記シアル次第ニシテ条約及税目ノ更ニ十箇年間効力ヲ延長シタルハ何等疑ヲ容ルルノ余地ナシ右ハ夙ニ帝国政府ノ抱懐セル見解ニシテ曩ニ大正十五年十月北京政府外交部ヨリ通商航海条約改訂方ニ関シテ申出アリタル際之ニ対スル回答ニ於テ先ツ右見解ヲ明ニシ更ニ其ノ後数回ノ商議期間延長ニ当リテモ常ニ此ノ点ニ関シ支那側ノ注意ヲ喚起シ置キタル次第ナリ

以上ノ理由ニ依リ本年七月二十日商議期間ノ満了後ト雖モ前記諸条約及付属文書ハ依然トシテ其ノ効力ヲ有スルモノニシテ従テ商議期間ノ満了ヲ以テ条約ノ満期ナリトスル国民政府ノ見解ニハ同意セムトスル能ハサル処ナリ加之今次国民政府通告中新条約締結ニ至ル迄ノ期間ヲ同政府ノ一方的措置タル所謂臨時弁法ヲ以テ律セムトスルカ如キハ尚有効ナル現条約ノ失効ヲ強ヒントスルモノニシテ実ニ条約ノ正文ニ違反シ法理解釈上将又国際慣行上有リ得ヘカラサルコトニ属スルノミナラス国際信義ヲ無視スルノ暴挙ニシテ帝国政府ノ到底容認シ難キ処ナリ若シ夫レ条約ノ改訂ニ至リテハ帝国政府ハ其ノ屢々声明セシ如ク支那国民ノ輿望ト日支間各般ノ密接ナル関係ニ顧ミ是カ商議ニ応スルノ誠意ト用意トヲ有スルモノニシテ右ハ曩ニ北京ノ非公式商議ニ於テ六箇月ノ改訂期間満了後モ屢々商議期間ノ延長ニ応シテ改訂ノ達成ヲ計ラムトシタル事実ニ顧ミルモ明カナル次第ニシテ国民政府ノ夙ニ認識スル所ナルヘク此ノ間不幸ニシテ条約ノ改訂ヲ見ルニ至ラサリシハ主トシテ支那国内政情ノ不安定ニ基クモノナルコトヲ特ニ指摘セサルヲ得ス

之ヲ要スルニ条約改訂ニ関スル前記帝国政府ノ態度ハ今日ニ於テモ何等変更セル所ナク従テ国民政府ニシテ此ノ際篤ト国際ノ大義ト日支両国ノ友好善隣ノ関係ニ鑑ミ所謂臨時

弁法実施ノ主張ヲ撤回シ現行条約ノ有効ナルコトヲ確認スルニ於テハ帝国政府ハ欣然改訂ノ商議ニ応シ其ノ適当ト認ムル改訂ヲ行フニ吝ナルモノニアラス若シ然ラスシテ国民政府カ依然現行条約ノ失効ヲ主張スルノ態度ヲ固持スルニ於テハ帝国政府ハ条約改訂ノ商議ニ応スルコト能ハサルノミナラス更ニ国民政府ニ於テ飽迄其ノ所謂臨時弁法ヲ一方的ニ強行スルカ如キコトアル場合ニハ帝国政府ハ条約上ノ権益擁護ノ為其ノ適当ト認ムル措置ニ出ツルノ已ムナキニ至ルコトアルヘキヲ茲ニ宣明ス

昭和三年七月三十一日

日本帝国公使館

566　昭和3年8月(8)日　在中国芳沢公使より田中外務大臣宛（電報）

英国は中国国民の支持を得るため条約問題で米国と歩調を合わせようと見受けられる旨について

北京　発

本省　8月8日後着

第一一七一号

貴電通第一九号(1)（五六二文書）ニ関シ

七日英国公使来訪ノ際同公使ニ御来示ノ趣旨ヲ語リ先方ノ意向ヲ叩キタル処同公使ハ在英代理大使ト英国外務省トノ会見ノ内容ハ電報ニ接到セルカ自分ハ予テ貴公使ト密接ナル連絡ヲ保持シ居ル旨ハ一般的ニ報告セル故其ノ趣旨カト思ハル往電第一一七〇号南京事件解決ニ関スル交換公文中ニハ条約改正ニ言及シアルカ其ノ中 in due course トアル処何時ヲ以テ due course ト見ルヤ英国ノ裁量ニ属スルモノナルカ故ニ南京政府ニ於テ今直ニト云フトモ其ノ通リニ諾スル必要ナカルヘシト答ヘタルニ付本使ハ南京側ハ即時ニ開始シタキ希望ナルコトハ明白ナル故英国政府ハ何時迄モ引キ摺リ置ク訳ニ行カサルヘシト云ヘルニ同公使ハ唯今外務省ハ商務省ト相談中ナルヘク孰レ一二週間中ニハ自分ノ提出セル条約改正ニ関スル意見ニ対スル回訓ニ接スルコトト思ハルト答ヘタル故本使ハ然ラハ貴公使ノ意見ハ如何ナルモノナリヤト尋ネタルニ同公使ハ自分カ本国政府ニ稟議シタルハ

第(2)一全然南京政府ノ提議ヲ拒絶スルカ、第二米支条約ノ通

ニ行クカ、第三米支条約ニ加フルニ協定税率（互恵税率）ヲ以テスルカ、第四（同公使ハ失念セリトテ如何ニシテモ思出サス）ノ四個ノ案ヲ出シタルカ右ノ内協定税率ニ付テハ支那ハ税率ヲ有スルモ英国ハ自由貿易ニシテ一般的ノ税率ヲ有セス唯歳入ノ目的ヲ以テ生糸ト茶トニ輸入税ヲ課スル故互恵税率ヲ締結シ得ヘシト思フ自分ノ即座ノ思付ナルカ日本トノ協調ト言フニハ日本ハ自主権回復ノ承認ニハ互恵税率ヲ絶対的条件ト為シ居ル故英国モ之ニ倣ハハ協調ヲ保チ得ヘシト言ヘルニ付本使ハ右範囲内ニ於テハ協調ヲ保チ得ヘキカ関税会議ニ於ケル日本ノ主張ハ右ノ外ニモ諸種ノ条件アリ其ノ一例ハ債務整理ナルカ英国ハ債務整理ヲ条件トセサリシモ支那ニ債権ヲ有スルカ故日本ノ要求ニ便乗スレハ可ナルモノニテ日本ノ債務整理ノ主張ニ反対スル必要ナカルヘシト言ヘルニ同公使ハ然リト軽ク返事ヲ為シタリ次テ本使ハ日本ハ南京政府カ若シ条約廃棄ノ主張ヲ撤回スル時ハ一般的改訂ニ応スル意向ナルカ

英国ハ米国ノ如ク関税ノミノ商議ヲ為ス意向ナルヤ将又治外法権其ノ他一般的改訂ニ応スル意向ナルヤト問ヘルニ同公使ハ本国政府ノ訓令ニ接セサル故其ノ意向ヲ承知セサル(3)モ自分一己ノ意見ニテハ内水航行治外法権ノ如キ問題ハ一括シテ協定スルヨリモ先ツ差当リ関税ニ付協定ヲ遂ケタル後時ヲ隔テテ内水航行ニ付協定ヲ遂ケ夫レヨリ更ニ若干ノ時ヲ隔テテ治外法権ノ協定ヲ為スカ如ク之ヲ分割シテ漸次解決シテハ如何ト思ハルト述ヘタリ同公使ノ口吻ニ依レハ一二週間以内ニ訓令来ルモノノ如ク同時ニ関税問題ノ協定ヲ行ハムトスルモノノ如キカ差当リ少クトモ同公使ノ関スル限リハ南京事件解決ノ上ハ米国同様ノ関税条約ノ協定商議ニ着手スルニアラスヤトノ印象ヲ得タリ

右ノ如ク英国ハ南京事件ヲ解決シ更ニ進ンテ関税事項ニ関スル条約ヲ締結セムトスル如キカ右ハ畢竟只今支那ニ不人気ナル日本ヲ棄テ米国ト歩調ヲ合セテ支那国民ノ歓心ヲ買ハムトスル底意ナルヤニ見受ケラル

567　昭和3年8月(13)日　在上海矢田総領事より田中外務大臣宛（電報）

条約改正方針等に関する王正廷外交部長の談話について

付記　八月十四日付

条約改正のための全権派遣および商議開始に関する国民政府外交部の芳沢公使宛覚書訳文

上海　発
本省　8月13日前着

第*五四五号

十一日王正廷来滬セリトノ事ニ付本官帰朝前一度会見致シ度キ旨申入レタル結果十二日午前王ノ自宅ニ於テ会見シタリ委曲ハ帰朝ノ上報告スヘキモ其ノ要点左ノ如シ

本官ハ先ツ今日特ニ会見ヲ求メタルハ年来友人トシテ日支両国間ニ蟠マレル各種問題ニ付率直且ツ自由ニ討議シ度キ希望ナリト述ヘタル処王ハ夫レハ自分モ希望スル処ナレハ特ニ今次会見ニ於テ他人ヲ交ヘス会見スル事ニセル次第ナリト述ヘタルニ付本官ハ

(甲)条約問題ニ付テ日本朝野ノ意向ハ南京政府ノ廃棄通告ヲ国際的不信ノ供述ナリトシ其ノ精神ニ対シ強キ反感高マリ斯ル不信用ナル南京政府ヲ相手トシテハ何事モ真面目ノ交渉ハ無駄ナリト憤慨スル向モアリ若シ貴方ニ於テ日支条約ノ改訂ヲ真ニ誠意ヲ以テ為サムトスル方針ナリトスレハ右通告ハ極メテ有害ニシテ貴下ノ失策ニ非スヤト述ヘタルニ王ハ条約ノ満期ニ達シタル国ハ日本ノ外多数アリ既ニ白耳義其ノ他ヘハ満期日ノ到来ニ従ヒ順次廃棄ノ通告ヲ発シ来リタルヲ以テ日支ノ関係特別ナリトカ日本ハ強国ナリト云フ理由ノミテ除外スル事ハ南京政府トシテ不可能ノコトナリ

但シ右通告ヲ発セルモ

(一)日本人ニ対シ臨時弁法ヲ適用セサル事

(二)芳沢公使及北京外交部間ノ交渉ノ経過ヲ認ムル事

(三)何時ニテモ日本カ応スレハ改約交渉開始ノ用意アル事

ノ三点ハ当時貴下ニ語リタル通リニシテ今日ト雖モ此ノ方針ニハ何等ノ変更無シ予ハ近日芳沢公使ノ覚書ニ対シ反駁的回答ヲ発シ其ノ文句中ニ速ニ委員ヲ任命シテ改約ノ交渉ヲ開キ度キ希望ヲ開陳スル筈ナレハ条約カ果シテ存続セリヤ自然消滅セリヤノ議論ハ暫ク其ノ儘トシ別ニ交渉ヲ開始スル様致サレ度ク日本政府ハ予メ最後ニ脅威的文句ヲ加ヘテ南京政府ヲ脅カシ居ルモ列国ハ何レモ友誼的ニシテ逐次改変交渉ニ応ジ来リツツアリ現ニ英国政府モ明日発表サルヘキ南京事件解決条項ト共ニ改約承諾ノ公文ヲ交換セル程ナリ日本政府ハ改約ニ付心配サレ居

ルカ如キモ

(イ)関税ニ付テハ或ル一国ノ輸入品ニ特別ノ税率ヲ課スルコト出来サル故総テノ国ニ対シ一律実行シ得ル迄ハ現行税率行ハルルモノト認メ居レハ通商ニ急遽打撃ヲ与フル惧無シ

(ロ)治外法権モ即時撤廃ヲ要求スルニ非ス但シ的確ナル時期ヲ定メサル漠然タル約束ハ好マス其ノ時期モ例ヘハ第一期第二期第三期ト云フカ如ク企画シ第一期内ニ支那カ斯々ノ準備ヲ為セハ第二期ヨリ外国側カ夫ニ応シ或ル権利ヲ放棄スルト云フカ如キ仕組ニテ満足スヘシ

(ハ)沿岸及内河航行ノ問題モ例ヘハ現存外国会社ヲ支那会社トシ其ノ資本ノ四割九分迄ハ外国ノ資本ヲ許スモ支那側ハ残リノ五割一分ヲ分担スルコトトシ而シテ支那側ニ於テ其ノ出資出来サルトキハ支那資本団ヲ作リテ日本ヨリ借款シテ其ノ持株ヲ保有スルカ如キ方法モアルヘキニ付之亦騒ク程ノコトハ無カルヘシ

(乙)済南事件ニ関シ本官ノ立入リタル質問ニ対シ王ハ種々意見ヲ述ヘタルカ人事其ノ他ノ機微ナル問題ニ渉リ居リ王トノ申合モアリ旁本官帰朝ノ上親シク申上クヘシ

(丙)満州問題ニ関シ王ハ事ノ重大ナルヲ述ヘテ特ニ言語ヲ慎ミ南京政府トシテハ如何ナル方針ヲ持チ居ルカハ事態如何ニ発展スルカ予測出来サル此ノ際明言シ得サルモ個人ノ意見トシテハ南京政府ハ満州ニ対スル現状（ステータス、クオ）ヲ認ムルコトニ異議無カルヘシト思考ス

依テ其ノ旨ノ協定ナラハ可能ナリト思フモ若シ満州ヲ支那本部ヨリ分離シタル半独立ノモノトセムトスルナラハ是即チ日本ノ保護国ヲ作ルモノニシテ第二ノ朝鮮ナレハ南京政府トシテハ断シテ承認セス飽迄モ力争スルモノト御承知アリタシ尤モ以上ノ談ハ単ニ貴下ノ頭ニ収メ置カレ文書ニ認メラレサル様希望ス蓋シ右ハ南京政府ニ対スル自分ノ立場ヨリ云フモ機微ナル事項ニ属スレハナリト述ヘタリ

(丁)排貨問題ハ両国ノ為メ最有害ニシテ其ノ害毒ハ戦争ヨリモ恐ルヘキモノアリ戦争ハ多数ノ人間ヲ殺スモ平和恢復スレハ国交復旧スル見込アルカ経済絶交ハ結核菌ノ如ク漸次人身ヲ侵シ組織ヲ破壊シ犠牲トナルモノハ日本人ノミナラス支那人モ亦多ク対日本人ノ暴行ニ付テハ取締リ得ルモ愛国心ニ基ク国民的感情ハ政応(ママ)シ難ク其ノ治癒方

法トシテハ病源ヲ駆除スルニ在リトテ山東撤兵ノ必要ヲ力説セリ

(戊)前記各問題ニ付意見交換ノ後本官ハ忌憚ナキ意見ヲ聞キタルヲ感謝シ語ヲ改メテ東京ニ於テ要路ニ説明スル場合南京政府ハ一体何時迄存続スル見込ナリヤト反問サルル事必然ナル処目下上海ニハ悲観説モ流布セラレ居ル模様ナルカ貴見如何ト尋ネタルニ王ハ自分モ悲観説ノ存在ヲ知ルモ蔣介石ノ熱心ナル奔走アリ馮玉祥又幸ニ南京ニアリテ内訌ヲ纏ムル事ニ付極メテ妥協的ナル事ニ付自分トシテハ楽観シ居レリト答ヘ仮リニ南京政府カ倒壊スルカ或ハ内部ノ勢力ニ新陳代謝行ハルルトスルモ支那人ノ国民的自覚ハ強クコソナレ弱クナル気遣無キニ付南京政府ノ存続如何ヲ考慮ニ入レテ不平等条約ノ継続ヲ僥倖セムトスルハ誤ナリト付言セリ

(付記)

日支通商条約ニ関スル国民政府外交部ノ昭和三年八月十四日付在支芳沢公使宛覚書訳文

(八月二十八日公表)

本年八月七日、七月三十一日付貴覚書ヲ接到シ貴国政府ノ日支通商条約条文解釈並改訂意見ニ関シ御来示ノ趣閲悉セリ貴国政府カ条約改訂商義ノ誠意ト準備トヲ有セラルルコトヲ表示セラレタルハ本国政府ノ欣然感謝スル所ニシテ最誠懇ノ意願ト同情トヲ以テ之ヲ接納スヘシ

蓋シ新条約ノ締結ハ国民政府カ国際友誼ヲ増進スルノ根本政策タリ光緒二十二年締結ノ日支通商航海条約、同付属文書及議定書並光緒二十九年締結ノ日支追加通商航海条約ハ何レモ遠ク三十年前ノ締結ニ係リ此ノ三十年間両国間経済商務人民関係及政府状況ニハ屢々変遷アリ自ラ現時ノ情勢ニ適合スル能ハス現状ニ適セサル条約ヲ強テ行ハムトセハ必ス困難頻出シ延テ人民ノ誤解ヲ惹起スルニ至ルヘク是実ニ国交ヲ敦睦ニスルノ道ニアラス本国政府ハ此ノ原因ニ基キ当初締約ノ時ト現時ノ状況トハ既ニ情勢遙カニ異ナルヲ以テ速ニ根本的改訂ヲ為シ平等相互ノ原則ニ根拠シ新条約ヲ締結シ以テ貴我両国努メテ親善ヲ計ルノ本旨ニ副ハムトス元ヨリ貴国政府カ夙ニ同情ヲ有シ必ス誠意ヲ披瀝シ共ニ之カ進行ニ努メ以テ両国共同ノ福利ヲ計ラルル意アルヲ知ル

貴公使ノ覚書ニ依レハ光緒二十二年ノ日支通商条約第二十六条ニハ本条約所定ノ税則及同条約内ノ通商ニ関スル各条約ハ後ニ至リ若シ一国カ更ニ重修ヲ欲スル場合ハ条約批准交換ノ日ヨリ十箇年ヲ限リトシ満期後六ケ月以内ニ酌量改正ヲ照会スヘシ若シ両国双方共ニ改正ヲ声明セサレハ則チ条約税則ハ従前通リ弁理シ更ニ十箇年後ニ於テ改正ヲ行ヒ以後此ノ方式ニ従テ処理ストノ規定アルヲ以テ六ケ月以内ニ改約ノ商議完結セサル場合ハ条約並税目ハ更ニ十ケ年間効力ヲ延長スト解シ居ラルル処中国政府ノ見解ニ依レハ本条文ノ解釈ハ満期後六ケ月以内ニ於テ両国共ニ改正ヲ声明セラル時ニ於テ始メテ条款税則ハ十ケ年継続ノ効力ヲ有ス換言スレハ満期後六ケ月内ニ於テ若シ何レカ一方カ改正ノ声明ヲ提議シ並既ニ改訂ノ商議ヲ実行シタル場合ハ即チ条款税則ハ再ヒ其ノ効力ヲ延長セス更ニ事実ヲ以テ之ヲ証スレハ従前十年ノ満期毎ニ其ノ後六ケ月以内ニ於テ貴我両国共更改ヲ声明スルノ提議ナカリシカ故ニ本条約ハ再三延長シテ三十年ノ久シキニ及ヘリ

民国十五年十月二十日重ネテ満期トナルヤ中国政府ハ特ニ貴国政府ニ向ヒ光緒二十二年ノ日支通商航海条約及其ノ一切ノ付属文書並光緒二十九年ノ日支追加通商航海条約ヲ取纏メ之カ根本改訂ヲ提議シ並重ネテ継続セサルノ希望ヲ表示シ若シ六ケ月ノ条約改訂期満了シ新条約成立セサル時ハ中国政府ニ於テ旧条約ニ対スル態度ヲ決定シ之ヲ宣示スルノ権利ヲ保留スル旨声明セリ是中国政府カ夙ニ其ノ見解ヲ表明セル所タリ故ニ貴国政府ノ六ケ月以内ニ於テ改約商議完結セサル場合条約並税目ハ更ニ十ケ年間ノ効力ヲ延長ストノ主張ニハ遺憾ナカラ同意シ難シ依テ国民政府ハ従来ノ見解ヲ回顧シ六ケ月ノ条約改訂期間内ニ於テ新条約ヲ完成スル能ハサリシヲ深ク惜ミ一再ナラス期限ヲ延長シタリシモ依然其ノ緒ニ就カスシテ本年七月二十日重ネテ延長期限満期ニ達セルヲ以テ茲ニ七月七日ノ宣言ニ基キ情勢変遷ノ原則ニ依リ貴公使ニ対シ貴国政府カ全権代表ヲ特派シ最短期内ニ於テ平等及相互主権尊重ノ精神ヲ以テ新約ヲ締結セラルル様伝達方照会セリ国民政府ハ夙ニ近年国際進歩ノ潮流及本国国民ノ希望ト其ノ経済、商務ノ状況等ヲ審ニ察シ一切ノ不平等或ハ現状ニ適合セサル各条約ハ国際友誼ヲ阻碍シ平和保障ニ違反スルモノニシテ且ツ国際彼我ノ状況既ニ時ニ変遷アラハ永久ニ適応スヘキ条約ハ断シテ是無キモ

ノト思考ス依テ情勢変遷ノ原則ニ依拠シ其ノ効力ヲシテ廃止又ハ中止セシムル次第ナリ之ヲ法理ニ照シテ之ヲ先例ニ按スルニ本国政府ノ此ノ挙ハ絶対ニ国際信義ヲ蔑視スルノ嫌ナシ況ンヤ本部七月七日ノ宣言ニ中華民国ト各国間トノ条約ニシテ満期トナレルモノハ之ヲ排除シ別ニ新条約ヲ締結シ未タ満期トナラサルモノハ即チ正当ノ手続ヲ以テ解除シ之ヲ重訂スル旨声明セル以上満期トナレル条約ト満期トナラサル条約トニ対シ特ニ夫々規定ヲ分チ法理ト事実トヲ共ニ考慮シタルハ最モ国際信義ヲ尊重セシ明証タリ即チ貴国政府カ国際主義ヲ無視スルノ暴挙ト云ヒ彼我両国睦誼ノ深源ヲ以テシテ而モ往復公文中ニ畢竟外交文書ニ平素見サル所ノ字句ヲ用ヒラレシハ本国政府ノ深ク遺憾トスル所タリ

国民政府七月七日発布ノ臨時弁法ハ其ノ意中華民国ト旧約満期新約成立前ノ各外国トノ間ノ政治商務関係ヲ維持スルニ在リ決シテ孰レノ一国ニモ偏スルモノニアラス中日隣交ハ密接ニシテ関係複雑ナルヲ以テ本国政府ハ此ノ臨時弁法ノ施行ニ対シ又曾テ深甚ノ考慮ヲ加ヘタリ

之ニ依リ新条約ノ重訂ニ対スル希望ハ甚タ切ナルモノアリ茲ニ貴国政府カ欣然改訂ノ商議ニ応スル旨表示セラレシニ依リ本国政府ハ一ニ至誠ヲ本トシ新条約商議開始ノ準備ニ従事スヘシ要スルニ国民政府唯一ノ懇望ハ一ニ速ニ双方平等相互主権尊重ノ新条約ヲ締結シ以テ年ノ経ルコト久シク現状ニ適セサル旧条約ニ代フルニ在リ而シテ其ノ懇望ヲ達スルノ真意ハ実ニ国際友誼ノ増進ヲ計ル所以ニシテ本国政府ハ之ヲ以テ根本政策ト為スカ故ニ再三申述フルヲ憚ラス而シテ本国政府ノ最希望スルモノハ特ニ日支ハ同州ノ隣国ニシテ国交元ヨリ敦ク共存共栄関係密接ナルヲ以テ新条約ノ締結ヲ速ニ完成シ以テ国際的風潮ヲ樹立シ両国共同ノ福利ヲ増進セム事ヲ深ク希フ貴国政府ハ本部七月十九日付照会ヲ査照シ速ニ全権代表ヲ派遣シ最近期内ニ於テ商議ヲ開始シ共ニ誠意ヲ以テ新条約ヲ促成シ依テ以テ益々日支固有ノ国交ヲ敦ウシ両国国民親善ノ基礎ヲ確立セムコトヲ切望ス依テ重ネテ査照ノ上貴国政府ニ伝達アラムコトヲ請フ

568 昭和3年8月(18)日 在中国芳沢公使より田中外務大臣宛（電報）

現情勢に鑑み我が方は妥協して条約改正交渉を開始することが得策である旨意見具申

北京発
本省 8月18日前着

第※一二一四号

南京領事発本使宛電報第二九八号ニ関シ

一、南京政府回答ノ正文未着ナルニ付正鵠ナル批判ヲ下シ得サルモ右電報ニ依レハ同政府ハ情勢変遷ノ原則ト第二十六条ノ解釈トニ依リ現行条約ノ廃棄ヲ主張シ臨時弁法ノ適用ヲ固執スルモノニシテ大体ノ論旨ハ最初ノ通告ト殆ト変更ヲ見ス我方トシテハ到底同意シ能ハサルカ故ニ(イ)情勢変遷ノ原則ハ其ノ本来ノ意義及国際先例ニ徴シ将又日支通商条約ニハ改訂規定（第二十六条）アル事実等ニ鑑ミルモ本問題ハ適用シ得サルコトヲ指摘シ(ロ)第二十六条ノ解釈ニ付テハ先方ハ専ラ漢文本文ニ依リタルモノノ如キカ故ニ基本タルヘキ英文本文ヲ引キテ本条規定ノ意味ヲ明白ニシ(ハ)臨時弁法適用ハ条約ノ廃棄ヲ前提トスルモノナルカ故ニ是ヲ承認シ得サルコトヲ闡明シ一応先方ノ回答ニ対シテ反駁ヲ加フルノ外ナシ

二、サレト斯ノ如ク南方政府ハ条約廃棄論ヲ固執シ我方ハ有効論ヲ固持シ両々相下ラサル時ハ両者ノ主張ハ遂ニ一致ヲ見ルコトナカルヘク其ノ結果日支ノ関係ハ益々疎隔シ支那人ノ対日反感ハ愈々深刻トナリテ随所ニ不快ナル事件発生シ両者ニトリ面白カラサル影響ヲ与フヘキカ故ニ我方トシテハ列国ノ対支政策ト支那国内政情ノ推移ヲモ考慮シテ今後ノ対策ヲ決定スル必要アリ

三、只今列国ノ態度ヲ見ルニ英米両国ハ御承知ノ如ク関税ニ付テハ暫行税率乃至国定税率ニ対シテ頗ル寛大ナル態度ヲ示シ現ニ英国公使ノ如キハ八月十六日本使ノ問ニ対シ英国トシテハ暫行税率ノ実施ニハ反対セサルヘシト云ヘルコトアリ

其ノ他ノ諸国ニアリテハ条約問題ニ就テハ仏国初メ多クハ我方ト同様ノ主張ヲナシ居ル次第ナルモ暫行税率乃至国定税率ニ対シテハ飽ク迄反対スル者モナカルヘク寧ロ英米若シ之ヲ承認スレハ之ニ追従スル者亦鮮カラサルヘシ従テ我方トシテハ条約問題ニ就テハ例ヘハ米ヲ除ク仏国其ノ他ノ諸国ト協調ヲ保チ得ルモ税率問題ニ就テハ是等諸国ト或ハ歩調ヲ一致シ得サル場合アルヘキノミナラス仮令仏国其ノ他ト条約問題ニ協調シ得ルトスルモ政治

上ノ立場及商業上ノ関係ヲ考慮スレハ英米協調程ノ効果有ルヘシトハ思考セラレス

四、日本トシテハ関税会議ニ於ケル自主権回復ノ決議ニ拘束セラルルモノニ非サルモ南京政府ハ勿論支那一般ノ与論ハ来年一月一日ヨリ国定税率ヲ実施スルコトニ極メ込ミ又暫行税率ニ就テハ南京政府ハ九月一日ヨリ実施スル計画ハ放棄シタルモ十月一日ヨリ実施セントスルヤノ聞込ミアリ加フルニ英米両国ハ右ノ如キ支那側ノ計画ニ共鳴シ居ルカ故ニ我方トシテハ早晩暫行税率及国定税率問題ニ付テ困難ナル事態ニ遭会スルモノト覚悟セサルヘカラス

五、我対策ヲ考慮スルニ当リ南方政情安定セサルカ故ニ今暫ク其ノ政局ノ推移ヲ傍観スヘシトノ意見アル処現在南京政府倒ルルモ其ノ後継政府ト大差無カルヘク政府ノ要部ニ更迭アルモ国民党政府タル以上其ノ遣ロニハ変更ヲ見ルコト無カルヘシ従テ日本トシテハ仮令南方政府ノ遣ロニ不満アルモ適当ナル保障ヲ取付クルヲ得ハ現在支那ノ如キ国柄ニテハ致方無シト諦ムルノ外無キ次第ナルカ南方ハ絶ヘス内訌アルモ暫ク南方以外ノ勢力ニ依リテ倒サレルコトモナカルヘク併セ第五次全体会議ハ曲リナリニモ兎モ角纏マリタルカ故ニ当方ハ南方勢力ト直面セサルヲ得ス然ルニ現在我方ハ南方ニ対シテ満州問題南京及済南事件及条約問題等事毎ニ衝突シ其ノ間隔益々遠サカラントスル傾向アルカ故ニ今此ノ上南京政府ノ我方ニ対スル敵意ヲ挑発スル時ハ南方ニ於テ国民党内左傾派乃至共産党跳梁ノ機会ヲ与フルカ或ハ南京ハ兎ニ角英米ニ頼ラントスルカ或ハ再ヒ露国ニ接近セントスルカノ虞レ無シトセス従テ我方トシテハ南方ヲシテ右孰レノ方面ニ走ラシムルヨリモ或ル程度ニ於テ条約問題及済南事件等ニ付之ト妥協ヲ遂ケ寧ロ南方ヲ善導スルニ努力スルヲ得策トスルヤニ思考ス

六、乍併条約問題ニ付テハ南方ハ廃棄論ヲ撤回スルコトナカルヘク我方トシテモ有効論ヲ抛棄スルコトナク両者ハ既ニ全然相ヒ容レサル主張ヲ闡明シ居ルカ故ニ其ノ間ニ妥協ヲ計ルコトハ甚タ困難トスル処ナルモ南京政府ノ願望ハ其ノ回答ニモ云フカ如ク現行条約廃棄ニ非スシテ新条約ノ締結ニアリ帝国政府モ亦其ノ覚書ニ於テ新条約商議ノ誠意ト用意トヲ有スルコトヲ闡明セル事実ニ鑑ミレ

ハ理論上ハ兎ニ角トシテ其ノ目的ニ於テハ霊犀相通スルモノアリ従テ双方ノ当局ハ此ノ共通ノ一点ニ妥協ノ端緒ヲ見出シ得ヘシ

七、若シ夫レ条約問題ヲ満州問題ニ利用スルコトハ政策上ハ妙案ト思ハルルモ満州問題ハ其ノ性質上条約問題ノ解決ニ支配セラルルコトヲ許ササルノミナラス日本特殊ノ問題ハ条約問題ノ如ク各国共通ノ問題ニアラサルカ故ニ条約問題ヲ飽ク迄満州問題ニ利用スルコトハ果シテ得策ナリヤ疑ナキ能ハス且ツ満州問題ニ付テハ妥協ハ兎ニ角三ケ月延期トナリタルカ故ニ暫クハ条約問題ヲ引用スル必要ナキニ至ルヘク而シテ其ノ間ニハ暫行税率ノ問題発生シ又右三ケ月ノ期限終了ノ頃ハ間モナク自主権回復ノ問題発生スヘシ従テ南京政府ノ回答ニ対シテハ只反駁スルニ止メス同時ニ我ニ於テ将来ノ方針ヲモ予メ決定シ置ク必要アルヤニ思考ス

八、斯ノ如ク考察シ来ラハ我方トシテハ先方ノ回答ニ対シ一応反駁ノ回答ヲ与フルト同時ニ他方機ヲ見テ現行条約ヲ有効ト認ムル我方ノ主張ヲ留保シテ商議ヲ開始スルノ意向アルコトヲ先方ニ披瀝スヘク是ニ対シテハ南京政府ハ必スヤ条約廃棄ノ主張ヲ留保シテ応諾スヘキカト信セラルル節アリ斯テ条約ノ改訂ノ商議ニ入ルモノトスレハ関税ニ付テハ大体関税会議ニ於ケル方針ヲ踏襲シ治外法権ニ関シテハ治外法権委員会ノ報告ヲ基礎トシテ取極ヲナシ其ノ効力ノ発生ハ在支(ママ)関税条約ノ先例ニ準シ最恵国約款ヲ協定シ置クコトトセハ大体ニ於テ我方ニトリサシタル不都合ナカルヘキカト思考ス

569

昭和3年8月(22)日　在英国佐分利臨時代理大使より田中外務大臣宛（電報）

英国外務省当局の中国条約改正問題に関する意向について

ロンドン　発
本　省　8月22日前着

第一七四号

最近「ウエルズリー」ヲ初メ極東部長ト談話ノ際屢々改約問題殊ニ関税問題ニ言及シタルカ右ニ依リ外務当局カ差当リ是等ニ付考ヘ居ル処ヲ綜合シ不取敢御参考ニ供ス

一、一旦新政府ヲ承認セハ之ヲ取消ス事ヲ得サルカ故ニ若

シ南京政府ヲ承認シタル後再ヒ北京ニ政府成立スル事アラハ極メテ不都合ノ事態ヲ生スヘキニ付南京政府正式承認ノ問題ハ勉メテ之ヲ延期スル事

二、治外法権ノ撤去ハ近キ将来ニ於テ解決ノ時期ニ達セサルヘキヲ以テ先ツ逢着スヘキハ関税問題ナルカ英国ハ既ニ覚書ニ依リ主義上自主権ヲ認メ支那ニ対シ「コンミット」シ居リ日仏両国ノ如キ自由ノ立場ニ非ス

三、但シ英国ハ支那ノ関税自主権回復ニ付テハ税ハ統一的ナル事及無差別ナル事ノ二条件ヲ前提トスル事ヲ声明シ居レリ

四、右前提条件ハ支那カ日仏ト関税問題ニ何等協定ヲ遂クルニ非サレハ実行セス従テ支那ヨリ自主権問題ヲ迫ル時ハ英国ハ支那ニ対シ先ツ他ノ条約国ト協定スヘシト答フルヲ得ヘシ

五、支那カ日仏等ト協定ニ達スル時ハ英国ハ自主権問題ヲ具体的ニ論スル事トナリ之ニ関連シテ起ル保管銀行其ノ他一切ノ関係問題ヲ議スルノ段取トナルヘシ

六、支那カ中間差等税率ノ実施ヲ希望スルニ於テハ外国ニ取リ寧ロ好都合ニシテ之ヲ協定税率ト為サシメ一定期間支那ノ税率ヲ縛ル事ヲ得策トスヘシ

七、支那カ中間税率ヲ適用スル場合ニハ現ニ二分五厘付加税徴収ノ為設ケタル特殊税局ヲ廃シテ海関ノ統一ヲ計ル事等ヲ条件トスル事

八、中間税率ニ付テハ関税会議中ノ案ニ何等変更ヲ加ヘサルヲ可トス一旦変更シ始ムレハ際限ナク収拾困難ナルヘシ

九、中間税率ヲ協定税率トスル時其ノ期間ハ成ルヘク長キヲ欲スルモ現在支那ノ事情ニ鑑ミ五年ヲ超ユル事不能ナルヘシ

要スルニ外務当局ノ考ハ英支通商条約ノ期限ハ未タ到来セス日本ハ既ニ条約問題ニ迫ラレ居リ而シテ日本ハ支那ノ自主権回復ノ場合ニハ協定税率ヲ以テ其ノ貿易ヲ保護スルヲ以テ方針ト定メ居ルカ故ニ差当リ関税問題ニ付テハ先ツ日本カ其ノ衝ニ当ル事トナルヘシト考ヘ居リ英国モ亦税率協定ヲ希望シ居ルトノ事ナリ又中間税率ハ関税会議中仏国カ留保セル外大体ハ異存ナキ意向ヲ示シ居ルモノナレハ之ヲ協定ノ基礎トシ得レハ好都合ナルヘク之ニ依リテ前途暗澹タル支那ノ事態ニ幾分カノ安定ヲ招致シ得ヘシト為シ居ル

カ如シ尚或ル機会ニ於テ本官ヨリ「ウエルスレー」ニ対シ同氏ノ説明ニ依レハ英国ハ米国同様ノ条約ヲ南京政府ト結フ意思ヲ有スルモノニ非スト解スルカ其ノ通リナリヤト試問シタルニ支那ノ事情ハ千変万化ナレハ将来ニ付意見ヲ「コンミット」スルヲ欲セサルモ現在左様ノ考無キ旨ヲ述ヘタリ

尚借款ニ付テハ曩ニ広東ヨリ香港方面ニ対シ六百万磅程ノ申出アリ又胡漢民孫科来英ノ節モ借款希望ヲ申出タルモ勿論全然取合ハレサリシ趣ナリ為念

米、仏、独ヘ転電シ伊、白、露、蘭、西、瑞典、連盟事務局ヘ暗送セリ

570　昭和3年8月(24)日　在中国芳沢公使より田中外務大臣宛（電報）

英国は中国関税自主権回復の条件に関し日英協調を図りたい旨の英国公使の談話について

北京　発
本省　8月24日後着
第一二四二号

往電第一一七一号(五六六文書)ニ関シ

八月二十三日英国公使来訪本月七日貴公使談話ノ次第ハ早速本国政府ニ電報シ置キタル処今回其ノ返電ニ接シタリト述ヘ其ノ要旨トシテ英国ハ日本ノ対支政策ニ同情ヲ有スルモノニテ時ト場合ニ応シ現範囲ニ於テ（when and where it is possible）日本ト協調シタキ所存ナルカ日本政府ニ於テハ具体的協調案ヲ有セラルル次第ナリヤ承知シタシト述ヘタルニ付本使ハ本月七日貴公使ニ対スル御話ノ趣旨ハ敢テ日本政府ニ於テ具体案ヲ有スル次第ニ非ス唯貴国外務大臣ノ我代理大使ニ対スル談話ニ顧ミ或ハ従来ノ程度以上ノ連絡ヲ取ラムトスル意味ナルヤニモ見受ケラルルカ故ニ其ノ点ヲ確メムトシタルモノニ過キスト答ヘタル処同公使ハ英国政府ニ於テハ予テ自分ヨリ貴公使ト平素出来得ル限リ協調ヲ保持シツツアル旨ノ報告ニ接シ居ルカ故ニ右ニ基キ条約改訂ニ付テハ関税自主権問題ニ関シ英国トシテハ例ヘハ債務整理ノ如キモノヲ条件トスル意向ヲ有セサルモ日支両国ノ間ニ債務整理ヲ条件トスル協定成立スル場合ニハ英国政府ニ於テモ亦右協定ニ参加スル事トシタキ意向ナリト述ヘタルニ付本使ハ過日ノ貴公使ノ談話ニ依レハ

貴[2]公使ヨリ本国政府ニ条約改正ニ関シ四案ヲ稟議セラレタル趣ナルカ右ヲ貴国政府ヨリ回訓ニ接セラレタリヤト尋ネタル処同公使ハ然リ本国政府ニ於テハ右四案中米支条約ニ加フルニ協定税率ヲ以テスルノ案ニ同意シ来リ尚本国政府ニ於テハ自分ノ意見タル先ツ差当リ関税ニ関スル協定ノミヲ「シングルアウト」シテ支那ト交渉スルノ案ヲ承認シ来レリト述ヘタルニ付本使ハ然ラハ内水航行問題及治外法権等ノ問題ニ関スル本国政府ノ意向ハ矢張リ七日御話ノ貴見ヲ採用シタル次第ナリヤト尋ネタル処同公使ハ然リト答ヘタリ同公使ハ更ニ進ンテ要スルニ英国政府トシテハ自主権回復ニ関スル条件ニシテ日支間ニ協定セラルル場合ニハ英国側ニ於テモ反対セサル次第ナルカ故ニ此ノ辺ニ基礎ヲ置キテ協調ヲ保ツ事トセハ協調可能ナリトノ意向ナルカ日本政府ニ於テ詳細ナル案ヲ有セラルル次第ナリヤト繰返シ尋ネタルニ付本使ハ前ニ述ヘタル通七日会見ノ際ニ於ケル本使ノ質問ハ敢テ日本政府ニ於テ具体案ヲ有スル事ヲ前提トシタル次第ニ非サルモ日本政府トシテハ条約改正問題ニ関スル将来ノ方針ヲ定ムルニ当リ本日御話シノ如キ趣旨ヲ承知スル事ハ今後ノ対策ヲ定ムル上ニ於テ多大ナル参考材料トナル事ト思考スル旨答ヘ置キタリ

571　昭和3年8月(31)日　在中国芳沢公使より田中外務大臣宛（電報）

条約改正問題に関し合法的な手段を求める我方反駁回答案につき請訓

北京　発
本省　8月31日前着

第*一二六四号

往電第一二五二号ニ関シ

回答案要領左ノ通ニ付御詮議ヲ請フ

(一)国民政府ハ日支条約（同付属文書及議定書並追加条約等ヲ含ム）ハ締結以来長年月ヲ経過シ其ノ間両国ノ経済、商務及人民ノ関係並政治ノ状況ニ累次ノ変遷アリ最早現状ニ適合セサル為該条約ニ根本的改訂ヲ加ヘ平等ノ原則ニ基キテ新条約ヲ締結シ以テ中日親善ノ本旨ニ副ハシメムトノ請望ヲ表白セル処根本的ニセヨ然ラサルニセヨ協同的改訂ニ在リトセハ日本政府ニ於テモ敢テ考慮ノ余地無シトセサル次第ナルカ国民政府ハ一方ニ於テ右ノ如キ希望ヲ表白セルニ拘ハラス他方ニ於テ更ニ不平等又ハ現状不適合条約ハ情勢変化ノ原則ニ依リ廃棄又ハ中止スルモ国際信義ニ反スルモノニ非ストシテ七月十九日付外交部長照会中記述ノ主張ヲ支持シ所謂臨時弁法ノ施行ニ対シテモ単ニ深甚ナル考慮ヲ加ヘタリト称スルノミニテ右臨時弁法ノ施行中止ヲ声明セサル事実ニ顧ミレハ同政府ハ依然日支条約廃棄論ヲ維持スルモノニシテ而モ其ノ理由ハ情勢変化ノ原則ニ依ルモノノ如ク解釈セラルル処情勢変化ノ原則ハ元来条約締結ノ前提タル状態カ全然喪失シ条約存在ノ目的カ失ハレタル場合ニ適用セラルヘキ極メテ限定的ノモノニシテ単ニ四囲ノ情勢カ変化シタリトノ理由ノミヲ以テ適用スヘキモノニ非ス世界ノ情勢ハ絶ヘス変化シツツアリタリトテ条約ノ廃棄ヲ主張シ得ヘシトセハ殆ト総テノ条約ハ何時廃棄ノ運命ニ遭遇スルヤモ計リ難シ加之日支条約ニ於テ特ニ条約ノ効力ニ関スル条項ヲ設ケタルハ情勢ノ変化ヲ予想スルト同時ニ情勢ノ変化カ当然条約ヲ無効トスルモノニ非サル事ヲ明カニシタルモノナリ之ヲ先例ニ徴スルモ本件日支条約ノ如キ場合ニ此ノ原則ノ適用ヲ認メタルモノ無シ従テ情勢変化シタル為ニ条約ノ改訂ヲ必要トストノ主張ハ為シ得ヘキモ情勢変化ノ為ニ条約ハ之ヲ廃棄シ得ヘシトノ結論ヲ生スルモノニ非ス

(二)国民政府ハ専ラ第二十六条漢文ヲ引用シテ該条項ノ意味ハ満期後六ケ月内ニ若シ何レカ一方ノ提議ニ依リ改訂ヲ声明シ且既ニ改訂ノ商議ヲ実行シタル場合ハ該条約ハ再ヒ其ノ効力ヲ延長セサルモノナリトノ趣旨ナリト為シ尚北京政府時代ニ於テ大正十五年十月二十日付公文ヲ以テ日支条約ノ改訂ヲ申出テ同時ニ条約ニ規定スル六ケ月間ニ新条約完成セサル場合ニハ其ノ当然有シ得ヘキ権利ヲ留保スル旨ヲ声明シタルカ故ニ条約ノ効力延長ニ同意シ得スト主張スル処第二十六条ノ解釈ニ付テハ本年七月三十一日付日本公使館ノ覚書ニ於テ陳述シタルカ如ク該条項ノ日本文本文及英文本文ニ顧ミ（英条約引用）十年ノ終リヨリ起算シ六ケ月以内ニ改正商議ヲ完了セサル時ハ条約並ニ税目ハ当然十ケ年間効力ヲ存続スヘキ事明白ナリトス日本政府ハ斯ノ如キ明瞭ナル規定ニ対シテ解釈ノ相違ヲ見ルヲ遺憾トスル次第ナルカ万一日本文本文漢文本文トノ間ニ解釈ヲ異ニスル事アリトスルモ同条約第二

十八条ニ於テ右ノ如キ場合ニハ英文本文ニ依リテ決済スヘキ旨規定セラレ居ルカ故ニ日本政府トシテハ飽ク迄其ノ主張ノ正当ナル事ヲ確信スルモノナリ将又右北京政府ノ声明ニ対シテハ日本政府ハ三年（大正十五年カ）十一月十日付覚書ヲ以テ条約改訂ノ申出ヲ応諾スルト共ニ前記ノ権利留保ニ対シテハ現行条約第二十六条ノ規定ニ依リ何等之ヲ容認スルヲ得サル旨回答シ其ノ後数回ノ商議期間ノ延長ニ際シテモ常ニ此ノ見解ヲ把持シ来リタル次第ハ七月三十一日付覚書ニ於テ指摘シ置キタル通リナリ右様ノ次第ニテ所謂権利留保ノ声明ハ何等条件ノ規定ヲ変更シ若ハ条約ノ効力ニ影響ヲ及ホシタルモノト認ムル能ハス

(三)国民政府ハ日支国交ノ緊密複雑ナルニ鑑ミ臨時弁法ノ施行ニ対シ深甚ナル考慮ヲ加ヘタル旨言明セルモ果シテ之カ施行ニ関スル態度ニ変更ヲ来シタルヤ明カナラス日本及日本人民ノ権利利益ニ重大ナル影響ヲ及ホスノ惧アル事項ニ関シ唯深甚ナル考慮ヲ加ヘラレタル旨ノ声明ノミヲ以テ従来ノ態度ニ変更ヲ来シタルモノト測量スル能ハサルヲ遺憾トス

(四)帝国政府ハ国民政府ノ有スル現状不適合条約又ハ不平等条約改訂ノ要望ニ対シテハ常ニ同情シ出来得ル限リノ援助ヲ吝ムモノニ非サルモ条約ノ改廃ハ如何ナル場合ニ於テモ合法的手段ニ依ルヲ要スルハ云フ迄モナシ

572　昭和3年9月(20)日　在英国佐分利臨時代理大使より田中外務大臣宛（電報）

税率協定を条件に米中関税条約と同様の条約締結に異議なき英国政府の意向について

ロンドン　発
本　省　9月20日前着

第二〇五号
往電第二〇一号（八〇三文書）ニ関シ

内田全権ト極東部長トノ談話終了後本官ヨリ支那関税問題ニ関スル英国ノ意向ニ付種々質問ヲ試ミタル処部長ノ談話中ニ左ノ一節アリ内密ノ御参考迄

支那側ヨリ米支条約ト同様ノ条約ヲ英国ト締結シタキ旨申出アリ是ニ対シ英国側ニ於テハ此ノ機会ニ関税会議ノ際作製セラレタル暫行税率表中ヨリ英国ニ於テ利害関係ヲ有スル幾ツカノ品目ヲ引抜キ是ニ付右税率表ニ記載セルト同一ノ率ヲ協定税率トナス目的ヲ以テ支那ト右締結ノ交渉ヲ開始シ差支ナキ意向ナリ尚協定税率ノ有効期間ハ四、五又ハ六年位トスヘク夫レ以上長クスルコトハ困難ナリト思考スルモ一層長キ有効期間ヲ定メ得ル場合ニハ協定税率ハ暫行税率表ヨリモ幾分重率トスルモ差支ナキ意向ナリ要スルニ英国ノ最モ主眼トスル処ハ貿易ノ安定ニアリ

尚同部長ノ談ニ依レハ右ノ趣旨ハ既ニ在支英国公使ヘ申送リアリ同公使ハ右趣旨ニテ支那側ト適宜交渉スルノ権限ヲ与ヘラレ居ルモ未タ実際会談ノ運トナラサル趣ナリ（本電ハ全権御承知）

米、仏、独、伊、白、露、連盟事務局ヘ転電シ土、蘭、瑞典ヘ暗送セリ

573　昭和3年9月22日　田中外務大臣より在上海矢田総領事宛（電報）

国民政府改組の場合の蔣介石への条約改正問題解決策提示要領について

本　省　9月22日発

第二三一号*
往電第二〇七号ニ関シ

蔣介石カ穏健派ト提携シテ五院制度ヲ確立シ過般来噂サレ居ルカ如ク蔣カ行政院長トシテ国民政府ノ首脳トナルニ至レハ対外方針モ穏健化スルモノト思考スルニ付右ノ如キ時期ニ立至レハ日本政府ニ於テハ日支関係ノ大局ニ顧ミ通商条約問題等ニ対シテモ相当ノ妥協的態度ヲ示スニ吝ナラス

就テハ近ク国民政府改組実現シ蔣介石カ行政院長ニ就任シタル機会ニ於テ貴官ハ遅滞ナク蔣介石ニ面会シ貴官ノ意見トシテ左ノ主旨ヲ述ヘ蔣ノ政府ニシテ条約問題済南事件等ノ転換ヲ策セシムル様仕向ケラレ度シ予メ申進ス

政府ハ国民政府ニ対シ列国ニ優ル同情ヲ有スル次第ナルモ例ヘハ通商条約改正問題ノ如キ夙ニ芳沢公使ヨリ唐悦良ニ自分ヨリ王正廷自身ニ又亜細亜局長ヨリ汪公使ニ支那側ノ慎重ナル態度ヲ希望シ置キタルニ拘ハラス王外交部長ハ右日本側数次ノ意思表示ヲ無視シ七月十九日条約ヲ廃棄シ臨時弁法ヲ日本人ニ適用スヘキヲ通告シ来リタル為政府ハ勿論日本国一般ヲシテ甚タシク失望セシメタルハ甚タ遺憾トスル所ナリ最近王部長ヨリ第二回ノ照会ヲ寄セ来リ其ノ一節ニ臨時弁法ノ適用ニ就テハ曾テ深甚ナル考慮ヲ加ヘタリ

ト述ヘ之ヲ以テ臨時弁法適用延期ノ意味ナリト弁疏シ以テ日本側ヲシテ改訂商議ニ応セシメムトシツツアルモ文理解釈上然ク解釈シ得サルノミナラス仮リニ延期ノ意味ナリトスルモ右延期カ日支現行条約ヲ有効ト認ムルコトナリヤ否ヤモ不明ナルカ上ニ現ニ臨時弁法ヲ適用シ居ルモノト認メラルル事例モアリ旁々日本政府トシテ未タ之カ回答ヲモ差控ヘ居ルカ如キ次第ナリ日本ノ主張ハ臨時弁法ヲ撤回シ現行日支条約ノ有効ヲ確認スルニ非サレハ条約改訂ノ商議ニ入ルヲ得スト云フニアルモ日本トシテモ支那側ノ内部関係上全然其ノ主張ヲ撤回スルコトノ困難モ亦諒察シ居ラサルニアラサルヲ以テ若シ支那側ノ真意ニシテ日支条約ノ有効ヲ認メ日本人ニ臨時弁法ヲ適用スルノ意ナキモノトスレハ貴下（蔣介石）カ行政院長トシテ政府組織ヲ改メ穏健ナル政策ヲ実行シ日支ノ関係ヲ改善セントスル此際日本ヲシテ条約問題ニ対スル態度ヲ変更セシムルコト左シテ難事ニアラスト思考ス而シテ其ノ手続方法トシテハ例ヘハ日本ヨリノ支那側第二次照会ニ対スル回答ニ於テ先ツ一応ハ㈠支那側ノ条約廃棄ノ論拠タル情勢変化説ハ其ノ理由ヲ認メ難キコト㈡第二十六条ノ解釈ニ就テノ日本政府ノ主張ノ正当ナルコトヲ説明シタル後（在支公使発本大臣宛電報第一二六四号ノ回答要領㈠及㈡参照）（五七一文書）右我方ノ所説ハ素ヨリ之ヲ枉ケル能ハサルモ他方支那ニ於ケル不平等条約改訂ノ要望ニ対シテハ飽ク迄同情的考慮ヲ吝ムモノニアラス故ニ国民政府ニ於テ日支両国ノ友好善隣ノ関係ヲ顧慮シ新条約完全ニ成立スル迄ハ其ノ一方的ニ制定セル臨時弁法ノ適用ヲ差控ユルノ決意ヲ表示シ以テ現行条約ノ条項ニ依リ両国間ノ関係ヲ律セントスルノ誠意ヲ披瀝スルニ於テハ此際商議ニ応シ適当ト認ムル改訂ノ交渉ニ入ルモ差支ナシトノ趣旨ヲ明記スルコトトシ之ニ対シ国民政府ヨリハ貴翰ノ趣諒承セリ仍テ速ニ商議ニ入リ度キニ付交渉委員ヲ任命アリタキ旨回答スルカ如キ一案ナリト思考ス又例ヘハ済南事件ノ如キ南京漢口事件ノ如キ不祥事件ノ解決セラレサルコトハ日本国民トシテ誠ニ遺憾ニ感シ居ル次第ニシテ本件ニシテ解決セラレサル限リ日支関係ノ好転ハ期待シ難キ処日本政府トシテハ日支関係ノ大局上成ルヘク速ニ且簡単ニ之ヲ解決スルノ用意アルカ故ニ国民政府トシテハ速ニ之カ解決方針ヲ確立シ日本ニ向ツテ交渉ヲ開始スルノ要アルヘシ猶日支間ノ関係ヲ根本的ニ改善スル目的ノ為ニ何人カ充分ノ

権限アル相当ノ人物ヲ至急日本ニ特派シテ田中総理ト充分懇談セシムルコト必要ナルヘク右ノ場合ニハ総理トシテモ必スヤ隔意ナキ意見ヲ開陳セラルルコトヲ疑ハス

574　昭和3年10月(21)日　在南京岡本領事より田中外務大臣宛（電報）

条約改正交渉開始に際する日中往復書簡につき王外交部長と討議について

別　電一　十月二十一日着在南京岡本領事より田中外務大臣宛第五六八号

条約改正問題に関する我方第二次回答案

二　十月二十一日着在南京岡本領事より田中外務大臣宛第五六九号

条約改正問題のための全権派遣に関する国民政府の第二次要請文案

南京発

本省　10月21日後着

※第五六七号

往電(1)第五六三号ニ関シ

矢田総領事ヨリ

十九日午前中、王トノ会見ニ於テ本官ハ条約廃棄問題ニ対スル我方ノ態度ヨリ説キ起シ我方カ王ノ第二次照会ニ対シ回答ヲ差控ヘ居ル所以ヲ貴電第二三一号（五七三文書）ノ趣旨ニ依リ篤ト説明ノ上両国其ノ主張ヲ固持シテ論争ヲ継続スレハ果シナク日支問題ノ好転ハ到底期待スルヲ得サル次第ナリサリトテ貴方ニ於テモ其ノ主張ヲ全然撤回スルヲ困難トスル事情アルコトハ自分モ充分諒察シ居ル所ナルニ依リ之ハ本官限リノ私案ナルカ是レ位ノ所ニテ論争ニ鳧ヲ付ケ本件解決ヲ計ルコト如何ト右貴電第二三一号ノ解決方法ヲ述ヘタル処王ハ右様解決セハ貴官ハ直ニ自分ト条約改訂ノ商議ニ入ル次第ナリヤト質問シタルニ依リ本官ハ此ノ解決ハ単ニ従来ノ論争ニ結末ヲ付クルモノニシテ而シテ後両国互ニ全権ヲ任命シ条約改訂ノ商議ヲ開始スル次第ナリト説明シタル処王ハ稍々失望ノ面持ニテ何トカ内交渉丈ニテモ早ク開始スル方法ナキヤト頻リニ改訂商議ヲ急キ居ル様子ナリシカ本官ハ之ヲ軽ク扱ヒ物ニハ順序アリ先ツ只今「サジェスト」セル解決方法ニ同意ナリヤ否ヤヲ伺ヒ度シト切出シタル処種々ノ質問議論続出シ之亦果シ無キ様見エタレハ

本[2]官ハ前記貴電ノ趣旨ニ依リ予メ用意シ置キタル別電第五六八号ノ如キ支那側第二次照会ニ対スル我方回答案並之ニ対スル支那側回答案（支那側回答案ハ電報セス）ヲ示シ午後ハ此ノ具体案ヲ基礎トシ討議シタキニ付研究シ置カレタシト述ヘ置キタルカ同日午後ノ会見ニ於テ王ハ右ニ対スル対案ヲ持参セリトテ本官ニ示シタルカ右ニ依レハ我方回答案ノ末段「帝国政府ハ既ニ反覆言明」云々以下ノ全文ニ対シ根本的修正ヲ加ヘ更ニ之ニ対スル支那側回答案ノ対案ニ於テハ再ヒ和文及漢文間ニ解釈ノ相異無キカ故日本カ英文本文ニ依リ決済スヘシト主張スル理由ナキ旨ヲ指摘シ更ニ最後ニ於テ全権任命ノ上ハ一個月以内ニ於テ重要原則ヲ決定シ右原則ヲ基礎トシ速ニ条約ノ改訂ヲ為サンコトヲ切望スト記載アリタルヲ以テ本官ハ一言ノ下ニ斯様ナ対案ニテハ御話ニ成ラスト撥付ケタル処王ハ何ノ点カ不承知ナリヤト質問セルニ依リ本官ハ支那側回答案ハ全然本官午前中説明ノ趣旨ニ反ス本官ハ論争ヲ打切ル為支那側回答案ニ於テハ一切セサルコトヲ主張スル次第ナルニ又復和文及漢文本文云々ト議論ヲ吹掛ケ居レルニ非スヤト述ヘタル処

王[3]ハ日本カ我第二次照会ノ回答案ニ於テ支那ノ所説ヲ反駁シ居ル為支那側カ其ノ回答ニ於テ沈黙セハ負ケタルコトトナリ極メテ不利ナル立場ニ置カルヘシトテ中々譲ラサルニ依リ本官ハ論争ヲ継続セハ又復際限無キ次第ヲ反覆説明シ若シ此ノ一句ヲ削除セスンハ最早本件ニ付テハ商議セスト迄極論シタル結果王モ渋々乍ラ本件削除ニ同意セリ依テ本官ハ最後ニ「一個月以内ニ云々」ノ句ヲ指摘シ斯ル条件ヲ付スルカ如キハ先例モ無キニ依リ削除アリタシト述ヘタル処王ハ此ノ処カ最重要ナル点ナリ尤モ「一個月」ハ「速ニ」位ニ修正シテモ可ナリト言ヘルニ依リ本官ハ条約ノ正式承認ニモ入ラサル以前ニ先ツ原則ヲ決定シ而シテ其ノ基礎ノ上ニ於テ商議スト言フカ如ク約束スル事カ主義上絶対ニ同意シ難キ次第ナリト反覆説明ノ上頑強ニ削除ヲ迫リタル結果王モ遂ニ渋々乍ラ折レ然ラハ相互平等ノ基礎ニ於テ商議スルモノナルコトヲ示ス為一句丈ケヲ存置シ其ノ他ノ部分ハ之ヲ削除スヘシトテ別電第五六九号ノ如キ案文ヲ示シタルニ依リ本官ハ「平等及主権互尊云々」モ全然蛇足ナリト反対シタルモ王ハ英米仏等トノ南京事件解決協定ニ於テモ総テ平等条約締結ノ言質ヲ得居ル次第ニシテ国民ニ対スル手前モアリ此ノ点丈ケハ枉ケテ同意アリタク殊ニ単ナル希望トシテ付シタルモノナレハ貴国ヲ拘束スル次第ニ非スト

弁[4]疏ニ努メ頑強ニ固執シタルニ依リ支那側回答案ニ対スル論議ハ之ニテ打切リ更ニ転シテ本官ハ王ニ対シ我方回答案ニ対スル貴方ノ対案モ我方原案トハ根本的ニ相違シ居ルヲ以テ自分ハ貴方ノ対案ニ付意見ヲ表示スルヲ好マサルニ依リ之ヲ措キ我方案ニ就キ貴下ノ気ニ入ラサル所ヲ一々承ハルヘシト述ヘタルニ王ハ或ハ前段ノ弁駁ニ関スル議論ハ不必要ナリトカ其他或ハ末段「帝国ノ主張ハ固ヨリ枉クル能ハス云々」ハ無用ナリトカ其ノ他種々修正ヲ要求シ来レルモ一々之ヲ弁駁シ我方案ニ固執シタル結果遂ニ同案末尾ノ友好善隣ノ関係ヲ顧慮シ以下「新条約……確定セントスルノ」迄ノ一句ヲ削除セハ同意スヘシトノ所迄漕キ着ケタルニ依リ本官ハ此ノ一句コソ本案ノ最重要ナル点ニシテ支那ニ対シテハ条約廃棄論撤回ノ明言ヲ求メサルカ我方トシテハ之丈ケノコトハ明記セサレハ面目立タサル次第ナリトテ頑強ニ削除ニ同意セサリシカ王亦支那側回答案ニ於テ自分ノ面子ニ係ハル譲歩ヲ敢テシタル場合ナレハ此ノ点ハ是非削除アリタシトテ押問答ヲ重ネタルモ到底埒明カサルニ依リ之ニテ条約問題ニ関スル案ノ討議ハ一応打切ルコトトセリ

（別　電一）

南京　発
本省　10月21日着

第[*]五六八号

八月十四日付国民政府外交部覚書ニ対スル帝国政府ノ回答私案

国民政府ハ日支通商条約問題ニ関スル本年八月十四日付国民政府外交部覚書ニ於テ依然明治二十九年ノ日支通商航海条約及付属文書並ニ議定書及明治三十六年ノ追加通商航海条約及付属文書ノ失効ヲ主張シ其ノ理由トシテ前記日支通商条約第二十六条ノ解釈ヲ反駁シタル外更ニ右条約ハ締結以来四囲ノ情勢ノ変化アリタルニ依リ当然廃棄シ得ヘキ旨ヲ宣明セリ依テ帝国政府ハ左記ノ次第ヲ国民政府ニ回答スルノ光栄ヲ有ス

日支通商条約第二十六条ニ関スル帝国政府ノ解釈ニ付テハ本件ニ関スル七月十九日付国民政府ノ照会ニ対スル七月三

十一日付在支帝国公使回答文ニ依リ明カニシテ更ニ反駁敷衍スルノ要ナキ次第ナルカ右第二十六条ニ関スル国民政府解釈ハ専ラ漢文本文ニ準拠スルモノノ如クナル処同条約第二十八条ニ依レハ日本文ト漢文トノ間ニ解釈ヲ異ニシタル時ハ英文本文ニ依テ決裁スヘキ旨ノ規定アリ而シテ右第二十六条ノ英文本文ニ依レハ帝国政府ノ主張スル解釈ノ正当ナルコトハ疑問ノ余地ナキ所ナリ将又此ノ際政府ハ日支通商航海条約締結当時ト今日トノ情勢変化ヲ理由トシテ本条約ヲ廃棄スヘシト主張スルモノノ如クナル処世界ノ情勢ハ刻々変化スルモノニシテ条約締結当時予期シ得サリシ事態ハ続々発生スヘキモノナルカ故ニ単純ナル情勢変化ノ理由ヲ以テ擅ニ条約ヲ廃棄シ得ルトスルニ於テハ総テノ条約ハ何度既締約国一方ノ単独意思表示ニ依リ廃棄セラルルヤモ計リ難キ不安定ノ状態トナリ現今条約ニ依リ維持セラルル国際的政治経済関係ノ安定ハ根本ヨリ脅威セラルルコトトナルヘク斯ノ如キ主張ハ帝国政府ノ到底容認シ得サル所ナリ加之日支通商条約第二十六条ニハ予メ条約締結後ニ於ケル情勢ノ変化ヲ予想シ此ノ場合ニ於テハ締約国ノ一方ハ他方ニ対シ条約改訂ノ提議ヲ為シ得ヘキ旨ヲ規定シ居ルニ依リ国民政府カ本条約ヲ以テ今日ノ情勢ニ適応セスト認ムルニ於テハ本条約所定ノ手続ニ遵拠シ帝国政府ニ対シ改訂ノ提議ヲ為スヘキコト唯一無二ノ合法的手段ナリ帝国政府ハ既ニ反覆宣明シタルカ如ク日支通商条約廃棄問題ニ対スル帝国政府主張ハ固ヨリ之ヲ枉クルコト能ハサルモ他方貴国ニ於ケル不平等条約改訂ノ要望ニ対シテハ飽迄同情的考慮ヲ吝ムモノニ非サル故ニ国民政府ニ於テモ日支両国ノ友好善隣ノ関係ヲ顧慮シ新条約完全ニ成立スルニ至ル迄ハ其ノ一方的制定ニ係ル臨時弁法ノ適用ヲ中止シ現行条約ノ条項ニ依リ両国間ノ関係ヲ確立セントスルノ誠意ヲ披瀝シ以テ現行条約改訂ノ提議ヲ為スニ於テハ帝国政府ハ右貴国ノ提議ニ応シ適当ト認ムル改訂ノ交渉ニ応スルノ用意アルコトヲ茲ニ宣明ス

（別　電二）

南　京　発
本　省　10月21日着

※第五六九号
国民政府ノ日本宛漢文対案（訳文）

…月…日付覚書ヲ接受シ既ニ閲悉セリ
中日通商航海条約訳文ノ解釈ニ関スル国民政府ノ見解及一切ノ主張ハ既ニ八月十四日本部長カ貴国駐華芳沢公使ニ致セル覚書ニ於テ詳晰ニ申述セルヲ以テ既ニ極メテ明瞭ナリ唯国民政府ハ貴国政府ノ本問題ニ関スル法規上ノ争執ハ之ヲ措キテ論セサルヘシトノ主張ニ対シテハ真ニ一ノ意義ヲ有スルヲ以テ至誠ニ基キ直ニ協議ヲ開始スヘシ茲ニ最短期間ニ平等及主権互尊ヲ原則トナシ新約ヲ重訂センコトヲ切望シ併セテ貴国政府カ速カニ全権代表ヲ任命シ日ヲ期シテ進行セラレンコトヲ熱望ス

575　昭和3年10月(22)日　在南京岡本領事より田中外務大臣宛（電報）

条約改正問題に関する我が方第二次回答案に対する国民政府側の修正提案につき請訓

別　電　十月二十二日着在南京岡本領事より田中外務大臣宛第五七五号
国民政府側が提案した条約改正のための全権派遣および商議開始に関する日本側回答案

南　京　発
本　省　10月22日前着

※第五七四号
往電第五六七号（五七四文書）ニ関シ
矢田総領事ヨリ
二十日午後王トノ会見ノ際王ハ再ヒ条約問題ニ言及シ最後ノ回答案ニ対スル日本側最後ノ回答ニ付希望シ置クトテ往電第五六九号支那側回答ニ対シ更ニ日本ヨリ全権委員ヲ任命シタルニ依リ平等及主権互尊ノ基礎ニ於テ条約改訂ノ商議ニ当ラシムヘキ旨認メタル回答ヲ発スルコトニ取極メ置キタシト申出テタルニ依リ本官ハ往電第五六九号支那側回答案ニ平等及主権互尊云々ノ文句挿入方同意シタル経緯ヲ指摘シ王カ昨日ト矛盾スルカ如キ提議ヲ為スハ実ニ心外ナリト述ヘタル処王ハ孰レニスルモ日本ハ全権任命ノ通知ヲ発スル次第ナルヘシト言ヘルニ依リ本官ハ勿論任命アラハ其ノ旨通知スヘキモ其ノ形式ノ如キハ自ラ定マリ居リ只今協定シ置クノ必要ナシト撥付ケタル処王ハ実ハ英米仏伊ノ各国ヨリハ既ニ条約改訂ノ場合ハ平等及主権互尊ノ基礎ニ於テ行フヘキ旨ヲ文書ヲ取付ケ居リ最モ重キヲ置ク日本ヨ

リハ未タ言明ナキニ依リ此ノ際日本ヨリモ同様明言ヲ得ル事ヲ希望スル次第ナリト本音ヲ吐キタルニ依リ英米仏伊ノ如キハ南京事件ニ関連シ条約改訂ノ一札ヲ交換シタルモノニシテ日支間南京事件ノ解決カ今日迄遷延シタルモ実ニ此ノ一点ニアリタル次第ハ既ニ説明シタル通ナリ

我方トシテハ条約改訂ニ応スル決心ヲ為シタル以上従前通リ不平等条約ヲ作ラムトスル意向ナキハ明カナルカ改訂商議ニ入ルニ先チ斯ノ如キ条件ヲ付スル事カ主義上承認シ難キ次第ナルニ依リ昨日モ御話シタル通リ従来ノ論争ヲ熄メ此ノ際ハ男ラシク切ヲ付ケル様致度シト述ヘタル処王ハ尚執拗ニ懇願シ別電第五七五号ノ如キ案文ヲ示シ右ハ最初ノ案ヨリ非常ニ字句ヲ緩和シタルモノナルニ付是非同意アリ度シトテ聞キ容レス種々論議ヲ為シタル後結局王ハ然ラハ昨日当方ニテ主張シタル日本側回答案末段ノ「臨時弁法ノ適用中止云々」ノ一節削除ニ付東京ヘ「レコメンド」シ呉レルナラハ本案ハ当官ヲ信頼シ条件トシテ提議セサルニ付我方ノ希望ヲ諒トセラレ単ニ本省ヘ御取次ノ上案文作成サレ度シト折レタリ就テハ此ノ点ニ付テモ御考慮ノ上本官心得迄ニ御回電アリ度シ

尚王ハ右交渉ノ際自分ハ秘密外交ニハ非サルニ依リ自分ノ条約改訂ニ対スル方針ヲ申上ケルモ可ナリト前提シ現行条約ハ不平等条約ト謂フモ全条項カ不平等ナルニアラス我等ノ不平等ノ条項ト認ムルハ次ノ五点ナリ即チ㈠関税不自主、㈡治外法権、㈢外国軍隊ノ駐屯（軍艦ヲ含ム）、㈣内河航行、㈤居留地、租界ナルカ而モ国民政府ハ以上五点ヲ即時解決スヘシト謂フニハ非ス漸次交渉ヲ進メ結局完全平等ナル条約ヲ締結シ度シト考ヘ居リ関税自主ト治外法権撤廃トヲ先ツ第一ニ解決セムトスルモノナリト語レリ

（別　電）

南　京　　発
本　省　10月22日前着

第*五七五号
矢田総領事ヨリ
日本政府ノ回答案（訳文）
…月…日付照会ヲ以テ（以下外交部長照会ノ原文全文挿入）御申越ノ趣閲悉セリ依テ茲ニ国民政府ノ新条約締結ニ対スル希望ニ副ハンカ為（ママ）（空）ヲ全権代表ニ任命シ商議ヲ

開始セシム以テ速ニ新条約ノ成立ヲ見ルニ至ラム事ヲ期ス右照覆ス

576　昭和3年10月(22)日　在中国堀臨時代理公使より田中外務大臣宛（電報）

条約改正問題に関する我が方第二次回答案には関税および通商事項の改正のみに限定することを明記すべき旨意見具申

北　京　　発
本　省　10月22日後着

第*一四六五号
在南京領事発閣下宛電報第五六八号（五七四文書別電一）ニ関シ
八月十四日付国民政府外交部覚書ニ対スル帝国政府ノ回答
矢田総領事私案中
「加之日支通商条約第二十六条ニハ予メ条約締結後ニ於ケル情勢ノ変化ヲ予想シ此ノ場合ニハ締約国ノ一方ハ他方ニ対シ条約改訂ノ提議ヲ為シ得ヘキ旨ヲ規定シ居ルニ依リ国民政府モ本条約ヲ以テ今日ノ情勢ニ適合セスト認ムルニ於テハ本条約所定ノ手続ニ準拠シ帝国政府ニ対シ改訂ノ提議ヲ為スヘキ事唯一無二ノ合理的手段ナリ」トアル第二十六条ニ規定セル改訂ハ単ニ税目及通商条款ニ限リ居リ此ノ点ハ当初北京政府ノ条約改訂申込ノ公文ニ対スル我回答中其ノ後ノ商議期間延長ノ交換公文ニ際シ絶ヘス我方ノ留保シ来レルモノナルカ矢田総領事ノ私案ハ此ノ点ヲ曖昧ナラシムル嫌アルヤニ見受ケラルル処今後条約改訂ノ商議不幸ニシテ円満ナル妥結ヲ見サル際ニ我国トシテハ本条項ヲ根拠トシテ現行条約ノ有効ヲ主張スルノ外無ク従テ支那ニ対スル善隣ノ好誼ニ基キ税目及通商条項以外事項ニ亘ル商議ニ応スル場合ニモ本条項ノ法理的解釈ハ将来ニ累ヲ貽ササル様明白ナル留保ヲ必要ノ都度繰リ返ス事肝要ト思考ス
就テハ本回答案モ右ノ趣旨ニ準拠スル様修正方同総領事ニ御訓令方希望ス

577　昭和3年10月23日　田中外務大臣より在南京岡本領事宛（電報）

わが方第二次回答案中には現行条約の有効性を明記すべき旨および平等原則は我が方より明確にすべきでない旨訓令

*第九九号　　本省　10月23日後発

貴電第五六七号（五七四文書）乃至第五七四号（五七五文書）ニ関シ

矢田総領事ヘ左ノ通リ

㈠岡本来電第五六八号（五七四文書別電一）我方回答案末段「新条約」ヨリ「確定セントスル」迄ハ単ニ辞句ノ問題ナレトモ可成ハ往電第二三一号（五七三文書）ノ通リ「新条約完全ニ成立スル迄ハ其ノ一方的ニ制定セル臨時弁法ノ適用ヲ差控ユルノ決意ヲ表示シ以テ現行条約ノ条項ニ依リ両国間ノ関係ヲ律セムトスル」ト改メ度ク何レニスルモ此点ハ我方案ノ骨子ニシテ之ヲ削除スルコトハ到底応諾シ難シ尤モ如何ニシテモ右ニテ妥結出来サル場合ハ「其ノ一方的ニ制定セル臨時弁法ノ適用ヲ差控ユルノ決意ヲ表示シ以テ」ナル文句ノミハ削除セラレ差支ナシ

尚我方正式回答案トシテハ貴電中㈠第二十六条ノ解釈㈡情勢変化論ニ就テハ相当字句ノ修正ヲ加ヘ度キ所存ナルニ付右先方ニ申入レ其ノ諒解ヲ求メ置カレタシ

㈡岡本来電第五六九号（五七四文書別電二）支那側回答案中平等及主権互尊ノ文句ハ先方ノ希望ヲ表示スルニ過キサルモノナルカ故ニ我方トシテハ強ヒテ争フノ要ナク其存置ヲ認メテ可ナルモ「貴国政府ノ本問題ニ関スル法理上ノ争執ハ之ヲ措テ論セラルヘシトノ主張ニ対シテハ」ナル辞句ニ付テハ我方回答案中ニ此ノ如キ主張ヲナシ居ラサルヲ以テ支那側ヲシテ之ヲ我方ノ主張トシテ引用セシムルハ妥当ナラス且本支那側回答案中ニハ我方ノ最初ノ原案即チ往電第二三一号ノ「貴翰ノ趣諒承セリ」トノ文字モナク臨時弁法ノ不適用乃至現行条約ノ存続ニ関シテハ直接ニモ間接ニモ言及シアラサルニ付法理上ノ争執云々ノ代リニ「明瞭ナルモ前記貴覚書ノ趣旨ノ存スル所ハ之ヲ諒トスルニ吝ナラサルヲ以テ茲ニ至誠ニ基キ協議ヲ開始スヘシ」ト改ムル様極力御交渉アリ度シ支那側カ右ニ同意セサル場合ハ岡本来電第五六九号中「既ニ閲悉セリ」ヲ「御来示ノ趣旨篤ト了承セリ」ト改メ「明瞭ナリ」ノ次ヲ左ノ如ク改メラレ度シ

「唯国民政府ハ本問題ニ関スル法理上ノ争執ハ之ヲ措キテ論セス至誠ニ基キ直ニ協議ヲ開始スルノ意願ヲ有スルヲ以テ茲ニ最短期間ニ」云々（以下岡本来電ノ通リ）

㈢岡本来電第五七五号（五七五文書別電）日本側回答案ハ岡本来電第五七四号貴見ノ通リ案文迄此際協定シ置ク必要ナシト認メラルルモ支那側ニ於テ頑強ニ希望スルニ於テハ成ルヘク支那側ノ希望ニ副フカ如キ趣旨ノ回答ヲ発スルコト位ハ約束シ置カレ差支ナシ

㈣条約改訂ヲ全然平等ノ原則ニ依テ行ハントスル支那側ノ希望ヲ此際我方ニ於テ受諾セルカ如キ感ヲ懐カシムルニ於テハ将来ノ条約改訂交渉上我方ニ不利ナルハ申ス迄モナキ義ナルノミナラス岡本来電第五七四号末段王ノ指摘セル不平等条項五点ノ如キモ王ノ方針ヲ表示シタルニ過キスシテ条約改正ノ方針ハ彼我ノ商議ニ入リテ初メテ双方ノ間ニ決定セラルヘキモノナルヲ以テ此際我方ニ於テ幾分ニテモ「コミット」シタルカ如キ感想ヲモ与ヘサル様御注意アリタシ為念付言ス

578　昭和3年10月27日　田中外務大臣より在中国堀臨時代理公使宛（電報）

英中関税条約交渉の進捗程度確認方訓令

第五四七号　本省　10月27日発

英支関税協定交渉ノ進捗程度ニ関スル英国側ノ説明ハ貴電第一四六七号ト在英代理大使発本大臣宛電報第二六八号トノ間ニ多少相違アルヤニモ認メラルル処貴官ハ英国公使ニ就キ右交渉進捗ノ程度更ニ御確メアリ度尚本件交渉ノ具体的内容ハ我方対支条約問題考究上必要ニ付左記ノ諸点ニ付成ルヘク詳細貴電第一三五一号情報交換ノ趣旨ニ依リ御確メノ上結果回電アリ度

一、英文交渉ノ難点ハ主トシテ「タリフ、アレンヂメント」ニアリト察セラルル処英国ノ要求品タル Cotton, Iron, Steel 及ビ Machine ノミニ就テ見ルニ之ヲ現行税率表ニ対照シ百余種以上ニ達スヘク而モ之カ対償トシテ自由関税主義国タル英国ノ支那側ニ与ヘ得ル処ハ主トシテ無税据置位ニ留マルヘシ右ニ対スル英国ノ対策如何並ニ支那側ノ要求スル品目如何

二、英国ノ要求スル税率ハ三国共同案（差等税率）ヨリ摘出スルモノト解シ居ルモ今後ノ交渉次第ニヨリテハ英国ハ或品目ニ就テハ差等税率ヨリ高キモノヲ協定スルコトモアルヘク右ハ将来我方ニ於テ互恵協定締結上差障リヲ生スル恐モアル処右税率ニ対スル英国側ノ意向如何

三、在英代理大使発本大臣宛第二四八号ニヨレハ英国ニ於テハ税率協定有効期間ハ十ヶ年トナシ度意向ナルカ右ニ対スル支那側ノ態度如何

本電上海南京ニ転電セリ

579　昭和3年10月27日　田中外務大臣より在上海矢田総領事宛（電報）

条約改正商議に関し先の訓令の趣旨による妥結成立の場合は我が方正式回答案を内示し内交渉を開始しても可なる旨訓令

別　電　十月二十七日付田中外務大臣より在上海矢田総領事宛第二九九号

条約改正問題に関する我が方正式回答案

付　記　十月二十七日付

通商条約改訂に関する通商局意見

本　省　10月27日後発

第*二九八号

南京宛往電第九九号(五七七文書)(一)ニ関シ我方正式回答案別電第二九九号ノ通ト致度キニ付南京宛往電第九九号ノ趣旨ニ依リ条約問題妥結ノ見込立チタル時ハ我方正式回答案トシテ先方ニ内示セラレ差支ナシ尚南京来電第五六七号(五七四文書)前段ニ依ルモ王ハ改訂商議ヲ急キ居ル模様ナル処我方トシテモ南京宛往電第九九号ニ依ル妥結成リ彼我ノ間ニ交渉開始ノ途拓カルルニ於テハ覚書ノ正式交換ヲ俟チテ正式交渉ニ入ルニ先チ別ニ何等カノ形式ニ於テ可成短期間内ニ内実交渉ヲ開始スルノ途ヲ考量スルモ可ナリト思考シ居ルニ付右ノ次第ハ王ニ対シ適当ニ御説示ノ上前記南京宛往電第九九号ノ通リ我方ノ主張ニ依ル妥結方精々尽力アリタシ

（別　電）

本　省　10月27日発（編注）

第*二九九号

日本帝国代理公使ハ日支通商航海条約ニ関スル昭和三年八月十四日付国民政府外交部長覚書ニ対シ帝国政府ノ訓令ニ基キ左記ノ通リ国民政府ニ回答スルノ光栄ヲ有ス

(一)国民政府ハ専ラ日支通商航海条約第二十六条支那文本文ヲ引用シテ該条項ノ意味ハ十年ノ期間満了後六個月内ニ若シ孰レカ一方ノ提議ニ依リ改訂ヲ声明シ且既ニ改訂商議ヲ実行シタル場合ハ該条約ハ再ヒ其ノ効力ヲ延長セサルノ趣旨ナリト為シ尚北京政府時代ニ於テ大正十五年十月二十日付公文ヲ以テ日支通商航海条約ノ改訂ヲ申出テ同時ニ条約ニ規定スル六ヶ月間ニ新条約完成セサル場合ニハ其ノ当然有シ得ヘキ権利ヲ留保スル旨ヲ声明シタルヲ以テ条約ノ効力延長ニ同意シ得サル旨ヲ主張スル処第二十七条ノ解釈ニ付テハ本年七月三十一日付日本公使館ノ覚書ニ於テ陳述シタルカ如キ該条項ノ日本文本文及英文本文ニ照シ十年ノ終リヨリ起算シ六ヶ月以内ニ改正商議ヲ完了セサル時ハ条約並ニ税目ハ当然十ヶ年間効力ヲ存続スヘキコト明白ナリトス帝国政府ハ斯ノ如キ明瞭ナル規定ニ対シ解釈ノ相違ヲ見ルヲ遺憾トスル次第ナルカ万一日本文本文支那文本文トノ間ニ解釈ヲ異ニスルコトアリトスルモ同条約第二十八条ニ於テ右ノ如キ場合ニハ英文本文ニ依リテ決裁スヘキ旨規定セラレ居ルカ故ニ帝国政府トシテハ飽迄其ノ主張ノ正当ナルコトヲ確信スルモノナリ将又右北京政府ノ提議ニ対シテハ帝国政府ハ大正十五年十一月十日付覚書ヲ以テ条約改訂ノ申出ヲ応諾スルト共ニ前記権利留保ニ対シテハ現行条約第二十六条ノ規定ニ依リ何等之ヲ容認スルヲ得サル旨回答シ其後数回ノ商議期間ノ延長ニ際シテモ常ニ此ノ見解ヲ明カニシ来リタル次第ハ七月三十一日付覚書ニ於テ指摘シ置キタル通リナリ従テ支那側ノ所謂権利留保ノ声明ハ何等条約ノ規定ヲ変更シ若ハ条約ノ効力ニ影響ヲ及ホシタルモノト認ムル能ハス

(二)国民政府ハ情勢変遷ノ原則ニ依リ条約ヲ廃止又ハ中止セシムルコトハ法理上国際慣例上絶対ニ可能ナリトシ日支通商航海条約ニ関シテハ一方ニ於テ其ノ根本的改訂ヲ提議スルト共ニ他方前記原則ニ基キ七月十九日付外交部照会中ニ記述ノ同条約失効ニ関スル主張ヲ支持スルモノノ如クナル処情勢変遷ノ原則タル国際間ニ於テ法規上ノ原則トシテ確定セルモノニ非ルノミナラス若シ右ノ如キ原則ヲ認ムトセハ殆ント総テノ条約ハ何時ニテモ締約国ノ一方的意思ニ依リ廃棄シ得ルコトトナリ延テ国際法ノ根底ニ動揺ヲ来スニ至ルヘク之ヲ先例ニ徴スルモ未タ嘗テ本原則ノ適用ヲ認メタルモノナシ且日支条約ニ於テ特ニ条約ノ効力ニ関スル条項ヲ設ケタルハ情勢ノ変遷ヲ予想スルト同時ニ情勢ノ変遷カ当然条約ヲ無効トスルモノニ

非サルコトヲ明カニシタルモノナリ

(二)之ヲ要スルニ帝国政府ハ日支通商航海条約廃棄問題ニ対スル従来ノ主張ヲ枉クル能ハサルコト前述ノ通ナルモ他方速ニ日支間現行通商航海条約ノ改訂ヲ為シ以テ両国間親善ヲ計ルノ本旨ニ副ハントスル国民政府ノ要望ニ対シテハ飽迄同情的考慮ヲ惜ムモノニ非ス殊ニ其ノ穏健ナル建設的大業ヲ一日モ速ニ完成シ内ニ和平外ニ日支国交敦厚ノ実ヲ挙ケンコトヲ希フ最モ切ナルモノアリ故ニ若シ国民政府ニ於テ日支両国友好善隣ノ関係ヲ顧慮シ新条約ノ完全ニ成立スル迄ハ其ノ一方的ニ制定セル臨時弁法ノ適用ヲ差控ユルノ決意ヲ表示シ以テ現行条約ノ条項ニ依リ両国ノ関係ヲ律セントスル誠意ヲ披瀝シ現行条約改訂ノ提議ヲ為スニ於テハ帝国政府ハ右国民政府ノ提議ニ応シ其ノ適当ト認ムル改訂ノ交渉ヲ開始スルコトニ付十分ナル誠意ト同情トヲ有スルコトヲ特ニ声明ス

編注 本電報は、原文書に日付の記載がないが、田中外務大臣より在上海矢田総領事宛第二九八号の別電であるので、第二九八号と同じ日付とした。

(付記)

通商条約改訂ニ関スル通商局意見※

(昭和三年十月二十七日)

一、通商条約ノ改訂ハ事項別漸進主義ニ依ルコト従テ支那側ノ希望スルカ如ク先ツ不平等条項ノ全般ニ亘リ主義上ノ暫定取極ヲ為スコトハ(イ)通商条約ノ範囲外ニ亘ル事項ヲ包含スルコト(註一、参照)及(ロ)実際的ナラサルコト(註二、参照)トノ理由ニ依リ之ニ反対スルコト

註一、王正廷ノ意見ニ依レハ不平等条項トハ(イ)関税自主(ロ)治外法権(ハ)外国軍隊(軍艦ヲ含ム)ノ駐屯(ニ)居留地租界(ホ)内河航行ノ五項ヲ指スモノナリトナシ居ル処右ノ中(ハ)ハ北清議定書ノ規定スル所又(ニ)ハ天津、上海、厦門、漢口、蘇州、杭州、重慶、沙市ヲ除ク外ハ何レモ通商条約以外ニ規定スル所ニ係リ従来ノ往復文書ニ現ハレタル帝国政府ノ条約改締ニ関スル支那側提議ヲ応諾セントスル事項ノ範囲外ナリ

註二、前記我方ノ応諾セムトスル範囲内ノ事項ト雖モ治外法権、内河航行等ノ問題ニ付テハ我方ノ態度ヲ即時決定スルコト困難ナルノミナラス之等問題ヲ一

挙ニ解決セントセハ支那側ノ即決之ヲ望ミ得サルヘシ

二、前項漸進主義トハ事項別ニ順次ニ交渉ヲ進メ交渉成立スル毎ニ議定書又ハ取極ノ形式ニ於テ之ヲ実施シ追テ成立スヘキ全体条約ノ一部ト為スコトヲ約スルモノナリ但シ先方ノ希望アルニ於テハ次ノ項ニ述スル範囲内事項ニ付テハ同時ニ商議ヲ開始スルモ差支ナキコト

註、暫定取極ノ形式ハ日本、仏領印度支那間「エタブリスマン」ニ関スル取極ノ形式ニ依ルコト

三、条約改訂トシテ付議スヘキ事項ノ範囲ハ大正十五年十一月我方回答案ノ範囲ニ限定シ大体ニ於テ現行通商条約及追加条約並ニ之等条約ノ付属文書ノ範囲ニ於テスルコト

四、条約案ノ内容トシテハ大体別紙甲号方針案ニ依ルコト(註一、参照)

但シ目下条約廃棄問題ノ行掛リモアリ一般的又ハ個別的取極又ハ条約中ニハ現行条約ノ有効タルコトヲ表示スルニ足ル適当ノ字句ヲ挿入スルコト(註二、参照)

註一、本条約案ハ相互平等ノ原則ニ依リ只日支間政治経済特殊関係ヲ顧慮シ充分ナル調整ヲ加ヘタルモノナリ

註二、現行条約ノ存続表示ノ為例ヘハ「本条約ニ依リ変更セラレ又ハ特ニ規定セラレサル事項ニ付テハ現行条約ニ依ル」等ノ一項ヲ設クルコト

五、現ニ交渉中ノ差等税率問題ハ仮令一方ニ於テ一般条約ノ商議ヲ開始シ就中関税条約締結ノ交渉ヲ進ムル場合ト雖之ヲ引離シテ進捗シ成ルヘク速ニ其ノ成立ヲ期スルコト

(註一参照)尤モ関税条約ノ締結迅速ニ成立スル場合ニハ先方ノ希望ニ依リ合流スルモ差支ナキコト

註一、若シ関税条約締結交渉ノ為本件差等税ヲ最初ヨリ之ニ合流セシムルノ方針ニ依ラムカ関税条約ハ自主権回復、協定税率等ノ関係モアリ速ニ成案ヲ得ル能ハサルヘク自然支那側ハ再ヒ一方的ニ暫定税実施ヲ持出ス等極メテ実際的ナラス

六、関税条約ハ別案乙号形式ニ依ルコト

580　昭和3年11月(2)日　在中国堀臨時代理公使より田中外務大臣宛（電報）

未だ治外法権撤廃問題の具体的交渉開始の時期に達していない旨の米国側の見解について

北京　発
本省　11月2日後着

第一五一七号

貴電第五五号ニ関シ

二日米国公使ヲ訪問シ治外法権問題ニ関シ支那カ一二ノ諸国ニ対シ正式ニ申込ム処アリタリトノ噂アルカ米国ハ何等右様ノ申込ミニ接セラレタル事無キヤト尋ネタル同公使ハ答ヘテ元来支那ハ条約改正ノ方針ニ於テ列国ヲ三種ニ分チ㈠未タ満期ニ達セサル諸国ニ付テハ単ニ米支関税協定ノ「ライン」ニ於テ治外法権ヲ含マサル条約締結ヲ申込ム方針ナリシ如ク瑞典、和蘭等ニ付テハ何等カ不可解ノ理由ニテ是等諸国ノ本国政府ニ対シテハ法権問題ヲモ包含セル申込ヲ為シタルモ右ハ要スルニ間違ニ過キサルモノノ如シ㈡既ニ期限到来セル各国ニ対シテハ日本ヲ除ク外大体ニ於テ全般ノ事項ニ亘リテ平等的通商条約締結ヲ申込ミタルモノノ如シ㈢既ニ或ル程度ノ平等条約ヲ締結セル国及既ニ或ル期間条約交渉ヲ為シ来リタル国例ヘハ米国日本ニ対シテハ相手ニ応シ種々区々ノ態度ニ出テ居ルモノノ如キ処米国ニ関シテハ華府ニ於テ七月ノ関税協定成立ノ前後ヨリ引続キ施肇基、伍朝枢、Frank Lee ノ三人カ相互ニ連繋ヲ保チツツ米国政府ニ対シテハ個々別々ニ治外法権撤廃ノ交渉ヲ持掛ケ居ル処米国政府トシテハ彼等ノ議論ニ対シテハ胸襟ヲ開キテ傾聴シツツアルモ常ニ未タ之カ具体的交渉ヲ開ク時機ニ非サル事ヲ明白ニ回答シツツアリ此ノ米国政府ノ態度ハ今以テ不変ノ筈ナリ自分（米国公使）ニ対シテハ関税協定成立直後王正廷ヨリ一般的平等条約締結ノ申込ミニ接シタル際世間周知ノ如ク自分ヨリ之ヲ拒絶シタル回答ヲ発シタル以後何等ノ交渉無シ是等ノ米支間ノ立入リタル事情ハ日本政府ヘ内報セラルルハ差支ナキモ外部ヘノ漏洩ハ御断リスト云ヘリ

581　昭和3年11月(2)日　在中国堀臨時代理公使より田中外務大臣宛（電報）

関税自主権承認と税率協定の交渉方針に関する英国公使の談話について

北京　発
本省　11月2日後着

第一五二二号

在英大使発閣下宛電報第二七二号（五六一文書）ニ関シ

英国公使ニ向ヒ英国ハ先ツ関税自主承認ノ条約ヲ調印シ是ニ次テ税率ノ協定ヲナス順序ナリヤト尋ネタルニ公使ハ或ハ左様ノコトニナルヤモ知レサレト現在ハ左様ノ方針ニ進ミ居ラス二十七日ノ訓令ト云フハ自分ノ請訓セル方針ヲ大体是認セルモノニシテ自分ノ方針ハ㈠自主承認ト協定税目ハ同時ニ調印スル方針ヲ充分努力シ其ノ努力カ到底酬ハレサルコト明カトナリタル際ニハ㈡七種税率中ノ主要品ノ税率ヲ一定年限間据置クコトニ協定ヲ試ミ是又不可能ノ場合ニハ㈢別個ノ方針例ヘハ協定税率ノ商議ヲ後日ニ廻ス等ノコトモアラントノ趣旨ナルカ右最後ノ場合ハ目下ノ処真面目ニ考ヘ居ラス専ラ第一方針ヲ努力シツツアル次第ナリト語レリ御参考迄

上海、南京ヘ転電セリ

582　昭和3年11月9日　田中外務大臣より在上海矢田総領事宛（電報）

速かに条約改正交渉に入るため先の訓令の趣旨で交渉方訓令

本省　11月9日後6時40分発

※特第七号

往電特第四号（四四六文書）ニ関シ

我方トシテハ此際可成速ニ条約商議ニ入ルノ基礎ヲ確立シ度キニ付条約問題ニ就テハ特ニ取急キ往電第二九八号（五七九文書）ノ趣旨ニ依リ交渉ヲ遂ケラレ結果回電アリ度シ

583　昭和3年11月(9)日　在上海矢田総領事より田中外務大臣宛（電報）

条約改正問題に関する日中相互交換回答文の修正につき請訓

上海　発
本省　11月9日後着

※第八一二号

往電第八〇四号ニ関シ

八日午後二時外交部長官邸ニ於テ王ト会見、条約問題ヨリ審議スルコトトシタルカ南京宛貴電第九九号（五七七文書）御回訓ノ趣旨一応披露シ置キタルコトハ往電第七六五号所報ノ通ナルニ依リ

一、先ツ本官ヨリ我方条約案ニ対スル王ノ決意ヲ求メタル処王ハ我方回答案中「新条約完全ニ成立スル迄ハ其ノ一方的ニ制定セル臨時弁法ノ適用ヲ差控ユルノ決意ヲ示シ以テ現行条約ノ条項ニ依リ両国ノ関係ヲ律セムトスル」ノ一句挿入方ハ如何ニシテモ同意シ難シ日本ハ右回答案前段ニ於テ充分支那側ノ主張ヲ駁シ更ニ後段ニ於テモ其ノ言ハントスル所ヲ完全ニ盡シ此ノ一句ナクトモ充分ナリトカ日本ハ最早議論ヲ止メ以テ本件ノ解決ヲ計ラムト提議シ乍ラ此ノ一句ニテ更ニ議論ノ種ヲ蒔カントスルニ非スヤトカ色々理屈ヲ並ヘタルモ本官ハ適宜之ニ応酬弁駁シタル上此ノ一句コソ我方回答案ノ骨子ニシテ若シ此ノ一句ヲ削除セハ全然骨抜トナルニ付削除セハ絶対ニ応シ難シト述ヘタルニ王ハ然ラハ支那側回答中ニモ右一句ハ承認シ難キモ貴覚書ノ趣旨ハ諒トスル旨ノ一句ヲ挿入シタシトテ案文ヲ作リ本官ニ示シタリ依テ本官ハ斯ノ如キハ一層議論ノ種ヲ蒔クモノナレハ絶対ニ不可ナリ案文ハ見ルモ無益ナリトテ突返シタル処王モ弱リ実ハ曩ニ貴官ト自分トノ間ニ一応纏メタル案文（南京発往電第五六七号（五七四文書）乃至第五七五号（五七五文書））ニ対シテスラ内部ニ強硬ナル反対アリタル程ナレハ愈々発表ノ場合ニハ輿論ノ手酷シキ攻撃ヲ覚悟シ居ル次第ナルニ今若シ此ノ一句ヲ挿入シ支那側回答ニ於テ之ニ応酬スル所ナキニ於テハ民衆ハ一読シテ支那側ハ条約有効論ヲ黙認シ日本ノ主張ニ無条件ニテ降服シタルノミナラス更ニ不平等条約ヲ締結スルモノト思ヒ込ムニ至ルヘシト愚痴ヲ並ヘタルニ依リ本官ハ右一句ハ「誠意ヲ披瀝シ」ニ懸リ居ルニ依リ一般ニ対シテハ貴政府ヨリ現行条約ノ有効ヲ認メヨト言フ趣旨ニ非ストノ意ヲ適宜説明シ得ヘク且支那側回答中ニハ「平等及主権互尊ヲ原則トシテ云々」ト明記シアルニ依リ不平等条約ヲ締結スルノ意ト解セラルル筈ナシト百方説得ニ努メタルニ王ハ然ラハ支那側回答中「最短期間」ナル字句ヲ例ヘハ「二個月」ト明カニ期限ヲ付スルコトトシタシ左スレハ日本ノ解釈ニ対スル誠意モ明カニナルヘシ右ハ日本側回答案中ニ単ニ「新条約完全ニ成立スル迄」

トアルニ依リ一般ハ何時新条約完全ニ成立スルヤ分ラス其ノ間二年モ三年モ現行条約ノ規定ヲ継続スルカ如キハ国民政府ノ大失態ナリトテ反対スルニ備ヘントスルモノナリト執拗ニ其ノ主張ヲ繰返シタルモ本官ハ右ハ前回会議ノ際説明シ尽シタル処ナリトテ期限ヲ定ムルノ不可ナル所以ヲ懇々説示シタルニ王ハ然ラハ「新条約完全ニ成立スル迄ハ臨時弁法ノ適用ヲ差控フルノ決意ヲ表示シ誠意ヲ披瀝シ云々」トシ「現行条約云々」ノ字句ヲ削除シタシト議論ヲ原ニ戻シタルニ依リ不可ナリト一蹴シタルニ

尚「現行条約云々」ノ代リニ「中日両国ノ関係ヲ確立スルノ誠意云々」トシテハ如何ト執拗ニ「現行条約云々」ノ辞句削除ノ主張ヲ固執シ居ルニ依リ此ノ一句ハ断シテ削除シ難シト強硬ニ撥付ケタル処王モ困リ果テ暫ク同席ノ周龍光等ト相談シタル後日本ノ主張余リ強硬ニテ何トモ致方無キニ依リ右一句ノ挿入ニハ同意スルモ支那側回答案中ニモ之ニ応シ「貴国駐華芳沢公使ニ致セル覚書ニ於テ詳晰ニ申述セルヲ以テ」ノ下ニ「該条約ノ効力問題ハ既ニ極メテ明瞭ニシテ贅述スルノ要ナキモ」ノ一句ヲ挿入セシメラレタシト申出テタリ本官ハ更ニ右一句ハ無キモ其ノ意ハ「極メテ明瞭」ナルノミナラス甚タ目障リニテ日本側ノ誤解ヲ起ス惧アルニ依リ撤回セラレタシト百方説得ニ努メタルモ王モ此ノ一句ナクハ国民ハ支那側カ日本ノ主張ヲ黙認シタリト解シ之カ為如何ナル事態発生スルヤモ知レス且日本ニ取リテハ特ニ不利益トナル字句トモ思ハレサルニ依リ枉ケテ同意アリタシト懇願シ双方押問答ヲ重ネ決定ヲ見サルニ依リ一応此ノ点ハ是ニテ打切リ置キタリ

二、依テ本官ハ支那回答案中ノ「貴国政府ノ本問題ニ関スル法理上ノ争執ハ之ヲ措イテ論セサルヘシ」ノ一句ハ我方回答案中ニ斯ノ如キ字句無キニ依リ右一句ニ代フルニ「明瞭ナルモ前記覚書ノ趣旨云々」ト改メタシト南京宛貴電第九八号（二）中段ノ点ヲ申出テタル処王ハ此ノ修正ハ支那側ヲシテ全然日本ノ主張ニ降服セシメムトスルモノニシテ絶対ニ同意シ難キ事ハ貴官モ御承知ナルヘシト述ヘタルニ依リ本官ハ単ニ「貴覚書ノ趣旨ノ存スル所ハ之ヲ諒トス」ト云フ丈ニテ日本ノ主張ニ降服シタリト解スルハ可笑シカラスヤト応酬シタルカ先方モ中々応諾

スル模様無キニ依リ然ラハ「国民政府ハ本問題ニ関スル法理上ノ争執ハ之ヲ措イテ論セス」トセハ可ナリヤト切出シタルニ王ハ法理上ノ争執ヲ止ムヘシト申出テタルハ日本側ナラスヤト理屈ヲ並ヘタルニ依リ本官ハ日支関係ノ改善ヲ思フカ故ニ論議ハ之レ位ニテ打切リ局面展開ヲ計ラムト日本側ヨリ好意アル申出ヲ為シタルニ貴下ヨリ斯ル曲説ヲ聞クハ心外ナリト窘メタル処王ハ然ラハ公平ニ「本問題ニ関スル法理上ノ争執ハ既ニ貴我ノ諒解ニ依リ措イテ之ヲ論セス国民政府ハ至誠ニ基キ直ニ協議云々」ト致度シト述ヘタルニ依リ夫レ迄ハ文脈上日本カ支那ノ主張ヲ黙認シタル様ニモ取ラルル惧アリ且日本文トシテハ甚タ拙ナルニ依リ承認シ難シト主張シタルモ王ハ字句ハ何トモ御相談致スヘシトテ是亦押問答トナリ決定ニ至ラス

三、更ニ本官ハ支那側回答案ノ冒頭「…月…日付覚書ヲ接受シ既ニ閲悉セリ」ノ一句ニ「…月…日付覚書ヲ接受シ御来示ノ趣了承セリ」ト改メタシトノ訓令ナリト披露シタルニ王ハ右回答ハ支那文ニテ差出スモノナレハ日本ノ公文体ニ翻訳ノ場合ハ右訓令ノ通リ訳シテ差支ナキニ非スヤト応シタルニ依リ支那語ニハ「篤ト」ニ当ル字ナキヤト反問シタルニ王ハ斯ル字句ニ拘泥スルハ其ノ意ヲ解スルニ苦シムモ「既ニ」ノ代リニ「篤ト」ニ当ル字ヲ挿入スルハ差支ナシ

又日本語ノ「了承」カ「to acknowledge」ノ意ナラハ支那語ノ「閲悉」ハ将ニ之ニ該当スルカ故ニ「閲悉」ヲ「了承」ト訳スルコトハ議論ナキ所ナリ尤モ此ノ上「御来示ノ趣」ナル字句ニ当ル支那語ヲ挿入スルコトハ何トナク日本政府ノ底意ニ疑惑ヲ抱カシムルニ依リ日本文ニスル場合適当ニ翻訳セラレタシト述ヘ本官ハ「御来示ノ趣」ニ当ル支那字句ヲ「サゼスト」シタルカ是亦時間ナカリシ為遂ニ決定ニ至ラス

就テハ右三点ニ関スル本省ノ御意向ヲモ承知シ置ク必要アルニ付本官心得迄ニ至急御回電相成様致度シ

584　昭和3年11月13日　田中外務大臣より在上海矢田総領事宛（電報）

条約改正問題に関する日中交換回答案につき中国側が臨時弁法適用差控えを表示すれば他

は妥協しても可なる旨訓令

別　電　十一月十三日付田中外務大臣より在上海矢田総領事宛特第一〇号

条約改正のための全権派遣に関する国民政府の第二次要請文についての我が方修正案

本　省　11月13日後発

特※第九号

貴電第八一二号（五八三文書）ニ関シ

往電第二九九号（五七九文書別電）㈢末段ハ我方ノ最重要視スル所ナルノミナラス仏支間ニハ已ニ商議継続中現状ヲ維持スルノ諒解成立シ居ルモノト思考セラルル次第ニテモアリ（安達大使来電第三八二号ノ㈠参照）此ノ点ハ南京宛往電第九九号（五七七文書）㈠前段申進ノ点ヲ除ク外絶対ニ削除スル能ハサルコト貴電ノ通リナリ又支那側回答案ニ付テハ貴電御来示ノ次第アルモ我方トシテハ出来得ル限リ南京宛往電第九九号二ノ中孰レカノ案ニ取極メ度キニ付今一応右貫徹方御尽力アリ度ク其ノ結果尚妥結困難ナル場合ハ南京来電第五六九号（五七四文書別電二）回答案ニ対シ貴電第八一二号一及二ノ支那側申出ノ修正及南京宛往電第九九号二前段ノ我方修正ヲ加ヘタル別電特第一〇号ノ如キ案ニ依ルカ又ハ右別電特第一〇号冒頭「接受シ」ノ次ヲ「御来示ノ趣旨篤ト閲悉セリ」ト改メ中段「前記覚書ノ趣旨ハ之ヲ諒トスルニ吝ナラサルノミナラス」ヲ削除シタル案ニ依リ妥結方精々御配意アリ度ク要スルニ我方トシテハ往電第二九九号㈢末段ノ申入ヲ支那側ニ於テ了承シ又ハ諒トスル趣旨ヲ表示スルニ於テハ他ノ辞句ニ就テハ或程度迄支那側ノ希望ヲ容認スルモ差支ナキ意向ナルニ付往電第二九八号末段ノ趣旨モ有之篤ト王ニ御説示ノ上文書ノ往復ハ前記支那側回答案ヲ以テ之ヲ打切ル様至急解決方御尽力アリ度シ

（別　電）

本　省　11月13日後発

特※第一〇号

…月…日付覚書ヲ接受シ既ニ閲悉セリ中日通商航海条約訳文ノ解釈ニ関スル国民政府ノ見解及一切ノ主張ハ既ニ八月十四日本部長カ貴国駐華芳沢公使ニ致セル覚書ニ於テ詳晰ニ申述セルヲ以テ該条約ノ効力問題ハ既ニ極メテ明瞭ニシテ贅述スルノ要ナシ殊ニ前記貴覚書ノ趣旨ノ存スル所ハ之

ヲ諒トスルニ吝ナラサルノミナラス本問題ニ関スル法理上ノ争執ハ既ニ貴我ノ諒解ニ依リ措テ之ヲ論セサルコトトシタルヲ以テ国民政府ハ至誠ニ基キ（以下南京来電第五六九号ノ通リ）（五七四文書別電ニ）

585　昭和3年11月(16)日　在中国堀臨時代理公使より田中外務大臣宛（電報）

英中関税条約交渉の難航と英国公使の対策案について

北京　発
本省　11月16日後着

第一五七三号（極秘扱）
往電[1]第一五七二号ニ関シ
十六日英国公使ヲ訪問シ英支交渉カ最近ニ陥リタル難局ニ関シ更ニ詳細ナル報道ヲ求メタル処同公使ハ左ノ如ク語レリ
抑々英国ノ腹案ハ関税自主条約自体中ニ互恵税率ヲ包含スルニアリシモ其ノ後其ノ成功困難ナルヲ観取シ同時ニ別種ノ取極ヲ以テ互恵税率ヲ協定スルコトニ改案シ其ノ内王正廷ヨリモ tariff arrangement of a simple nature（或ハ広汎ナラサル品目ノ意味）ナラハ差支ナシトノ主義上ノ同意ヲ得タルヲ以テ四種ノ品目ヲ提ケ商務官「フオツクス」ニ単ニ税目協定ノミノ権限ヲ授ケテ南下セシメタルニ予期ニ反シ王正廷ハ之カ相手トナルヘキ委員ヲ任命セス本件ハ宋子文カ能ク承知シ居ルニ付同人ニ折衝セラレタシトテ逃ケ依テ宋ニ当レハ宋ハ何事モ承知シ居ラス唯関税局長張福運ヲ差向ケタルニ依リ之ト交渉シタル処張ハ自分ノ主席タル関税委員会ノ議ニ懸ケタル末此ノ種ノ協定ハ到底応諾スルヲ得スト答ヘ更ニ再ヒ宋子文ニ相談シタルニ宋ハ本問題ハ之レ以上張福運ト交渉セラルルモ時日ノ空費ニ止マルヘシト述ヘ居ル由ナルカ
「フオツクス」カ其ノ後意見ヲ交換シタル結果十日（前電ニ十五日着ノ電報トセルハ聞誤リナリ）付ニテ到着セル電報ニ依レハ南京政府ヨリハ十五日迄ニ正式ノ回答ヲ英国側ニ致ス筈ナルモ支那側ノ態度ハ英国一国ニ互恵税率ヲ許スニ於テハ別国（特ニ日本ト指ササルモ事実上日本ノ意味ナリト同公使ハ説明セリ）ニモ之ヲ許スノ已ムヲ得サルニ至リ結局協定税率ニ束縛セラレ居ル現状ト大差ナク関税自主ヲ有名無実ナラシムヘキニ付之ヲ拒絶シ其ノ代リ一年間ハ「マイナー、モデフィケーション」（酒、煙草ニ対スル特別高率ヲ意味ス）ヲ除ク外ハ七種差等税率ヲ其ノ儘据置クコトヲ約束スヘシト云フニアルカ如シ其ノ後未タ正式回答ニ接セサルモ自分ハ右ノ内報ヲ基礎トシテ十四日左ノ四ノ対策ヲ政府ニ建議セリ
一、暫ク商議ヲ停止シ発布セラルヘキ新率カ英国商品ニ差別待遇ヲ為シ居ラサルヤ否ヤ真ノ「ナショナル、ユニフォーム、タリフ」ナリヤ等英国国策トノ抵触ノ有無ヲ点検シ其ノ上ニテ態度ヲ決定シ其ノ間ハ南京政府ノ承認ヲ留保ス
二、関税条約締結ヲ拒絶スルコト
之ハ第一案ヨリハ強硬ナル態度ニテ自分ハ支那ニハ強硬政策カ時トシテ有効ナルヲ信スルモ
如何ニ王正廷カ前言ヲ食ムテ税目協定ヲ拒絶シタリトスルモ英国政府数次ノ政策宣言ノ手前此ノ強硬政策カ支那ハ勿論英国ノ輿論ニ如何ナル反感ヲ以テ迎ヘラルヘキヤ想像ニ難カラス又英国ハ税率ノ高低ハ問題トセス税率ノ一定ニ依リ貿易ノ安定ヲ見レハ足ルトノ政策ノ手前此ノ強硬政策ハ果シテ之ヲ試ムル価値アリヤヲ疑ハサルヲ得ス
三、兎ニ角関税自主条約ヲ調印シ差等税率据置ノ声明ヲ支那側ニ発セシメ更ニ出来得ヘクハ将来ノ変更ハ六個月ノ予告ヲ以テセシムルコトノ約束ヲ取付クル事
四、関税自主条約ニ調印シ差等税率据置キノ声明ヲ発セシメ更ニ実施後六個月目ニ税目協定ノ商議開始ヲ約スルコト
本案ハ先ツ新税率ノ実際上ノ効果ヲ見極メタル上実行的ナル税率協定ヲ為スヲ得ルノ利益ト支那側ヲシテ英国ハ一方ニ関税自主ノ美名ヲ与ヘテ他方其ノ実質ヲ奪フモノナリトノ非難ヲ為サシムル口実ヲ与ヘサル利益アルモ一旦実施後税率協定ハ非常ナル困難アル事ヲ予想セサルヲ得ス
右(三)及(四)ノ場合ニハ日本カ殆ト支那側ニ約束セシメタル抵代税包含ノ主義ヲ認メシムル必要アルコトヲ付加シ置ケリ
孰レニセヨ正式回答到着ノ上正式ノ訓令ヲ仰キ(三)、(四)ノ孰レカニ依ルトナラハ自分ハ直ニ南下ノ筈ナリ
右ハ極秘ノ取扱ノ了解ニテ聞込ミタルモノナリ御参考迄

上海、南京ヘ転電セリ

586　昭和3年11月(28)日　在米国出淵大使より田中外務大臣宛（電報）

米国の照会を機に我が方の対中国方針を広く公表することが得策なる旨意見具申

ワシントン　発
本　省　11月28日前着

第三七四号*

往電第三六八号ニ関シ

本件回答振ニ付テハ目下折角御攻究中ノ事ト思考スル処今次米国側申出(編注)カ単ニ治外法権ノミナラス一般条約改訂問題ニ触レ居ルニ顧ミ此ノ機会ヲ利用シ我カ公正穏健ナル対支方針ヲ一括懇切ニ披瀝シ進ンテ国民政府ノ態度及決意如何ニ依リテハ我国ニ於テ列国ト協調シ或ル程度迄踏込ンテ本件商議ニ応スル覚悟ナルコトヲ然ルヘク敷衍セル回答ヲ発シ同時ニ右回答ヲ主ナル関係国ニモ送致シ更ニ適当ノ機会ヲ見計ヒ是ヲ公表シテ内外ニ我誠意ヲ闡明シ以テ輿論ヲ啓発スルト共ニ対支関係上我ニ有利ナル地歩ヲ確保スルコト得策ナルヘキヤト思考ス

編注　米国の照会は、Foreign Relations of the United States 1928 Vol.II 四三五―六頁参照。

587　昭和3年11月(30)日　在英国佐分利臨時代理大使より田中外務大臣宛（電報）

税率協定交渉は延期し一定の条件下での関税条約締結を決定した旨の英国極東部長の談話について

ロンドン　発
本　省　11月30日前着

第三一六号

二十九日極東部長ノ内話ニ依レハ英国政府ハ支那カ（一）差等税率ノ実施前二箇月ノ予告ヲ与フルコト（二）同税ヲ一年間据置クコト及（三）其ノ後税率ヲ修正スル場合ニハ実施前六箇月又ハ相当ノ予告ヲ与フルコトニ同意スルニ於テハ自主権ニ関スル条約ニ調印スルコトニ決定シ只右条約ノ調印ハ南京政府ノ承認ヲ伴フカ故ニ之ニ付「ドミニオン」ノ意見ヲ徴スル必要アルヲ以テ目下其ノ手続中ニテ在支公使ニ対シテハ来満中南下シ差支無キ旨今明日中ニ電訓セラルル筈ノ趣ナリ協定税率ハ如何ニスル積リナリヤトノ本官ノ問ニ対シ部長ハ在支英国当業者ハ此ノ際差等税率ノ一箇年据置ニテ事態ヲ安定シ極東商品売込ヲ促進センコトヲ希望シ税率協定問題ノ為交渉ヲ紛糾セシムル事ヲ好マサルニ付此ノ問題ハ後日ニ延ス訳ナリト答ヘタリ

右談話中部長ハ宛モ接手シタル一ノ来電ヲ取上ケ読聞カセタルカ右ニ依レハ王正廷ハ「フオツクス」商務官ニ対シ愈二箇月ノ予告ヲ以テ来年二月一日ヨリ差等税率ヲ実施スル旨言明シタル趣ニテ（本件）ハ支那カ交渉ノ終了ヲ待タスシテ斯ノ如キ決定ヲ為スハ如何ニモ礼ヲ欠ク遺ロニテ頗ル当惑セサルヲ得スト云ヘリ尚同電ニハ王正廷カ南（京）政府ハ此ノ際幾箇所カノ釐金局ヲ廃止スルコトヲ計画シ居リ最近開カルヘキ軍事当局ノ会談ニ諮ル積リナリト語レル旨ヲ記載シアリタリ

米、仏、独、伊、白、露、蘭、西、瑞典ヘ転電セリ

588　昭和3年12月4日　田中外務大臣より在米国出淵大使宛（電報）

英国政府の意向判明次第中国条約改正問題に関する対米回答提示および米国政府の意向確認方訓令

付　記一　日付電報番号不明、田中外務大臣より在英国佐分利臨時代理大使宛
中国条約改正方針につき日英協調を英国政府へ申入れ方訓令

二　日付不明
中国条約改正問題に関する米国側の意向打診に対する我が方回答案

本　省　12月4日発

第二六二号*

貴電第三六八号ニ関シ

本件ニ付テハ帝国政府ノ意見トシテ別電合第四九二号ノ通リ回答シ度キ処米国政府ハ英国政府ニモ同様申入ヲ為シタル趣ニ付日英対支協調ノ趣旨ニ鑑ミ予メ英国政府ニ本件内告方在英代理大使宛電報第二〇五(編注)号ノ通リ訓令シタルニ付テハ貴官ハ右我方内告ニ対スル英国側回答アリタル上ハ別電合第四九二号ノ通リ国務長官ニ回答セラレ同時ニ米国政

府ノ各問題ニ対スル態度方針御確メ回電アリ度シ

尚右回答末段支那側ノ態度ニ関スル点ハ最近ノ支那側対日態度ニ於テ特ニ其ノ感ヲ深クスルモノアル次第ニテ此等ノ事情ハ参考ノ為米国側ニモ内報シ置クコト適当ト思考スルニ付右回答交付ノ際口頭ヲ以テ左ノ趣旨然ルヘク付言シ置カレ度シ

之等最近ノ日支間諸懸案ノ交渉ニ見ルモ支那側ノ態度ニハ幾多首肯シ難キ所アリ曩ニ国民政府ハ日支通商航海条約ヲ廃棄スルノ態度ニ出テタル為日本政府ハ此支那側ノ態度ノ不法ヲ責ムルト同時ニ同条約改訂商議ニ応セサル方針ヲ執リシカ其後国民政府ハ其ノ不法ナル態度ヲ改メ直接間接ニ改訂商議ノ開始ヲ求メ来リタルニ依リ十月初旬日本政府ハ上海総領事ニ対シ右商議ニ入ルニ必要ナル予備的交渉ノ開始ヲ訓令シ同時ニ右交渉ニ際シ南京漢口両事件ノ解決並済南事件ノ予備交渉ヲ命シタリ依テ十月中旬上海総領事ハ国民政府王外交部長ト一週間ニ亘リテ意見ノ交換ヲ行ヒ条約問題及南京漢口両事件ニ付テハ大体意見ノ一致ヲ見ルニ至レリ済南事件ニ付テハ曩ニ七月十九日付ヲ以テ公表シタル日本政府ノ方針ニ対シ支那側ニ於テ全然反対ノ態度ヲ表示シタリシモ日本政府トシテハ可成本件ヲモ急速解決シ度シトテ努メテ支那側ノ希望ヲ容レ之レカ解決ヲ庶幾シ居リシニ十一月二十二日矢田、王ノ会見ニ於テ先ツ支那側ハ撤兵期日ノ明示ヲ迫リ日本側ニ於テ之ヲ明示セサレハ済南事件ノミナラス既ニ大体一致ヲ見タル諸案件ノ交渉ニモ応シ難シトノ予期セサル態度ニ出テタリ又差等税率関税ニ対シテハ日本政府ハ充分同情ヲ表シ之レカ施行ニ同意ヲ与フル為交渉ヲ続ケ既ニ双方ノ意見大イニ接近シ妥協ヲ見ムトスルニ至リシ処最後ノ瞬間ニ至リ支那側ハ交渉ノ冒頭ニ於テ承認セル抵代税ヲ差等税率中ニ包含セシムルコトノ口約ヲ翻シ抵代税ハ之レヲ差等税率中ニ含マシムルコトヲ得スト主張シ折角順調ニ進ミツツ有リタル本件交渉ヲ逆転セシムルニ至レリ

右ノ如キ支那側ノ態度ニ顧ミ今更ナカラ其ノ所言ニ信頼シテ問題ノ解決ヲ計ルコトハ甚タ困難ナリトノ感ヲ深クセリ

編　注　電報第二〇五号は、付記一に該当すると思われる。

（付　記一）

※（日付及び電報番号欠）

過般内田伯訪英ノ際申述ヘタル通リ帝国政府トシテハ支那

ニ対スル日英協調ニ最モ重キヲ置キ出先官憲ニモ其ノ主旨訓令シ具体的問題ニ付此ノ主旨ノ貫徹ニ努力セシメ居ルハ御承知ノ通リナリ今回在米大使発本大臣宛第三六八号米国政府ノ提言セル条約改正問題ニ付キテハ日本トシテ別電第（編注）　号ノ通リ同政府ニ回答スル積リナルカ右回答ニ先チ日英協調ノ主旨ニ基キ先ツ英国政府ニ内告シ何等気付ノ点アラハ其ノ表示ヲ得度所存ナリ帝国政府ニ於テハ別電米国ニ対スル回答案ノ主旨ニテ日英間協調出来得レハ米仏諸国ヲモ之レニ加エテ条約問題ニ対スル対支態度ヲ略一定シ支那ヲシテ列国ノ歩調ノ乱レ勝ナルヲ不当ニ利用セシムルコト無カラシムルヲ要スト信シ居ル次第ナリ尚右対米回答中ニハ言及セサリシモ支那ニ対シ種々ノ政治的約定等ヲ有スル日英両国トシテハ条約改正ニ関連スル対支交渉ニ当リテハ其ノ範囲ヲ差当リ通商条約上ノ問題又ハ直接之ニ関連スル問題ニ局限シ政治的約定又ハ慣行ニ基ク既得権益ニ亘ルヲ避クルノ方針ヲ以テ進ムコトニ諒解ヲ遂クルヲ要シ次テ対支関係ニ付日英ト略類似セル立場ニ在ル仏伊等ヲモ之ニ参加セシムルコト必要ナリト信ス尤モ居留地ノ問題ノ如キハ英国トシテハ昨年ノ対支覚書中ニ於テ一応「コムミット」シ居レル処ナルモ条約問題ニツキ略右ノ如キ方針ヲ執ルトスレハ対支交渉ニ際シ例ヘハ成ルヘク之レヲ後廻シトスル等自ラ方法モ無之キニアラサルヘシト思考ス

就テハ貴官ハ至急右ノ趣旨英国政府当局ニ申入レ回答振リ回電アリ度シ

編　注　別電（電報番号欠）は、付記二、に該当すると思われる。

（付　記二）

※（日付電報番号欠）

日本政府ハ米国政府カ支那トノ条約改訂問題ニ関シ日本政府ノ意見ヲ求メラレタルニ対シ先ツ以テ欣懐ノ意ヲ表セムトス

日本政府ハ支那ノ正当ナル国民的要望ノ貫徹ニ対シテハ能フ限リノ援助ヲ吝マサルノ方針ヲ持シ将来モ此ノ方針ニ依リテ進ムヘキコト勿論ナルモ之レト同時ニ支那カ漸ク追ヒ序ニ遁レテ其ノ国際関係ヲ調整セムコトヲ希望スルモノナリ

日本政府ハ国民政府トノ間ニ条約廃棄問題未タ解決セス従テ此ノ如キ問題無キ英米諸国トハ差当リ異ル立場ニ在リト

雖国民政府ニシテ現行日支条約ノ効力ヲ否認セサルノ態度ヲ示スニ於テハ改訂交渉ニ応スルノ用意アルコトハ予メ声明シタルカ如ク目下廃棄問題ノ解決ハ不幸ニシテ停頓ノ状態ニ在ルモ本問題モ無事解決シ遠カラス改訂交渉ニ入ルノ時期ニ立至ルヘキヲ確信ス

改訂商議ニ入ル場合日本政府ハ明治二十九年ノ日支通商航海条約第二十六条ニ定ムル事項即チ関税率及同条約ノ通商条款改訂ノ範囲ヲ限ラムトスルノ意思ヲ有セス日支通商条約ノ諸条項中前記事項以外ニ属スルモノノ改訂ニ付テモ之レカ商議改訂ヲ辞セサル方針ニシテ即チ関税、治外法権、内水航行、沿岸貿易権等順ヲ逐ヒテ解決ニ努力セムトスルモノナリ詳言スレハ

(a)関税ニ付テハ関税自主権ヲ認ムルコト但シ適当ノ条件ヲ付シ日支経済関係ノ現状ニ急激ノ変化ヲ来ササル様調整ヲ必要トス

(b)治外法権ニ付テハ大正十五年ノ治外法権委員会ノ勧告ヲ基礎トシテ其ノ撤廃ヲ協議スルコト

(c)内水航行及沿岸貿易権ハ成ルヘク相互主義ノ下ニ之ヲ認ムルコトトシテ妥結ノ途ヲ講スルコト

等ノ方針ノ下ニ前記諸問題ヲ討議シ成ルヘクハ意見ノ一致ヲ見タルモノヨリ部分的ニ取リ纏メ度キ意向ナリ

列国ハ支那ニ対スル同情的精神ヨリ曩ニ華府会議、北京ニ於ケル関税特別会議及治外法権委員会等ニ於テ支那ノ国民的要望ノ実現ニ努力シ日本政府モ此等ノ機会ニ於テ常ニ既定ノ方針ニ依リ出来得ル限リノ協定ヲ惜マサリシ次第ニシテ条約改正ニ当リテモ此ノ精神ニ基キテ目的ノ達成ヲ期セムトスルモノナルコト前述ノ如ク只支那側カ過去幾多ノ機会ニ於テ列国ニ約束シタル事項ニ関シテハ寧ロ其ノ履行ヲ閑却シ単ニ求ムルトコロニノミ是レ急ナルノ傾アル事ハ支那ニ重大ナル関係ヲ有スル列国ノ遺憾乍ラ認メサルヲ得サル所ナルヘク日本政府トシテハ此ノ点ニ顧ミ支那ノ国民的要望ノ達成ニ協力スルニ当リ支那カ国際関係ノ調整ニ付現実ニ即スルコトヲ忘レサラムコトヲ希望シテ已マス右ハ支那ノ堅実ナル発達ヲ希望スル米国政府ノ賛認ヲ得ルニ難カラサル処ナルヘシト信ス

589 昭和3年12月18日 在南京岡本領事より田中外務大臣宛（電報）

中国との関税条約交渉経過に関する英国公使の談話について

南京　12月18日後発
本省　12月19日前着

第七五八号（至急）

本[1]十八日朝前日ノ約ニ依リ英国公使「ランプソン」ヲ往訪セル処同公使ハ矢田、宋子文交渉ニ付問フト共ニ英支交渉ニ関シ大要左ノ通語レリ

(一)今回南下ノ用向ハ勿論関税自主問題（ママ）スルノミニシテ治外法権、威海衛、英租界其ノ他ノ問題ニ付テハ王正廷ヨリ申出アリタルモ体良ク拒絶シ一切論議セサル事トセリ

(二)新税率据置期間ハ一個年ニ決シタルカ更ニ変更ノ場合二個月ノ予告ヲ為ス事ニ関シテハ未タ承諾スルニ至ラス

(三)新税率実施後釐金、沿岸貿易税、「トランシット、タックス」等一切ノ「イレギュラー、タックス」ハ廃止スヘキ旨ノ文書ヲ取付クルコト（声明ニ非ス）尤モ廃止ノ時期明示方ヲ要求シタルモ支那側ニ於テ淡白ニ財政ノ実状ヲ述ヘテ不可能ナル旨ヲ申出テタルヲ以テ其ノ誠意ニ免シ単ニ「出来得ル限リ速ニ廃止ス」ト記載スルノミニテ満足スル事トセリ

(四)[2]最恵国条款ハ大体ニ於テ人及物何レニ対シテモ之ヲ獲得シタル処王正廷ハ英国ノ植民地ニ対シテハ物ニハ之ヲ認ムヘキモ人ニ付テハ相互的ニ支那人ヲモ待遇ストノ留保ヲ申出タル処自分トシテハ各「ネーション」ニ対シ差別的取極ヲ為スヲ得ス而シテ自分今回ノ使命ハ英国及北方（北アイル）島嶼（ランド）ヲ代表シテ調印スルニ在リ加奈陀、豪州等「ドミニヨン」ニ付テハ各其ノ政府ノ承認ヲ待タサルヘカラス若シモ右承認ヲ待ツトセハ急ノ間ニ合ハサルヲ以テ前述「レザーベーション」撤回方ヲ要求シ為ニ未タ調印ノ運ニ至ラス昨十七日国民政府会議ハ恐ラク右ニ関スル討議ヲ為シタル事ナルヘシ

何レニスルモ明後木曜日ニハ再ヒ津浦線ニ依リ北上ノ事トナリ居レリ

(五)信任状ハ実ハ当初調印ト共ニ捧呈ノ積ナリシカ英帝御不例ノ報ニ接シタルヲ以テ若シ万一ノ事アリテハト存シ目下本国政府ノ訓令ヲ待チ居ル次第ナルカ最近聊カ御快方ノ様ニモ承知スルニ付或ハ今回右信任状捧呈ノ事トナルヤモ知レス

尤[3]モ関税取極ハ信任状ノ問題ト関係無ク交渉成立次第調印スル次第ナルカ愈々信任状捧呈ノ事トモナラハ現国民政府ヲ正式ニ承認スル事トナルニ付本件ハ極メテ重大性ヲ有ス

(六)日支間関税取極ニ関シ自分ヨリ宋子文ニ対シ好意的忠告ヲ為スヘキ旨堀代理公使ニ約束シ居レル処其ノ後ノ経過ヲ承知セサルヲ以テ実ハ昨日在北京「ニユートン」ニ打電シ其ノ報告ヲ求メタル次第ナルカ貴官ヨリ承知スルヲ得ハ幸ナリト言ヘルニ付予テ矢田総領事ヘ御訓令ノ次第モアルニ付上海来電ニ基キ大体既ニ纏マリタリト告ケタル処「ラ」ハ然ラハ自分ヨリ何等申出ノ要無キニ非スヤト反問セル処未タ完全ニ成立セル次第ニモ非ス且日英協調ヲ如実ニ示ス上ヨリスルモ必要ナルニ付適当ノ機会ニ口添セラルルハ有効ナルヘシト告ケ「ラ」ノ要求ニ依リ午後更ニ詳細矢田宋子文交渉ノ経過ヲ御話ス可シトテ一応辞去セリ

(七)[4]午後六時再ヒ往訪セル処恰モ宋子文来訪シ居リタルカ少時シテ宋子文退去シタルヲ以テ「ラ」ト面会シ（宋ニハ本官往訪ノ事ヲ知ラシメサル様注意セリ）本官ハ先ツ宋ヨリ日支交渉ニ付何等聞ク処アリシヤト尋ネタル処「ラ」ハ否宋ノ語レル処ハ自分北京出発ノ際堀氏ヨリ承知セル以上ニ出テスト答ヘタルニ付前記上海宛御訓令ノ次第モアリ上海発貴大臣宛電報第九六二号ノ案文ヲ読ミ聞カセタル処「ラ」ハ非常ニ喜ヒ本官ニ挨拶ノ上記帳シタル後「至極結構ナリ我英国側モ之ニ均霑スルヲ得ヘシ尤モ右ニ関シテハ宋ヨリモ大体ノ話アリタルニ付其ノ節モ宋ニ対シ日本トノ取極ニハ英国モ参加シ得ル訳ナリト笑話ヲ為シタル次第ナリ茲ニ特ニ堀氏ニ御伝ヘ方願度シ」トテ「本夕宋ニ面会ノ際自分ハ本国政府ヨリ特ニ命セラレタル為此ノ言ヲ為ス次第ナリト前提シ目下貴下ノ手ニ於テ進行中ナル日支関税協定ニ付テハ結局日本ノ承認ナケレハ事実上実行不可能ナル処英国トシテハ支那ノ利益ノ為ニモ亦本件新税率ヲ一般的ナラシムル為ニモ貴下カ努メテ日本側ノ要求ニ聴従サルルヲ得策ナリト信スルモノナリ即チ我英国ト貴国トノ今次ノ協定ニ於テモ日本トノ交渉円満解決ヲ最モ重要視スルモノナリト述ヘテ其ノ注意ヲ喚起シ置キタリ之堀氏トノ約ニ基クモノナルニ付其ノ点堀氏ニ伝ヘラレタシ」云々ト述ヘタリ

(八)次テ前記(二)ニ関シ二個月ノ予告云々ニ関シテハ本夕迄ニ成立スヘシト考ヘ居レル次第ナルカ明十九日最後ノ会見ニ於テ確メサル限リ明言シ得ス蓋シ前言ヲ食ムハ其ノ常手段ナレハナリト述ヘ

(九)本官ヨリ最恵国条款ニ関シ支那側ニ於テ其ノ主張ヲ枉ケサルニ於テハ調印セスシテ引揚ケラルル意思ナリヤト念ヲ押シタル処「否政府ノ訓令ヲ待チ或ハ此ノ儘当地ニ滞在スルヤモ計リ難シ総テハ明日ノ発展ニ待タサルヘカラス」ト笑ヒ居リタリ

以上彼我談話ノ内容ハ外部特ニ支那側ニ漏洩セサル様言合セタルハ言ヲ待タス

北京、上海ヘ転電セリ

590　昭和3年12月(20)日　在南京岡本領事より田中外務大臣宛（電報）

英中関税条約調印および英国公使国書奉呈について

南京　発
本省　12月20日後着

第七六三号

往電第七五八号(五八九文書)ニ関シ

英支条約ハ愈調印サレ英国公使ハ本二十日午前十時英総領事、海軍司令官等多数館員ヲ従ヘ国民政府会議庁ニ於テ王正廷、唐悦良、古應芬等列席ノ下ニ蔣介石ニ国書ヲ呈シタリ

尚下関碇泊中ノ英国軍艦ハ礼砲ヲ放チ支那軍艦之ニ応答シ公使通過ノ沿道ハ軍警多数ヲ配シ敬意ヲ表スルト共ニ警戒ヲ厳重ニセリ不取敢

尚昨十九日夜周龍光等外交部員ノ招宴ニ列シタル際周ハ和蘭、葡萄牙トノ関税条約成立シ仏国トモ近ク調印ノ運ヒトナルヘク斯クテ西班牙ヲ除ク外総テノ国ト条約成立スル次第ナル処日本関係専門ノ自分ニ於テ何等為ス処無ク甚タ面目ヲ失セリト愚痴ヲ述ヘ「特ニ英国ハ愈正式承認ヲ与ヘタルコトトテ特筆大書スヘキ出来事ナリ」ト付言セリ

北京ヨリ奉天ヘ、上海ヨリ広東ヘ転電ヲ請フ

北京、上海、天津、青島、済南、漢口、福州ヘ転電セリ

591　昭和3年12月(20)日　在英国佐分利臨時代理大使より田中外務大臣宛（電報）

対中国協調は北京における公使相互の協議に委ねるべき旨のウェルズレーの談話について

ロンドン　発
本　省　12月20日後着

第*三六一号

貴電第二二二号ニ関シ

十八日「ウェルスレー」ニ会見御来示ノ通リ過日本官口頭陳述要領トシテ貴電第二二三号英文ヲ手交シ本日特ニ貴官ニ面会シタルハ過日会談ノ行懸アルノミナラス更ニ其ノ際ノ説明ヲ補足シ貴官ニ於テ帝国政府申出ノ趣旨ヲ充分ニ諒得セラレタル上外相ニ取次カレンコトヲ希望スルカ為ナリト前置シテ貴電政治的約定ニ基ク権益ノ説明ヲ為シタルニ「ウ」ハ書取リタル上七日御話ノ次第ハ之ヲ外相ニ通シ又其ノ節自分ノ述ヘタル処ヲ報告シタルニ外相ハ之ヲ承認セラレタリ就テハ今日ノ文書モ直ニ外相ニ手交スヘキモ差当リ自分ノ思付キタルコトハ英国政府トシテハ日本ノ対米回答案其ノモノニ対スル賛否ノ意見ヲ述フルコトハ適当ニ非ス唯日本政府ノ有セラルル政策ニ付意見ヲ述ヘ得ルニ止マルヘシト思考スト云ヘルニ付本官ハ帝国政府ノ趣旨モ素ヨリ案文中ニ包含セラルル政策ニ対スル英国政府ノ意向ヲ承知シ度シト云フニ外ナラスト答ヘタリ

次ニ「ウ」ハ協調ノ主義ニ付テハ外相モ全然同感ナルカ其ノ実行方法ニ付テハ外相ニ於テモ北京ニ於ケル公使相互ノ接触ニ依ルヲ適当トストノ意見ナル旨ヲ述ヘタル上日本政府申出ノ如ク一定ノ政策ニ付日英間ノ意見一致シタル上他国ヲ引入ルル為是等諸国ニ照会スルト仮定センカ

或国ハ甲ノ点ニ賛成スルモ乙ノ点ニ反対シ他ノ国ハ乙ニ賛成シテ甲ニ反対スト云フカ如ク総テノ点ニ付各国間意見ノ一致ヲ見ルコトハ困難ナルヘク而モ是等政策ハ極メテ広汎ノ事項ニ亘リ且ツ支那ノ時局ハ絶エス変化スルヲ以テ各国間ノ往復ハ際限ナク行ハレテ収拾ノ機ナカルヘシ結局北京ニ於テ公使間ノ協議ニ委ヌルノ外ナキ次第ナリト云ヘリ依テ本官ハ色々御意見モ有之ヘキモ貴官御希望ノ通帝国政府申出ノ趣旨ヲ今回文書ニ認メタルニ付テハ右ニ付英国政府ニ於テ篤ト攻究セラレムコトヲ希望スル旨ヲ述ヘテ当日ノ会見ヲ終リタリ曩ニ内田全権ヨリ閣下ヘ報告（本官発閣下宛電報第二〇九号（八〇四文書））ノ如ク実務ヲ掌ル外務当局ハ動モスレハ協調ニ対シ熱心ヲ欠ク嫌ナキニ非サル事情及対支外交ニ関シ外務省ニ於テ「ウ」カ中心トナリ居ル事実ニ鑑ミ先ツ以テ同氏ヲシテ我方ノ趣旨ヲ充分諒解セシムルヲ必要ト認メ之ト会見シタル次第ナルカ其結果ハ前記ノ通ニシテ満足ト云フヲ得ス従テ更ニ本十九日「ウ」ヲ往訪シ昨日談話ノ引続キトシテ種々雑談ヲ交ヘタル後本官ヨリ北京ニ於テ公使間ノ接触ニ依リ協調ヲ実行スルコト最良ノ方法ナリトスル意見ハ屢々承リタルカ其ノ事ハ暫ク別トシ今回帝国政府カ対支条約問題交渉ニ関スル方針ヲ定メ先ツ以テ之ニ対スル英国政府ノ意向ヲ問合セ来リタルニ付テハ英国政府ニ於テ之ニ対シ隔意ナキ意見ヲ表示セラルルコト緊要ナリト思考スル旨極メテ友好的ニ繰返シ置キタルニ「ウ」ハ昨日ノ要領記ハ直ニ外相ニ差出シ又省内ニ於テ既ニ右ニ対スル研究ニ取掛リタルニ付纏リ次第御返事スヘシト云ヘリ

592　昭和3年12月(21)日　在米国出淵大使より田中外務大臣宛（電報）

中国条約改正問題に関する米国の照会に対する各国の回答について

ワシントン　発
本　省　12月21日後着

第*三九五号

往電第三六八号ニ関シ

二十日国務長官ノ求メニ依リ往訪セル処長官ハ十一月二十二日付口上書ニ対スル関係各国政府ノ回答略出揃ヒタルカ日本ヨリモ成ルヘク速ニ回答ヲ得ハ幸ナリト述ヘタルニ付本使ハ我方ニテハ御大礼ノ為取込ミ自然手間取リ居ルモノト思考スル処貴意ノ次第ハ早速東京ヘ電報スヘシト答ヘ置キタリ其ノ際長官ハ各国回答ノ内容ニ付テハ「ジョンソン」次官補ヨリ委細御話致サスヘシト言ヘルニ付同日午後「ジョ」ニ面会同官ノ述ヘタル各国回答要旨左ノ通

英国

(一)支那ハ此ノ問題ニ付国際会議ヲ開催スル事ニ同意セサルヘシト思考セラル

(二)本件ニ関スル英国ノ態度ハ昨年一月末ノ対支覚書ニ依リ明瞭ニシテ英国ハ既ニ右覚書記載事項中実行シタルモノアル処近キ将来ニハ右覚書以上ニハ出ツル意向ナシ

白耳義及伊国
夫々十一月下旬南京ニ於テ調印セル条約ノ通リナリ
和蘭
法権委員会ノ勧告ニ従ヒ措置スルコト然ルヘキモ右ニ付テハ慎重ナル注意ヲ要ス
仏国
仏国ヨリハ未タ回答ナシ
依テ本使ヨリ英国ノ回答ハ何時接到セルヤト尋ネタル処「ジョンソン」ハ関係書類ヲ取調ヘタル上十一月二十二日国務長官カ英国大使ニ対シ口上書ヲ手交セシ際同大使ヨリ口頭ヲ以テ前述趣旨ノコトヲ陳述セルニ付長官ハ為念書面ヲ以テ差出サレ度シト申述ヘタル処翌二十三日該書面接到セリト答ヘタリ依テ本使ハ米国側ニテハ右ヲ以テ英国側ノ回答ト認ムル次第ナリヤト尋ネタルニ「ジョ」ハ英国側ヨリ之以上ノ返事来ルヘシトハ思考セスト述ヘタリ
尚右談話ノ際英支非公式会談ノ経過ヲ尋ネタルニ「ジョ」ハ伍朝枢ノ方、施公使ヨリモ南京政府ト近シキ関係ニアル故目下同人ト「ホーンベック」トノ間ニ話合ヲ為シ居レルカ伍ハ支那最近ノ事情ニ通セサル為ナルヤニ要領ヲ得ス従テ話合ハ一向ニ進捗セスト述ヘ居リタリ

593　昭和3年12月24日　田中外務大臣より在英国佐分利臨時代理大使宛（電報）

中国条約改正問題に関する対米回答について
英国政府へ申入れ方訓令

本省　12月24日発

第※二三二号
貴電第三六一号（五九一文書）ニ関シ
「ウェルスレー」ノ応答振ヨリ察スルモ急速ニ英国政府ノ回答ヲ得ルコト困難ナルヤト思考セラルル処他方在米大使来電第三九五号（五九一文書）ノ通リ他国側大部分回答済ノ今日我回答ヲ是以上延引スルハ面白カラサルニ付右御含ノ上英国当局ニ対シ各国ヨリハ大部分回答済ナル模様ニテ帝国政府トシテモ余リ延引スルコト能ハサルニ依リ差当リテ英国政府ノ意見開示ヲ得ヘカラサルニ於テハ過般内示案ニ依リ此際一応米国ニ回答スルコトト致度ニ付不悪諒察セラレ度旨可然申入レラレタシ尚右申入ノ上当方ト共ニ在米大使ヘモ電報アリタシ

594　昭和3年12月24日　田中外務大臣より在米国出淵大使宛（電報）

在英代理大使より電報あり次第中国条約改正問題に関する回答文米国政府へ提出方訓令

本省　12月24日発

第※二九一号
貴電第三九五号（五九一文書）ニ関シ
在英代理大使ニ対シ別電第二三二号（五九三文書）ノ通リ訓令シタルニ付テハ同代理大使ヨリ電報アリ次第往電第二六二号（五八八文書）及合第四九二号ノ通リ米国政府ニ回答方措置セラレ度シ

595　昭和3年12月(25)日　在南京岡本領事より田中外務大臣宛（電報）

英中関税条約および付属文書の内容について

南京　発
本省　12月25日前着

第七七二号
往電第七六五号ニ関シ
本月二十日調印セラレタル英支関税条約及付属文書当館諜報者ヨリ入手セル処関税条約第一条ニ於テハ支那ノ完全ナル関税自主ノ原則ヲ認メ第二条ニ於テハ両締約国人民カ支那又ハ本条約ヲ適用スヘキ英国各領土内ニ輸入シ又ハ輸出スル貨物ニ対シ納付スル関税内地税其ノ他ノ税金ハ各本国又ハ其ノ他ノ各国人民カ同一産地ヨリ輸送スル貨物ニ対シ納付スル税額ト異リ又ハ之ヨリ高額ナルコトヲ得スト為シ第三条ニ於テハ英国ハ支那ノ噸税賦課権ヲ制限スル現行条約中ノ各条項ヲ一律ニ取消スコトヲ承認スルト共ニ両締約国船舶ハ噸税ニ関シ相互ニ他ノ何レノ国ノ船舶ヨリモ不利益ナル待遇ヲ受ケサル旨規定シアリ
又(2)付属文書ハ英国公使ト外交部長トノ交換公文ノ形式ニテ㈠ニ於テハ条約ヲ適用スヘキ英国領土内ニ於テ産出又ハ製造シ並ニ前記英国領土ニ輸入スル貨物ハ何処ヨリ輸入スル場合ト雖輸入税、内地税、通過税及之ニ関スル事項ニ付他ノ何レノ国ノ産出又ハ製造ニ係ル貨物ヨリ不利益ナル待遇ヲ受ケサルコトヲ記述シ㈡ニ於テハ之ト反対ノ場合ヲ記載セルモノナリ
右ハ前記往電ノ通英国公使北京ニ帰著シ或ハ既ニ在支公使

ニ提示済ナルヤモ知レサルモ為念電報ス

北京、上海ヘ転電セリ

596　昭和3年12月(26)日　在中国堀臨時代理公使より田中外務大臣宛（電報）

英中関税条約および付属文書英国公使より送付について

別　電　十二月二十六日着在中国堀臨時代理公使より田中外務大臣宛第一七三八号

英中関税条約について

北　京　発

本　省　12月26日前着

第一七三七号

往電第一七三一号ニ関シ

二十五日英国公使ヨリ二十日東京ニ於テ同公使及王正廷ノ間ニ調印セラレタル英支関税自主条約及四個ノ交換公文ヨリナル付属書写ヲ送付越セルカ（内容概略別電第一七三八号乃至第一七四三号ノ通）右ハ二十八日発表セラルル由ニ付夫レ迄ハ極秘扱ニセラレタシ

別電ト共ニ上海、南京ニ転電セリ

（別　電）

北　京　発

本　省　12月26日後着

第一七三八号

関税自主条約ハ四個条ヨリ成リ第一条乃至第三条左ノ通

Article 1.

It is agreed that all provisions of the existing treaties between the High Contracting Parties which limit in any way the right of China to settle her national customs tariff in such way as she may think fit are hereby abrogated, and that the principle of complete national tariff autonomy shall apply.

Article 2.

The Nationals of either of the High Contracting Parties shall not be compelled under any pretext whatsoever to pay in China and the territories of His Britannic Majesty to which the present treaty applies respec-

tively any duties, internal charges or taxes upon goods imported or exported by the other than or higher than those paid on goods of the same origin by Chinese and British nationals respectively, or by nationals of any other foreign country.

Article 3.

His Britannic Majesty agrees to the abrogation of all provisions of the existing treaties between the High Contracting Parties which limit the right of China to impose tonnage dues at such rates as she may think fit.

In regard to tonnage dues and all matters connected therewith, British ships in China and Chinese ships in those territories of His Britannic Majesty to which the present treaty applies, shall receive treatment not less favourable than that accorded to the ships of any other foreign country.

第四条ニ於テ本条約ハ倫敦ニ於テ批准交換セラルヘク批准交換終了ノ旨ヲ相互ニ通知スル日ヨリ効力ヲ発ス又英文ノ(両カ)意味異ル時ハ英文ニ依ル旨ヲ規定ス

上海、南京ヘ転電セリ

597　昭和3年12月(28)日　在英国佐分利臨時代理大使より田中外務大臣宛（電報）

中国条約改正問題に関する我が方照会に対する英国側回答について

別　電　十二月二十八日着在英国佐分利臨時代理大使より田中外務大臣宛第三七七号

右英国政府回答覚書

ロンドン　発

本　省　12月28日後着

第*三七六号

貴電第二三六号ニ関シ

二十七日「ウエルズレー」ニ会見貴電第二三二(五九三文書)号御来訓ノ趣旨ヲ申入レタル処「ウ」ハ之ヲ承知シタル上右ニ付テハ自分ノ方モ責任ヲ感スル次第ナルカ恰モ「クリスマス」ニ際会シタルニ付悪カラス諒承セラレタシト挨拶シタル上実ハ今日漸ク回答出来上リタル次第ナリトテ別電第三七七号覚書ヲ手交シ本官之ヲ一読スルヲ待チ右日本ノ覚書ニ包含

セラレタル問題ノ全部ニ対スル回答トハ成リ居ラサルモ差当リ英国政府カ言ヒ得ルコトハ之丈ケナリ而シテ日本覚書ハ北京ニ移牒シ「ランプソン」公使ヲシテ研究セシムルニ付本覚書ニ包含セサル諸点ニ付テハ同公使ニ於テ芳沢公使ト密接ノ連絡ヲ保ツコトトスヘキニ付左様御承知アリタシト述ヘ次ニ日本覚書ニ記載セラレタル他ノ諸国トノ関係ニ付テモ当地ニ於テ之ヲ処理セムトスルトキハ過日モ申セシ如ク不便多キヲ以テ同シク北京ニ於テ処理スルヲ適当ト認ムト付言セリ

之ニ対シ本官ハ然ラハ回答覚書ニ記載セラレサル事項ニ付テハ全部北京ヲ通シテ相談スト云フ御趣旨ナリヤト為念問ヒタルニ「ウ」ハ其ノ趣旨ナリト答ヘタリ

本官ハ更ニ覚書ニ依レハ英国政府ハ在米英国大使ニ対シ書面回答ヲ米国政府ニ提出スヘキ旨十二月十一日付ヲ以テ訓令セラレタル趣ノ処右ニ基キ大使ハ如何ナル措置ヲ為シタルヤト質問セルニ「ウ」ハ右ハ書面ニ依ル訓令ナルヲ以テ其ノ到着後大使ニ於テ如何ニ執行シタルカニ付テハ未タ報告ニ接セスト答ヘタリ仍テ本官ハ右ハ御尋ヲ為シタル理由ハ米国国務省側ノ話ニ依レハ英国大使ハ十一月二十二日国務長官ヨリ口上書ヲ手交セル際口頭ヲ以テ意見ヲ陳述セラレ長官ノ求メニ応シテ翌日之ヲ書面ニ認メテ提出セラレ国務省側ニテハ之ヲ回答ト認メ居ル趣ナレハナリト説明シタルニ「ウ」ハ二十三日ノ書面ナルモノニ付テハ大使ヨリ外務省ニ報告ナシ然レ共大使カ国務長官ノ求メニ応シ口頭ノ陳述ニ更ニ書面ニ認メテ提出スルコトハ極メテアリ得ヘキコトニシテ果シテ然リトセハ前顕十一日ノ訓令ニ対シ大使ヨリ改メテ国務省ニ書面回答ヲ為スニ及ハスト上申シ来ルコトナキヲ保セスト言ヘリ

(別　電)

London;

Rec'd., Dec. 28th, p.m.,

*Gaimudaijin, Tokio.

No. 377

Memorandum

On October 24th, 1928, United States Secretary of State discussed with H.M. Ambassador (verbally) an enquiry from the Chinese Minister at Washington as to whether U.S. Legation in China should now be raised to the status of Embassy. At the end of this conversation Mr. Kellogg suggested, quite informally, that it might be useful of principal governments concerned, viz. United States of America, Japan, Great Britain, France, and Italy, could confer in order to see how far they could meet Chinese views with regards to extra-territoriality.

November 22, Sir Esme Howard made verbal reply to this enquiry, both as regards Embassies and extra-territoriality.

He pointed out that His Majesty's Government are trying to deal with the problem of China in constructive way and taking one point at a time, and that for this reason they were dealing with the tariff question first of all as being of the greatest urgency.

They therefore thought it would be wiser to postpone dealing with other questions until the tariff question had been settled.

As regards raising the status of Legation to that of Embassies, this was no doubt one which would arise in due course, but at present it seemed to be altogether premature. His Majesty's Government would prefer that the principal Powers should take action simultaneously, and in any case they themselves would not make any definite change until there had been full and frank interchange of views with the United States, Japan, France, Italy, the other Powers interested.

As regards extra-territoriality Mr. Kellogg was reminded of the offer made by His Majesty's Government to the Chinese Government on January 27, 1927. This offer had been the subject of considerable discussion with China and still stands on record as evidence of His Majesty's readiness to take such practical steps as present conditions may allow.

This offer has been only partially carried into effect owing to great practical difficulties with which any attempt to solve this difficult problem are beset.

His Majesty's Government did not think that an inter-

national conference would carry matters any further than the point to whatever they were themselves already prepared to go, and they doubted whether such a conference would be welcomed by the present Chinese authorities, since their policy, as they have repeatedly declared, is to negotiate with the Powers separately and jointly.

The main points in this enquiry of United States Government and in our reply were telegraphed at the time to H.M. Ambassador at Washington for communication to Japan, though in rather less detail than is given above.

At the close of abovementioned interview between Sir Esme Howard and Mr. Kellogg on November 22, the U. S. Secretary of State handed to Sir E. Howard aide-memoire, of whatever he said that he was going to give similar copies to the representatives of other Washington Treaty Powers.

This aide-memoire mentions that Chinese Government had asked that negotiations be begun on the subject of general revision of the treaties, between the Two countries, with special reference to extra-territoriality.

It stated that the American Government were willing to discuss the subject of treaty revision and had approved the holding of informal conversations between certain of its officers and spoksmen for the National Government; and it enquired concerning the present views of His Majesty's Government.

In reply, Sir Esme Howard was instructed, by despatch dated December 11,to embody in the form of written memorandum the views of which he has already communicated verbally to Mr. Kellogg, so that this memorandum should constitute His Majesty's reply to American aide-memoire. He should add verbally, in communicating this document to the Secretary of State, that his Majesty's Government had no furthr observations which they could usefully make at present.

Foreign Office. December 27, 1928.

Sabri

598　昭和3年12月(28)日　在米国出淵大使より田中外務大臣宛（電報）

中国条約改正問題に関する米国側の照会に対する仏国の回答について

ワシントン　発
本　省　12月28日着

※第四〇六号
往電第三九五号（五九二文書）ニ関シ

二十七日仏国大使ニ面会ノ節同大使ハ本国政府ノ訓令ニ基キ一両日中国務省ニ対シ大要左記ノ趣旨ヲ口頭ニテ回答スル筈ナル旨述ヘラレタリ

支那ノ一般的政情ノ従前ニ比シ可成リ安定シタル事実ハ之ヲ認ムルモ同時ニ国民政府ハ各地軍閥ヲ制御スル実力ヲ有セサル現状ナリ只支那カ近代式政治ヲ敷キ而モ実際ニ於テ治績ヲ揚ケサル限リハ治外法権ノ撤廃ニ応スル事ヲ得ス

599　昭和3年12月(28)日　在中国堀臨時代理公使より田中外務大臣宛（電報）

王外交部長より英国公使に対し不平等条約各事項の撤廃申出について

北　京　発
本　省　12月28日後着

第一七五五号

二十八日英国公使ニ面談ノ節同公使ハ今次南京ニ於テ案ノ如ク不平等条約各事項撤廃ノ件王正廷ヨリ話出テ特ニ治外法権問題ヲ関税自主ニ次テ協議セントノ提議アリタルニ付自分ハ明白ニ之ヲ拒絶シ法権問題ハ英国トシテ最モ慎重考慮ヲ要スル問題ナルニ付先ツ支那ニ於テ裁判及監獄制度ノ改良ヲ計ル必要アルコトヲ率直ニ王正廷及王寵惠ニ語リ彼等モ別ニ反対ノ意思ヲ述ヘサリキ自分ハ其ノ代リ内水航行権問題ヲ含ム一般通商事項ハ本国政府ヨリ条約案ノ送付ヲ受ケ次第館員ヲ南下セシメテ商議ヲ開始スル考ニテ其ノ意味ノコトヲ王ニ含マセ置キタリ又軍隊駐屯ノ話モ出テ王正廷ヨリ右ハ団匪事件議定書内北支駐屯軍ヲ意味セサルコトヲ明カニシタル後自分ハ上海ノ軍隊ナラハ本国ニテハ経費ノ関係上撤退ヲ希望セルモ自分ニ於テ公使ノ責任上上海駐屯軍ハ支那ニ於ケル外国人保護力ノ頼ムニ足ラサル現状ニ

於テ撤退ハ尚早ナリトノ意見ナルコト軍艦ノ問題モ同様ナルコトヲ王正廷ト両人対坐ノ席ニテ淡白ニ打明ケ置キタリ又威海衛ノ問題モ一応打切タル積リナルカ之ハ勿論支那側ニテ問題ヲ提起シ得ル行懸ナルコトハ貴官御承知ノ通ナリト語リタリ

上海、南京ニ転電セリ

600　昭和3年12月(29)日　在中国堀臨時代理公使より田中外務大臣宛（電報）

英中関税条約および付属交換公文成立の経緯に関する英国公使の談話について

北京　発
本省　12月29日後着

第一七五八号

往電[1]第一七五五号（五九九文書）ニ関シ

英国公使ノ談話中既報ト重複スルモノアルモ時節柄御参考迄ニ概略左ニ電報ス

一、輸出入関税其ノ他諸税ニ関スル最恵国待遇ノ保障規定ハ条約第二条以上ノ詳細ナル規定ヲ希望シタルモ王正廷ハ斯テハ支那ハ種々煩瑣ナル条件ヲ付シ漸ク自主権ヲ回復シタリトノ批評ヲ受クヘシトテ肯セサリシ為条約規定ノ代リニ付属交換公文第二ヲ以テシタリ公文第二ノ第一項及第二項ノ文句ハ当初英国側ニ於テ条約改正中ノ文句トシテ用意シタルヲ其ノ儘用ヒタリ

二、自分カ予想外ノ成功ト思フ点ハ公文第三ニ於テ成ルヘク速ニ釐金撤廃ニ着手スヘキ事ノ約束ヲ確認セシメタルコトナリ

当初王正廷ハ此ノ点承諾ヲ躊躇シタルモ当方ヨリ昨年七月会談ノ布告ヲ引証シタルニ対シ殆ト右布告ノ存在ヲ忘却シ居タルモ漸ク其ノ趣旨ヲ確認シ更ニ之ヲ敷衍シタル約束ヲ為スコトヲ承諾シタリ

三、[2]交換公文第四ノ国境関税撤廃ハ日本側ニテハ異存アランモ右ハ支那側ニ責任ナキ英国側ヨリ要請ノ結果協定シタルモノニシテ華盛頓協定ノ結果英国ハ此ノ点ニ重キヲ置ケリ

仏国公使ニ上海ニ於テ質問シタル結果ハ仏国モ撤廃ニ異議ナシトノ答ヲ得テ其ノ方ハ安心ヲ為シ居レリ

四、英領自治植民地ニ於ケル支那国民ノ納税関係ニ付テハ条約第二条ニ於テモ亦公文第二第三何レニ於テモ保障スル処ナシトノ支那側ノ苦情ハ尤トシテ自分ノ同情スル処ナルモ自分ハ王正廷ニ対シ若シ此ノ点植民地ニ協議ヲ開始センカ時間ノ遷延ハ未タシモ議会付議等ノ結果如何ナル故障起ラストモ限ラスト説明シ王モ遂ニ此ノ儘調印ニ賛成セルモ去リトテ他日現実ニ殖民地ニ於ケル支那人差別待遇ノ起レル場合ヲ看過スル能ハストノ事ニテ之等ノ場合ニハ夫々之ヲ取上ケテ問題トスヘキ旨ヲ相互諒解シ置キタリト云ヘルニ付本官ハ右ハ如何ナル形ノ諒解ナリヤト尋ネタルニ公使ハ稍狼狽ノ気味ニテ右ハ勿論単ナル口約ニハ非ス或種ノ文書諒解ナリ之ハ極秘トセラレタシト要請スル処アリタリ

上海、南京ヘ転電セリ